

289-P44-2ウ



1200500732334

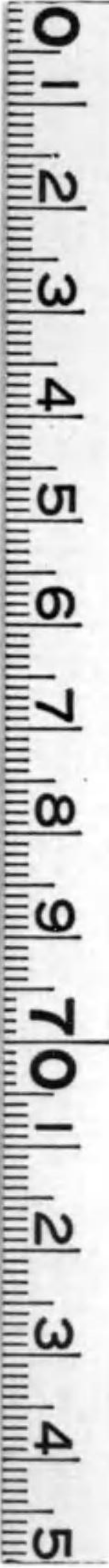
文学博士 小西重直 著

新日本建設と
ペスタ、ロッチー

新教育叢書

— 1 —

西荻書店

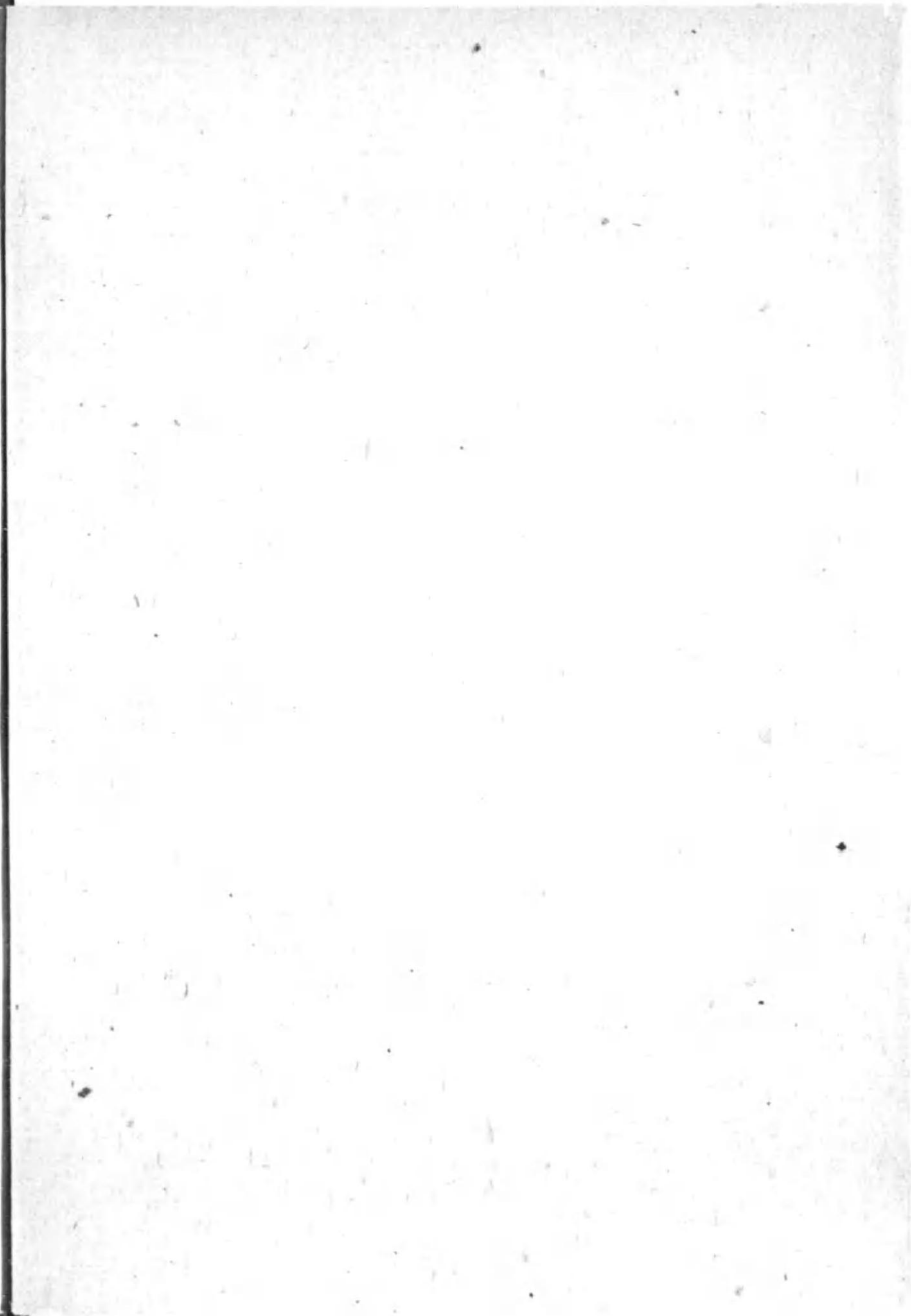


始





A group of people



289

P44-2



文學博士 小西重直 著

新日本建設と

ペスタロッチー

新教育叢書

— 1 —

西荻書店



参考書目

玉川學園版　ペスタロッチー全集六卷

長田新著　ペスタロッチー教育學（昭和九年岩波書店）

福島政雄著　ペスタロッチーの根本思想研究（昭和九年目黒書店）

長田新譯　モルフ——ペスタロッチー傳五卷

（昭和十四年—十六年岩波書店）

ツ・ガン——ペスタロッチーの生涯と其の事業（昭和二年モナス）



自序

昨年の夏頃、私の親しい友達である西荻書店の竹下學士から、ベスタロッチーに關する私の論文を集めて出版したいとの申入れがあつたが、それらは既に私の全集や他の書物の中に取り入れられて公にしてあるので、折角ながら御断りせねばならなかつた。

然るに昨年の初秋十月に、秋田縣内に於ける教員組合の主催で、ベスタロッチー生誕二百年の記念大會が開催され、私もこれに招待され、一場の講話を試みる光榮に浴した。

先生達の熱心な研究と其の發表に對して感動せずにおれなかつた。殊に時局中に偏狹な當局者が、小學校を巡視し、私や長田博士が苦心して持ち歸つたグローブのシユタンツに於けるベスタロッチーを描いた繪畫の額を取り除けと注意したそうで

あるが、今年は、この記念祭を機会に、篤志な寫眞師の奉仕的な骨折りで澤山の複製を作つて、一同で小學校に上掲しようという企てに着手されて居るのを見て、私は非常な感激に打たれ、ベスタロッターの魂が自分の胸に飛び込んで來たような思がした。

秋田から歸つて、私は直ぐと、竹下學士にこの感激は私をしてベスタロッターに關して新に執筆することを決心せしめたと通信した。爾來、一方には七十三歳の老骨なるも糞尿と一體農耕に勵みながら、ベスタロッターの農園の試みなどをも追想しながら漸く脱稿したのが此の書物の原稿である。

ベスタロッター精神は教育界のみで専有すべきものではない、彼のような没我的愛は新日本建設のために絶対に必要である。このために私は「ベスタロッター精神をすべての人に」と言いたいのである。わけても新日本建設の鍵を握る青少年の社

會科其の他の教材として生かして貰うことが出来れば、輝く日本の前途が祝福される。

昭和二十二年九月

於 成城 寓居

小 西 重 直 識

新日本建設とペスタロッチー

目次

緒言

第二章 ペスタロッチー家の家系とペスタロッチーの幼児時代……………三

一、ペスタロッチー家の家系……………三

二、家庭に於ける幼児としての彼……………三

第二章 ペスタロッチーの修業時代と生涯の方針……………七

一、學校に於ける修業……………七

二、社會革新の運動……………二〇

三、生涯の方針……………二三

第三章 ペスタロッチーとアンナの結婚……………二六

一、アンナの家庭……………二六

二、結婚……………二八

第四章 ノイホーフに於けるペスタロッチー……………三〇

一、農業の試み……………三〇

二、愛兒ヤーコブの誕生……………三二

三、貧兒の教育……………三五

四、家庭の苦境と若き女性……………四〇

五、隠者の夕暮……………四三

六、スキス週報……………四六

七、立法と嬰兒殺し……………四六

八、「リーンハルトとゲルツルド」……………四九

九、沈黙十年フィヒテとの會見等……………六二

十、再度の著述生活……………	六七
第五章 シュタンツに於けるペスタロッチー……………	七二
一、其の事業……………	七二
二、犠牲的愛の教育便り……………	八〇
第六章 ブルグドルフに於けるペスタロッチー……………	九九
一、靴屋を校長とする學校に就職……………	九九
二、中流市民學校の教師……………	一〇一
三、新學園の創設と其の實況……………	一〇五
四、巴里行きナポレオンとの交渉……………	一三三
第七章 イヴェルドンに於けるペスタロッチーと其の晩年……………	一三九
一、學園の發足と其の盛時……………	一三九
二、棺箱を前にしての講話……………	一五六

三、皇帝や王侯との會見……………	一六四
四、アンナ夫人の死……………	一七一
五、克蘭デイの貧兒學校……………	一七三
六、學園の崩壞……………	一七九
七、教聖の最後……………	一八〇
第八章 ペスタロッチーの人間觀と其の教育思想……………	一八六
一、其の人間觀……………	一八六
二、母親と子供との關係……………	一九五
三、樹木と教育……………	二〇四
四、生活は陶冶す……………	二〇九
第九章 ペスタロッチーの精神を廻りて……………	二二四
一、愛の教育……………	二二四

- 二、敬虔な精神……………二二七
- 三、基礎教育……………二二一
- 四、生活による教育……………二二五

第十章 獨逸及米國に於けるベスタロッチー精神……………二三四

- 一、獨逸の復興とベスタロッチー……………二三四
- 二、獨立戦争後の米國の教育とベスタロッチー……………二三六

第十一章 我が國に於けるベスタロッチー研究……………二四四

- 一、研究の實況……………二四四
- 二、ベスタロッチー精神をすべての人に……………二四六

口繪 グローブ筆・スタンツ孤兒院に於けるベスタロッチー

新日本建設とベスタロッチー

緒言

愛は力行苦難のうちに光明を見る。
 愛は耐え忍ぶうちにも疲れを感じない。
 愛は激せず、一切を宥し、粗暴に振舞わない。
 愛は自負に陥らず、謙抑にして、放縦に流れない。
 愛は太陽の如く公平なり、正しきを支持し、正しからざるを正しくする。
 愛は親心である。自らのためにせず、他のための犠牲を犠牲と思わない。
 愛は眞理を樂しみ、一切を育ぐくむ。
 愛は希望であり、信仰である。希望は人間を向上せしめる。信仰は叡智の源泉であり、一切

の教育、一切の文化の母體である。

(ベスタロッチの言葉と其の意味から)

愛は絶對者の生命であり、萬物の生成發展の力であり、萬物化育の根源である。教聖ベスタロッチの生涯は實に愛其のものによつて一貫されて居る。彼は愛によりて母國スキスを救うことに一生を捧げた。そして其の精神と努力とが、ナポレオンに擊破された獨逸再興の力となり、獨立戦争後の米國の初等教育の基礎を築き、英國の幼兒教育の發展を促し、佛國の社會事業を振興した。露國の皇帝は彼の熱情に感動し、世界の國民教育は彼によりて革新され、人間の淨福は彼によりて増進した。彼は實に、哲人フイヒテが彼を禮讃せるように、母國スキスを救わんとして、世界人類の救済主となつたのである。

彼の教育愛、人間愛の精神は過去の歴史として死んで居るものではない。それは永遠の眞理として生動し活躍しているのである。新日本建設の基礎工作に對しても大きな意義をもつものであり、われ

われは其の大きな意義を發揮し體現することに力めたいものである。

彼の全集は十數巻數千頁に達し、一流思想家にも劣る所はない。而もその思想は思想のための思想ではない。人間救済に關する彼の熱情と努力の體驗に基ずく所の血潮の滴りである。「すべてを他のために、毫も自らのためにせず」という彼の墓碑銘は、愛の權化としての彼の生涯を物語るものである。

われわれはまず、變化に富める彼の生涯のうちに、歡喜と憂苦との交響の生涯のうちに、天日の輝きと風雨の嵐との交錯の生涯のうちに、彼は如何に人類救済の希望と熱情に燃え、全能力をそれに傾注せるかを見ようと思う。



第二章

ベスタロツチー家の家系と

ベスタロツチーの幼児時代

一、ベスタロツチー家の家系

ベスタロツチー家の祖先は伊太利の北部コメル湖畔のグラヴェドナという所に住んでいた。第十三世紀の終り頃に、此處から、コメル湖に注ぐメイラ河畔のシャヴェンナというスピスの國境に近い場所に移住した。シャヴェンナに住んでいたバオロ・ベスタロツチーという人は町の参事會員としての役を勤め、舊教から新教に改宗した熱心な信者であつた。其の孫のアントニオ・ベスタロツチー（千五百三十四年生）という人は矢張新教の熱心な信者で、信仰の自由を味い、且つ學問をする便宜の上から、スピスのチューリヒに移つて來て、千五百六十七年に市民權を得た。彼は、新教に改宗したためにロカルノから追放されたマダダレーナ・フォンムーラルトという婦人と結婚し、此の家からアン

ドレアス・ベスタロツチーという牧師が出たが、この人は教聖ベスタロツチーの祖父である。アンドレアスの子にヨハン・バプティスト・ベスタロツチー（千七百十八年生）という人があつて、外科及眼科の醫業で生活を立てておつた。彼はスザンナ・ホッツという婦人と結婚した。この婦人はホッツ將軍の姪であつて、相當の家柄に生れたのである。この二人の夫婦は教聖ベスタロツチーの父母である。

教聖ハインリヒ・ベスタロツチーは千七百四十六年一月十二日に、（徳川九代將軍家重の時代）この父母の次男としてチューリヒに生れたのである。彼の兄は彼より一歳上で、彼の下には二三歳下の妹があつた。元來七人の兄弟があつたが四人は死し、三人だけ残つた。兄は三十五六歳の頃に米國へ渡つたが、其の後の消息は不明である。妹は獨逸のライプチヒの商人と結婚し、其の緣故で教聖ベスタロツチーも獨逸へ旅行したことがあるのである。

二、家庭に於ける幼児としての彼

ベスタロッチーの父は三十三歳の短命でこの世を去つた。其の長男は六歳、教聖ベスタロッチーは五歳、妹は父の死んだ年に生れた乳呑兒である。三十歳の若き妻スザンナはこの三人の遺兒を女性の手で育てねばならぬ運命となつた。夫の残した遺産も僅かのものであつて、自分で働くだけの力もなく、前途は眞暗闇であつた。

神は五歳の幼兒ベスタロッチーを人類救済の教聖となさんが爲に、この薄命の家庭に天使を天降らしめた。それは實に世にも稀れなる敬虔な忠實な女中のバーベリーであつた。

彼女はベスタロッチーの父が死ぬ二三月前に女中奉公をするために雇はれた田舎娘である。父は彼女に心から信頼した。其の臨終の床に於て、彼女に祈り彼女に頼んだ。妻と三人の遺兒を世話してくれと御役に立つたら、死ぬまで奉公致しますとの答を聞いた父は安心して永久の眠に入つたのである。彼女は其の約束を守つて、死ぬまでベスタロッチー家のために盡くした。あらゆる困難を克服し忍耐と献身と聰明のすべてを絞り出して一家を支え、遺兒の養育に力めた。ベスタロッチーは其の當時を回想して、これは實に彼女の素朴な、敬虔な信仰の賜であると感謝して居る。

彼女は僅か二三錢安價な野菜や果物を買うために、二三日も市場へ行つて、商人が店を閉ぢる間際に、捨賣りするのをねらつて買つてくる程節約に力めた。子供等が別に用もないのに町に出たがたりすると、着物や靴を損じてはいけない。あなた方のお母さんはあなた方をそだてるために、何週間も何週間も、何處へも出かけられない。あなた方のために一錢の御金でも儉約されて居ると戒めた。併し母もバーベリーも世間的な體面上に關することには支出を惜まなかつた。クリスマス等の贈物などには少しも節約はしなかつた。子供達は何時立派な晴着をもつていて、日曜日に教會へ行く時や、用事があつて外出をする時には、晴着を着て行くが、家に歸ると直ぐに脱がされる。前以て來客があることがわかつておれば子供達の室は客間として綺麗に飾られたものである。

斯くて、ベスタロッチーの家庭は心ばせのよい、しとやかな母と敬虔忠實なバーベリーとの女性に守られ、男性的な雰圍氣に缺けていたのであるが、愛、感謝、信頼、信仰、忍耐、献身などの氣高い精神の温床であり、ベスタロッチーを教聖たらしむる苗床となつたのである。而もこれ等の氣高い精神の幼芽は母性愛と子供との間に發芽するものではあるが、其の本質に於ては、男性や女性という性

別を超越し、人類の發展一切の文化發展の母體である。

第二章 ベスタロッチーの修學時代と生涯の方針

一、學校に於ける修學

ベスタロッチーは、其の學校生活に於ては、初めは普通の市民の子弟の入る小學校に入り、次に中流以上の稍高級の子弟が經營するラテン學校で學び、最後に其の當時の最高學府に於て、十九歳頃まで、約三ヶ年間、神學、言語學、哲學等を修めた。

人間救済の幼芽は、其の少年時代に於て、已に發芽しておつた。彼が九歳の時、チューリヒに相當強烈な地震があつた。彼が學んでいた學校では、先生は生徒の頭を踏み越えて戸外に逃げ出し、生徒もわれ先きにと校庭へ走り出た。帽子や書物を教室に残し置いたままである。併し誰れも教室に戻つてこれを取つて來るものもない。この時、常に「馬鹿者の不思議ものハイリ（ハインリッヒ）」と綽名をつけられていたベスタロッチーは地震の餘震をも怖れずに、平氣で二階の教室へ行つて、友達の爲

に其の帽子や書物を取り出してやつた。

彼が其の晩年の著述「白鳥の歌」に於て幼少の頃の性格を追懐して居る記述を見ると、彼は或る意味に於て、まことに天才らしい性格を現はして居る。彼は或る種の事物については非常に熱い興味を感じているが、自分が愛好せるものと關聯のないものに對しては極端に不注意であり冷淡であつた。感情に訴えるものについていえば、速かに烈しく刺激され、其の印象は深く心に喰い入つて頭腦をも明晰にし、容易に忘れることが出来ないが、持続的な冷靜な注意を要する事柄に對しては、たとえそれが重要であり陶治的なものであつても、深い印象は受け得なかつたのである。想像力も旺盛であつて、其のために、たとえ知識的に、技術的に、教養の僅かあるものでも、苟くも感情的に心情的に興味を感じない場合には、甚だ冷淡であつた。自分の熱慮、自分の沈思、自分の注意、用心など修練に必要なものに對して冷淡であつたので、幼少の頃から随分不注意で、散漫で、無思慮であつた。これ等のことは彼自身の生涯の運命の上に大きな影響を興えて居ると述懐して居る。彼は晩年、自分には歴史がないというて居るが、彼は一面には健忘的であつた。幼少の頃より、如何に熱望したことも

又は如何に怖しく感じたことでも、二三日の後にはスツカリ忘れてしまつて何事もなかつたように淡々となるのである。自分自身の幸や不幸に對しては全く強い印象を感じなかつたのである。自分自身の幸不幸に關しては健忘的であつたが、人間救済の事に關しては二六時中、生涯の問題として考え込み、其の實行に力めたのである。其のために如何に苦しい目に逢つても、如何なる困難に直面しても、其の苦難の印象を直ぐ忘れて了うのである。人間救済という積極的な理想希望實現の仕方などがそれからそれと心の中に燃え上つて來て、苦難の印象を直ちに焼き盡くし、快活明朗な氣持で前進するのであつた。

學校に於ける學科なども、眞の事物の本質については能く理解し、それが現わす形式上のことに於いては餘り頓着しなかつた。習字とか綴方とか、圖畫などは甚だ不得手であつた。音樂の價値を非常に高度に認め、彼の新學校に於ける重要な學科となしたのであるが、彼自身は其の方の技能に缺けていたのである。希臘語などは殊に堪能であつて、先生の翻譯などを手傳い、眞の情熱と、言葉遣の生き生きしている點などは、先生のものより遙かに優つていたのである。

二、社會革新運動

110

彼が在學していたラテン學校に於ける、生徒教育の目標は、獨立自營、慈善、犧牲的精神というようなものであつて、彼はこれ等の影響をも受け、富力とか、名譽とか、外形上の威信というようなものを輕視するようになった。祖國スキスは眞の祖先のもつていた簡素、質朴、品位、誠實などの良い點を失つてゐることを痛感し、昔の希臘人や羅馬人の立派な生活をスキスにも復活したいものであると、色々な夢を描いていたのである。

殊に、彼が在學した最高學府に於ける教授の中には、當時の青年に非常なる感化を與えた立派な人がいたので、ベスタロッチーもこれ等の先生から大きな影響を受けてゐる。チンメルマン教授は神學の擔任であつて、眞理を愛し、情愛に充ち、公示明敏、敬虔な性格で、ベスタロッチーが入學した時は他校に轉じたが、此の人の精神は尙殘つて學生薰化の力となつてゐた。希臘語と、ヘブライ語の教授ブライティンガーは從來の、文法などに捉われて居る教授法を排し、精神陶冶に重きを置き、學生

を自分の子のように世話をなし、學生からは父のように慕われ尊敬されていた。殊にボードマーという歴史や法律などを教えていた教授は常に自由正義の精神に基き、侃々諤々の正理を吐き、而も情愛に厚い人格者であつた。彼の影響によつて學生の間に社會革新の運動が起り、毎週一回位政治、歴史、教育などに關する自作の論文等を持ち寄つて互に意見を交換し、祖國革新の夢を物語つてゐた。この仲間には後日詩人として名高くなつたラヴァーターや純情明敏の青年ブルンチュリーや、ベスタロッチーの妻となつたアンナや其の弟のカスパール・シエルテスなどがあり、ベスタロッチーも此の仲間のも最も熱烈な一人として活躍してゐた。

其の當時、スキスは十三の共和的獨立縣に分たれ、各縣には中心城市があり、此の都市に住む少數の貴族が會議制によりて專制政治を行つてゐた。市民は多少の權利を認められ、商業などについて有利な地位にあつたが、田舎の農民は全く壓迫状態に呻吟し、悲惨な生活を送らねばならなかつた。斯かる状態であつたから、貴族と市民と、市民と農民とが對立し、其の間に時々紛争も起つたのである。ベスタロッチーのような純眞で熱情のある青年が、祖國革新、社會生活の改造、被壓迫者の開放

という社會革新の運動に熱心になることは自然の情勢であると見るべきである。彼等は單に理論的に思想的に研究していたに止まらず、革新の熱情は實際の政治問題にも關係するようになった。例えば次の問題の如きは其の一つである。

千七百六十二年、ルソーの故郷であるジュネーヴの政府は巴里の議會に共鳴し、ルソーの著述「エミール」と「民約論」とは、すべての政府の崩壊を圖り、基督教にも反するものとして、彼に有罪の判決をくだし、故郷に居住することを許してはならないと決議した。これに對してジュネーヴの市民は反對した。政府は、佛蘭西や、スキスのベルン及チューリヒの政府に助力を求めた。ベスタロッチーの住んで居るチューリヒの政府當局は、ジュネーヴの市民に反對して其の政府當局を支持し援助した。この時ベスタロッチーの恩師ボードマーはルソーに同情を表し、チューリヒ當局の措置に憤慨し、わけでもベスタロッチー等の社會革新運動の青年は當局に對して大に反對の氣勢をあげたのである。ミュラーという若い神學者が、ジュネーヴの市民に同情し、その政府に反對をする態度で「農民會話」というものを書いたのであるが、これは不穩文書であるといふので、チューリヒの當局者は其執

筆者を捉えようとした。此の時ベスタロッチーは此の事に關係あるものとして、罪にはならなかつたが、三日間拘留されたこともあつたのである。彼は友人と共にミュラーに自首することを勧めたが、ミュラーは秘かに逃亡してしまつたのである。ミュラーは後日獨逸の文化中學の教授になり、又二十五六年後には赦を得てチューリヒに歸り、ニーベルンゲンの歌の最初の出版者として名高くなつた。

三、生涯の方針

彼は會つては牧師たらんとせしも、それには適しないことが分り、又法律の研究へと志ざしたが、熱情的の彼にはそれも適しない。彼は矢張、彼の天賦の人間愛の精神で行くより他には途がなかつた。彼は幼少の頃にチューリヒ附近に住んでいる其の祖父である牧師の家を度々訪づれ、田舎の農民が如何に窮乏なみじめな生活をなして居るかを目撃し、幼な心にも窮民に對する同情心が起つていたのである。それにボードマー教授などよりの影響もあり、社會の革新、農民生活の向上、貧民の救済というような社會事業のために盡くすことが、自分に最も適した仕事であると信ぜざるを得なかつ

た。それに社會革新運動の青年達の熱心な少數の仲間が、時々會合して、社會改造に關する討究をなしつつある間に、彼の天性としての人間愛の精神は益々其の熱度を高めたに相違がない。又其の思想的方面に於てはルソーからの影響は餘程大きなものであつた。

彼の自叙傳ともいふべき「白鳥の歌」に於て、彼はルソーからの影響を述べている。教育革新の書であるルソーのエミールを読んだベスタロッチーは非常な反省に沈み、大きな感激に打たれた。大哲カントは常に規則正しい生活をなし、毎日一定時間の散歩をなしていたのであるが、エミールを手に入れた時は、三週間散歩をやめて、これを読み耽つたといわれているが、カントは哲學者であつて、實際家ではなかつた。恐らく、エミールに於ける思想的のものについて興味をもつたのであろう。併しベスタロッチーは冷靜な思想家ではない。常に人間救済の熱情に燃えていたのである。彼はエミールを読んで、自分が通つた學校の教育など、エミールの教育とを比較し、其の當時のすべての家庭の教育や一般の學校教育は全く畸形的のもので、ルソーのように子供の自然性の發達や、自發活動に基づいてこれを革新せねばならないと考へた。カシルソーとはまた立場を異にして家庭教育を一切の教

育の基礎とするに至つた。これは後章に於て詳しく述べることにする。又ルソーの民約論に於ける社會革新の精神にも共鳴し、祖國スキスに於て實行すべきことなどについて空想を恣にし、これ等を研究せんために法律を修めようとも思つたのである。併し彼の愛國運動の親友ブルンチュリーが其の死の瞬間に、ベスタロッチーに忠告し、君は、沈着冷靜、人間や事物の知識に富み、眞實の心を以て君を助ける人をもたない限り、大規模の事業を企てはならないと言つたことなどを思い浮べ、法律の研究よりは、靜かに人間の家庭生活の改善を圖り、子女の教育の革新に力めるような地味な仕事に興味を起すようになった。これは實に彼が生涯の事業となつたのである。併し彼は熱情的な血の氣の多い青年である。何か、もう少し活氣ある仕事によつて、人間救済の理想を實現して見ようと企てたのは無理もないことである。彼自ら言つて居るように、熱狂的盲目に於て突然農業に身を捧げることによつて、此の目的を遂げようと決心するに至つた。

彼の農業經營について述べる前に、彼とアンナとの結婚問題について語つて置きたい。アンナは彼の事業に對して熱心な協力者であるからである。

第三章 ベスターロッチーとアンナの結婚

一、アンナの家庭

チューリヒに香料や菓子の商賣を手廣くやつているシュルテスという實業家がおつた。彼は若い時に、獨逸、和蘭、佛蘭西などへも旅行し、商賣の上に於ても、廣く外國との交渉をもつていた。親切な人物で、世間からも尊敬されていた。ベスタロッチーなどの愛國青年と時々會合していたカスバルシュルテスは其の三男で、後には牧師となつた。この家の長女でカスバルの姉にあたるアンナこそはベスタロッチーの妻となつた名高い婦人である。彼女は千七百三十九年の生れで、ベスタロッチーよりも七ツ年上である。アンナの父は事業家で而も教養もあり、詩人なども此の家に入出し、一家の雰囲気には文化的なものがたゞよつていたのである。それに父の商業上の關係から、アンナもスويس國內や、外國までも旅行して見聞を廣め、佛蘭西語などにも熟達していたし一家の雰囲気や、社會見學

は彼女の高い教育に、うるおいを與え、聰明さをつけ加えた。而も彼女は自然に恵まれた氣品の高い美貌の持主であつた。今残つている肖像畫は彼女の六十五歳の時のものであつて、落つきがあり、深味があり、そして多少沈うつに見える。ベスタロッチーは衣服などには無頓着で、學動にも落ちつきがなく、容貌も甚だ醜いものであつた。二人は其の性格に於て相當の違があつたが、それが却つて二人を結びつけ、ベスタロッチーはアンナによつて自分の缺點を補つて貰うことが出来たとも思われる。而も社會の革新、人間救濟への努力、神に對する堅い信仰という點に於て、二人は本質的に一體であつたのである。ベスタロッチーが幼少の頃、アンナの家へ菓子を買いに行つたことがある。彼よりも七歳年上の少女が出て来て、菓子を與えずに、無駄遣すべきではないと諭した。これが即ちアンナであつたのである。恐らくベスタロッチーは生涯の間、最愛の妻としてのアンナから沉着な聰明な諭しを受けたことであらう。社會の革新、人間救濟への努力、神に對する堅い信仰という點に於て、二人は全く一體であり、神は神の意志を此の世に於て實現すべく、二人の間の媒介者となつたものであらう。

二、結婚

二八

社會革新運動の青年の仲間に、アンナの弟カスバルの友達でブルンチュリーという純情で、明朗で親切な上品な青年がいた。アンナの家はこれ等青年の集會所であり、ベスタロッチーもこゝに出入していたのである。然るにこのブルンチュリーは病氣のために亡くなつた。平素此の青年を尊敬し、またこれと親んでいたアンナの悲痛は非常なものであつた。ベスタロッチーも其の益友を失つて大に力をおとした。ブルンチュリーの死に對する兩人の同情と悲嘆とは、アンナとベスタロッチーとの精神上の理解を促進し、遂に愛情にまで發展するに至つた。

斯くして千七百六十九年即ちベスタロッチーは二十三歳、アンナは三十歳で結婚したのであるが、それまで約二ケ年の間に於て、兩人の間に書簡の往復は極めて頻繁なものであり、ベスタロッチーからは約三百通、アンナからは約二百通といわれている。これは青春の男女の間の戀い文ではなく、御互に其の性質の長短を懺悔したり、人間救濟への熱情の交換であるとも思われる。

私が田舎で、一人の同胞の子供が立派な心もちながら、生活に窮しているのを見たならば、此の子供を自分の手許に招いて、これを一人前の市民に育て上げてやろう。其の子供や家族の境遇如何によつては、私のパンのすべてを與え、自分は水を飲んで我慢しよう。自分のミルクをも彼に與えて、自分は水のみで生活して見よう。あなたも此のことを喜ぶだろう。

これはベスタロッチーがアンナに送つた手紙の一節である。

神の媒介による二人の結婚については、アンナの兩親は、初めは反對した。ベスタロッチーは將來、どんなものになるだろうといふ不安からである。親心としては當然なことである。併し、兩親は二人の間の熱情にも同情し、強いて反對はしないということになり、「お前は水とパンとで満足しなければならぬようになるだろう」とは結婚に送り出したアンナの母の饒別の言葉であつた。愛人の豊かな心の糧に信頼するアンナは、生涯水とパンとで満足し、愛人と共に神の仕事にとりかゝる決心を以つて結婚の式場に臨んだのであつた。其の後アンナの兩親も、新夫婦の仕事を理解し、積極的に少からざる援助を與えることになつたのである。

第四章 ノイホーフに於けるベスタロッチー

一、農業の試み

ベスタロッチーは、農業を試み、其の改善によりてスキスの憐れな農民を救済しようと決心した。先ず、其の準備として千七百六十七年即ち二十一歳の時に、チッフエリーという農業家の許へ行き、約一ヶ年ばかり、彼と共に耕作を試み、色々の點について熱心に見學したのである。こゝに於て明るい希望と確信とを以て、自ら農場の經營に着手せんとして、先ず、レッチンという地方に土地を買い求め、其の附近のシュリーリゲンに相當廣い住宅を借り受け、愈々農業に着手し、主として茜草やいがえんどうを栽培し、日常の野菜なども作ろうと計畫した。この間チューリヒから母もやつて来て色々と手傳をしたのである。併し内外の用事が仲々多く、早くアンナと結婚して其の助けを得ねばならぬ情勢となり、前に述べたように千七百六十九年の九月、即ちベスタロッチーの二十三歳の時に數

名の友達の列席の下に教會に於てめでたく擧式されたのである。

これより新夫婦は日夜農業に熱中し、神に祈り、神の恵みの下に、幸福な多忙な生活を送つた。親族や友達などの訪問も多く、殆ど毎日、來客に食事を呈するというような譯で、出費も相當なものであつた。併しアンナの兩親の援助などもあり、借家住を止めて、自分の住家を新築することとなり、千七百七十一年の春はこの新しい家に移り、これをノイホーフと名づけた。新しい住宅という意味である。資金其他の事情で設計通りの家も出來ず、甚だ不完全なものであつたが、伊太利風の別荘のような氣持のよい質素な百姓家であつた。彼はこゝに引續き二十七年の歳月を送つた。其の間、農業や、貧兒の教育や、世界的に名聲を博した教育小説等の著述なども皆この家で行われ、千八百二十五年八十歳の時、イヴェルドンの學校を閉鎖して隱退せる場所も思い出深きこの住家であつた。波瀾の多い彼の生涯の綠地であつた此の住家は、彼の歿後三十年に不幸にも烏有に歸した。併し彼の魂は廢墟のうちに永久に其の呼吸を續けて居る。

さて、彼の着手した農業はどうなつたか。其の買入れた土地は石が多く、瘠せて居り到底耕作に

適していなかつた。其の使い男も不良なもので、徒らに多くの経費のみを要して、借金が増すだけである。紡績車などを据えつけて見たが、これも成功しなかつた。畢竟彼は深い思索に耽る人であり、美しい感情の持主であり、人間愛の心に充ちて居つたが、實社會の事情に疎かつたのである。人間救済の中心地としようとしたノイホーフは貧窮と嘲笑の家となつたのである。

二、愛兒ヤーコブの誕生

ベスタロッチー、二十五歳の八月に、其の愛兒ヤーコブが生れた。此の頃は彼の經營する農園は、妻アンナの弟や、援助者の銀行家などが視察に来て、其の成功を疑い、銀行家は一時手を引くというよな情勢であつた。此の曇つた空氣の中にヤーコブが生れ、この喜びによつて、新夫婦は再び天日を仰ぐ氣持ちとなり、熱心に神に祈り、神に感謝するのであつた。そしてヤーコブの五歳の一月二十七日から、育兒日記を記して居る。ベスタロッチーの教育主義としての自發性の教育や、直觀教育などが實施されている。日々、の行爲を通して知が養われ、行が正しくされる。發展しながら反省も伴う

間隙が充たされるまでは前進しない。一つの事が完成されなければ、次の事には移らない。すべてを完全に、すべてを秩序の中に、自負を斥け、すべてを眞理にまで、小鳥が囀り、木の葉に虫が鳴く時は、汝の言葉の練習を止めよ、小鳥や虫は汝よりも遙かによく教えて呉れる。自由を束縛することは子供の心に嫌惡の情を植えつける。併し従順なしには如何なる教育も不可能である。自由は善であり従順もまた善である。ルソーは此の二つを分離したが、われわれは此二つを結合せねばならない。併し氣儘な命令には従順は伴わない。われわれが子供の信賴を得、子供の喜びにはなくてはならぬものとなる時に必然なものに従順となり、従順は必然に起り、義務と従順は子供にとつて喜びとなる。子供に自由と、平靜と、沈着を與えるあらゆる能力を尊重せよ。事物の内面的自然性を通して教えられるものを、單なる言語で教えてはならない。子供をして自ら見させ、聞かせ、發見させ、倒れさせ起き上らせ、迷わしむるもよい。すべて行動行爲が可能である間は言語を用いるな。子供が自分で爲し得ることは自分でこれを行うようにすべきである。自然は人間よりも一層よく教えるのである。これ等は彼の育兒日誌に記された主なるものである。ベスタロッチーの教育思想は早く已に此の頃

から其の輪廓が現われて居る。ルソーの影響もあるが、其の補正もあり、殊に彼自ら子供を観察し、其の性情を實際に認知し、これに即して教育を試みたことは單なる思想家ではなく、教育者としての彼の特徴である。

愛兒ヤーコブは、中等程度の教育を受け、父の友人が支配人であるバーゼルの某商館に見習奉公をなしたが、病弱のため二十歳の時にノイホーフに歸り、其の翌年は結婚して、一女一男が生れた。併し彼は病弱がつゞき、遂に千八百〇一年三十一歳で亡くなつた。其の長女も七八歳で亡くなり、其の長男ゴットリーブは、祖父のベスタロッチーの歿後約十年即ち千八百三十六年に三十九歳で亡くなつた。

可愛い我が子ヤーコブに先き立たれた母のアンナは其の日記に於て次のように記して居る。

……身體が次第次第に弱り、痛風の發作が強く起り、舌はもつれ、記憶は弱められ、個々の言葉は發し得ても、談話することは殆ど出来なくなつた。併し、自分は慾目から、彼は尙しばらく生きるもの、と思つたが、安らかな死によつて、自分の許に招き給うのが神様の御心であつ

た。彼の墓に平和、神様の安らかな平和あれ、彼及び私達から去つた靈に神の憐みあれ。愛する我が子よ、神様がお前にお前の耐えた苦しみのために美しい豊かな償いを贈り給わんことをそしてお前を心から深く愛した私達を餘り長くお前から引きはなし給うことのないように。父はブルグドルフで大業をはじめ、お前の最後に間に合わなかつた。私もまたお前はなお大丈夫だと思つたので、臨終の床近くいることが出来なかつた。併し神様の御恵みによりて、私は床の上で天使の姿になつて居るお前を見て、口には言われぬ程の喜びを感じた。お前の顔とお前の口とは神の慈愛の證明であり、また神がお前を招き給うて天使になした證據であつた。永遠に神様を尊敬し、神様に感謝せねばならない。

三、貧兒の教育

模範的な農業經營によりて憐れな農民を救済しようとして失敗に終つたベスタロッチーは、兼ねて考へていた貧兒の教育をはじめ、愈々直接に人間の救済に取りかゝつた。

當時スミスには、慈善事業もあつたが、貧民の扶養は單に目先の窮状を救うのみで、却つて依頼心を増長するだけである。眞實の救済は、貧民自ら自覺し奮起して、自ら自分の生活を立て直し、社會に於ける各自の義務を果たすことが出来るような、人間の根本的な精神を啓培せねばならない。彼はこの信念に立ちて、自分の農場を、教育的農業、農業的教育というように、教農、農教一體の中心としようと企てた。

彼は自分の家ノイホーフを貧兒の學校となし、五十人許りのものを收容することを目標としたが、とりあえず、附近の村の家から、田舎の路傍から、十數名の貧兒を拾い集めて、其の教育に着手することになつた。これは千七百七十四年で、ベスタロッチーの二十八歳の時である。

彼はこれ等の子供に衣服や食事を與え、晴天の日や、夏の時節には、彼等と共に農場に働き、雨天の場合や冬期には彼等をして糸を紡がせた。これ等の勞作勤勞の際に、又は其の間に聖書や、話し方や、書き方、計算などを教えて、宗教的、道德的、知的の諸力の發展を促がすことに力めた。動物的な生活に陥らないように、又美服をつけ豪華な生活をなして、市民や人間としての義務を盡くさない

所の人々の如く、人間の道をふみはずさないようにと注意した。而もこれ等の大家族に於ける中心の精神、これ等の教育上の中心の精神は愛である。神は親であり人間は其の子である。神はわれわれの親であるといふことを言葉で教える前に、ベスタロッチー自ら彼等の親であるということを経験せしめようと力めた。彼は實に彼等貧兒の親としての愛情を注いだのである。

斯くして一ケ年許りのうちに、立派な成績が擧がつて來て、ベスタロッチーも非常に喜んだのであるが、他方には經營上の困難が迫つてきた。自分や子供達がいくら働いても、それはこの大家族の生活を支えて行くだけの財力を生むことは出来ない。そこでベスタロッチーは志士仁人に訴えて、經營上の援助を求めた。イーゼリンという篤志者が現われた。イーゼリンは獨逸の大學で法律を修め、一時は官吏ともなつたが、其の當時は社會革新の指導を以て任じ、定期發刊誌をも發行していた。そして千七百七十六年の一月に其の新聞紙上に、ベスタロッチーの起草せる「人道の友に訴う」という一文を掲載して呉れた。これに動かされて、ベルンの商業組合などから、また個人の仁人から、若干の寄附も送つてきて、漸く事業の進展を見ることが出來、ベスタロッチーも元氣を回復し、將來は百名

許りの貧兒を收容しようとの計畫を立てた。千七百七十八年の春には三十七名許りの子供が居り、ベスタロッチーは一々彼等の健康状態や、仕事の能力や、性格などについて、個性的に調査し、それに應ずる適性教育に力めた。職員の數もだんだん増加して十四五名となり、子供の數は一時は八十名にも達したのである。併し子供の親達には不心得のものもあつて、子供が着物を貰い、仕事を覺える子供を連れ出したり、子供達のうちにも放浪生活に慣れたものは、此處を逃げ出すこともあり、それにベスタロッチー自身は、經營上の能力が乏しいので、再び經濟上の困難に陥つた。また子供を連れ出す親は、自己辯護のために、ベスタロッチーの悪口を世間にふりまく、というような譯で、内外兩面に於て苦境に立つことになり、千七百八十年に、これを閉鎖せざるを得ないことになつた。事業開始以來六年である。妻アンナの財産も盡く消耗し、殆ど破産に陥りかゝつたが、債權者や友達の厚意によりて、漸くノイホーフの新住宅と土地の一部だけが彼の手に残つたのである。

彼の貧兒教育の事業は、其の經營上の經濟方面に於ては失敗に終つた。併し世間はいくら彼を嘲笑するとも、彼の事業の精神方面に於ては、たしかに有識者の注意を喚起した。殊に彼自らは、經濟的

に成功すれば、體驗し得ない所のものを、其の失敗によつて體驗することが出来た。彼の見解と努力其のものについては益々強く確かな信念を固めた。又自分の事業について世間の人々が如何に考え、如何なる態度をとるかということについて其の眞實なものを體驗したのである。經濟的には、失敗であつたが、精神的には確信を得、光明を認めることが出来たのである。

彼の友達も多くは、彼は最早再起は覺束ない、養老院か癲狂院かで生涯を送るより他はないであろうと冷やかな憐みを表したのであるが、彼自らは其の本質である神性を氣高く發揮して居るのである。

基督を信する者は、自分の財産を、自分自身と同様に自分の兄弟同胞の幸福のために提供すべきである。崇高な謙遜を以て神や隣人のために一身を捧ぐべきである。自分の財産は自分の權利ではない。神から自分に委ねられた贈物であり、愛に奉仕するために神聖に管理するように自分の手に置かれたる贈物である。

これは殆ど破産に類せるベスタロッチーの、心の内奥から自然に現われた聖なる言葉である。彼は

自己破滅の瞬間に於てさえ、人間救済のために、神性の燦然たる光明を放出したのである。

四〇

四、家庭の苦境と若き女性

経済上の問題で、貧兒の教育を中止せねばならぬようになったベスタロッチーは、其悪戦苦闘のために心身全く疲れ果て、物心両面に於て夫の仕事を助けた妻のアンナは病の床につき、子供のヤーコブはまた病弱であつた。家には餘財がなく、パンや野菜を買うことが出来なかつたのも一二回には止まらない。たとえ彼等の人間救済に對する一念は光つていても、其の家庭の生活は全く暗雲にとざされた。

神は教聖を見棄てなかつた。一人の天使が天降り、光明は暗雲を拂いのけた。親子三人は救われた。

何處からともなしに突然十八歳の若き女性が訪れて來た。それはエリザベート・ネーフである。彼女は社會的にも地位の低くない家庭に生れ、或る家に奉公していたが、主人が亡くなつた。偶々ベス

タロッチー家の困窮の有様を耳にし、これを助けるために來たのである。神様から送られたのである。ベスタロッチーは其の義侠の精神に感激したが、自分達の困窮の生活の中に彼女を迎え入れることは餘りに勿體ないので、其の厚意を固く辞退した。併しこの不幸な家を救う一念で、神様の御使として天降れるエリザベートは再三再四ベスタロッチーを説得したり、懇請したりして、漸く其の承諾を得た。この敬虔な若き女性は祈りを捧げ讚美歌を口ずさんだ。「あなたはわれわれのために、氣を悪くするかも知れないが、われわれの家にも神様が在すことはあなたに直ぐ分るでしょう」とはベスタロッチーの答であつた。

斯くて若き女性のエリザベートは、家の中を清潔にし、農園に出でて自ら野菜などを作り、食卓には久しぶりで新鮮な野菜が現われ、病弱のヤーコブも段々と健康を恢復し、ベスタロッチー夫妻も憂鬱から解放され、一家は再び其の明朗さをとり戻した。エリザベートは引きつゞき二十餘年の間、敬虔な奉仕をなし、千八百二年に結婚したが、其の後も、イヴユルドンの學園などに於て、アンナに代りて内政を助け、園兒からも非常に親しみ慕われた。實に前後四十年の間ベスタロッチーのために力

を盡くしたのである。

彼女に對するベスタロッチー夫妻の感謝と讃嘆と感激とは測り知れぬ程であり、ベスタロッチーは其の教育小説「リーンハルトとゲルトルード」に於て理想の女性として描出せるゲルトルードは實にこの天使のようなエリザベートをモデルにするにあつたのである。「彼女が私の死んだ後に、私自身よりも一層遙かに尊敬されるといふことを、若し私が知らなければ、私は墓場の中でもがいても浮かばれまい。天國に入つて救われまいであらう。彼女がなければ自分は已に死んだことであらう。……」というほど彼女を禮讃するベスタロッチーの言葉を聞く時は、われわれもまたこの世界的な教聖の苦境を救つて呉れたエリザベートの親心に感謝せずには居れぬのである。

千八百二年四十歳の時彼女が結婚せる相手はマティアス・クリュージーという人で、ベスタロッチーの有力な協力者であるヘルマン・クリュージーの弟である。彼は千八百十二年其の死に至るまで、ベスタロッチーのノイホーフの農場の管理を委託されて忠實に勤めたのである。エリザベートはイヴエルドンの學園に於てもベスタロッチーを助け、千八百二十年に此處を去り、千八百三十六年七十四

歳で亡くなつた。ベスタロッチーの歿後九年である。彼女の晩年はまことに同情すべき悲境であつた。其の一人子は身心薄弱の白痴であり、彼女の持てる生活費も段々盡きたので、子供は其の亡父の故郷ガイスという寒村の貧民院で養われ、エリザベートも子供の附添として此處で起臥していたが、彼女の死後十八年目にこの不幸な子供も亡くなつた。著者私は千九百四年スミスへ旅行して、ベスタロッチーの遺跡を訪ね、其の當時兒童の夏期殖民の場所として、殆ど最初の試みともいへべき實狀を見學せんために、此の山奥の寒村ガイスを訪れたことがあるのである。今こゝにエリザベートの生涯の一端を記すに當り、實に感慨無量である。四十年の間教聖ベスタロッチーの内助の勤めを果たせる彼女の晩年は實に悲惨なものであつた。併しルソーの母は世界的天才ルソーを生み、其の難産のために亡くなつたのである。エリザベートは自己を犠牲にして教聖を教聖たらしめたのである。而も教聖の不朽の名著の中に理想の女性のモデルとして描かれたのである。彼女もまた以て瞑すべきである。

五、隱者の夕暮

農場經營の失敗と貧兒教育の中止は、獨り世間からの嘲笑を招いたばかりではない。相當親しい友達もだんだん遠ざかり、道で出逢つても、温い友情を表して呉れるが、救済の手段もなく、同情の溜息をつくのみであつた。家庭生活の慘狀は若き女性エリザベートのために救われたが、ベスタロッチーは社會人として、今後何を爲すべきか、如何なる方向に進むべきか、これは熱情の燃えるベスタロッチーにとりては家庭の生活以上の重要な問題であつた。彼は最早なにかの事業を經營するだけの資力をもたない。世間にもこれを助ける人がない。併し人間救済の熱情は燃えている。これを發揮するには文筆によるより他はない。果然彼は人間救済の哲理と其の實現の仕方について筆を執るべく決心した。當時彼は三十五歳である。十五六歳の青年の頃から二十年の間頭の中に描き、胸の中に燃えていた思想と熱情とが、肉と皮を破つて社會に飛び出たのである。これ即ち不朽の名著「隱者の夕暮」である。

これが世間に出たのは全く其の最も親しい友達である。イーゼリンの盡力によるものである。イーゼリンは前に述べたように、ベスタロッチーの貧兒教育にも援助を與え、終生彼のために力を盡くしたのである。

て呉れ、ベスタロッチーにとりては、父であり、支柱であり、鼓舞者であつた。「隱者の夕暮」は千七百八十年にイーゼリンの主宰している定期發刊誌上に掲載され、廣く一般の人々によりて讀まれたのである。

「隱者の夕暮」に於て、われわれは、ベスタロッチーの世界觀人生觀、其の哲學の全貌を味うことが出来る。彼の傳記著者として名高いモルフは次のように述べている。これは實に、ベスタロッチーの教育上の信仰の告白であり、崇高な理念と理想とを含んで居り、この理念と理想は空な概念ではなく、彼の内面精神であり、血や肉である。渾然として精神的全體をなして居り、拔萃することも出来ない位である。敗殘の境地廢墟の中にたゞすんでいる隱者としての彼の告白を味うものは、如何なる嵐にも屈しなかつた彼の精神と世間の如何なる誤解にも弱められなかつた彼の熱烈な人類愛とに感動し、感激しないものはなからう。(長田博士譯モルフ著ベスタロッチー傳第一卷記述の意味)「隱者の夕暮」に於ける思想の内容は後章の思想篇に於て論述することにする。

六、スミス週報

四六

ペスタロッチーはイゼリンの勧めによりて、其の思想や意見を一般に普及するために、一七八二年一月に週刊新聞「スミス週報」を創刊し、約一ヶ年許り繼續した。社會上の記事、國民の窮乏の狀況社會改造に關する意見などを掲載し、常に一切の改造の根本の力を教育に求めたのである。彼の思想を研究する重要な文献である。

七、立法と嬰兒殺し

千七百八十三年に彼は「立法と嬰兒殺し」の一書を自費で獨逸の書肆より出版した。ペスタロッチーの青年時代に、スミスで二人の少女が、私生兒を生み、これを壓殺した罪によりて、死刑の宣告を受けたことがあつた。これは一般の人々を驚かしたが、殊に義憤に燃えた青年ペスタロッチーには異常な衝撃であり、彼は其の後、このような社會問題について研究を怠らなかつた。誘惑される女性は

少女のみではない。三十歳以上のものもあつた。中には婚約が出来ておつても、正式に結婚しない中に、子供が生れ、これを水中に投じたという五十歳の女性なども居る。腐敗せるスミスの社會に於てこれに類する悲惨なことが頻發したのであるが、其の當時の法律に於ては、獨り女性のみ重い刑罰を課し、女性を誘惑せる男子の多くは何等の制裁も受けなかつた。ペスタロッチーは、女性も罪がないとは言われないが、誘惑する男子の罪は重かるべきで、また社會の責任も輕くはない。結局はこの暗黒面は人間の教育に基ずく社會生活の改造によりて、良心の光を以て家庭生活の輝きを以て追いつわねばならぬが、直接には立法夫れ自身の根本精神の革新が必要であると論述し、立法の根本精神を次のように説いて居るのである。

立法の全精神並に政府の權能の内面的精神及び意志というものは、敬神に基ずく正義の上に、謙虚を基礎とする人間性の上に、愛から流れ出る愛護の上に、惡を未然に防止する智慧の上に、國と國民とのために、必要に應じて時と所とを問はず己れの身を献げる義氣の上に打建てられねばならない。立法者自身は、基督のように、國民のために其の身を献げよ。支配者に此の犠牲の精神がなければ、

四七

人間に満足な立法は全く不可能である。彼は具體的に、高等風儀裁判所の設置や、良心指導員などの施設の必要なることを提案してゐる。而も一切の犯罪を防止する最も強い力は立派な家庭の生活である。神を畏敬することと眞實の叡智とは同一のものである。眞實の叡智の持主は勤勉であり、秩序的であり、家庭を維持する正直な人間であり、此の人間こそは神を畏敬し、神を愛する心に充ちてゐるのである。實に民衆の不幸はただ民衆の家庭的叡智によりて防止され、民衆の犯罪は唯だ民衆の家庭的幸福によりて防止される。そしてこれ等は民衆の中に一般的に普及してゐる神への信仰と敬愛の心情によりて發生しまたそれによりて存続するのである。このような立派な家庭は根本的には教育によりて現出するのである。

教育の本義は、神への信仰であり、愛でなければならぬ。子供を濫りに打つことを止めて、絶えず正しく心と頭とに作用するような崇高な教育が必要である。このようにまた立法に於ても濫りに民衆を打つことを止めて、絶えず正しく心と頭とに作用するような崇高なよい立法でなければならぬ。

八、「リーンハルトとゲルトロッド」

「隠者の夕暮」を發表した翌年即ち千七百八十一年二月、三十六歳の時に、世界的名著として絶讃を博した「リーンハルトとゲルトロッド」の第一巻が公にされた。大哲カントは此の年の三月五十七歳の時に其の第一批判「純粹理性批判」を公にした。日本の學界に於ては此の年に大槻磐水は蘭學楷梯を著わし、この前年には頼山陽が生れ、この翌年には廣瀬淡窓が生れてゐる。

ベスタロッチーの家庭生活は貧窮甚だしく、この名著を書く原稿紙をも買い求めることが出来ず、古い帳面の餘白を利用したということである。此の時其の親友イーゼリンは字句などを多少訂正してやり、獨逸の書肆を説得して出版せしめたのである。初め匿名で出したが、其の後イーゼリンの主宰してゐる定期發行誌上に於て著者ベスタロッチーの名が公にされた。

この教育小説の筋は大略次のようなものである。

ボンナル村に貧しい石工リーンハルトの一家がある。其の妻はゲルトロッドで七人の子供の母であ

村の税吏フンメルは悪い人間で、居酒屋を営み、村の働く人々を自分の店に誘惑して、酒を飲ませ金を費消せしめる。

リーンハルトは正直者であるが気が弱く、フンメルから嚇しつけられて、酒飲に出入することが頻繁である。妻のゲルトルードは徹底な堅い信仰をもち、夫を勞わり、子供達を立派に躰け、隣人に親切で、辛抱強く、正しい道を歩くことを力めている。前に述べたエリザベート―ベスタロッチーが貧兒教育を中止し、家庭は悲惨な境遇に陥つた時に、これを助けるために、自ら進んでベスタロッチーの家庭の人となつたエリザベートはこのゲルトルードのモデルであると言われている。私はベスタロッチーの眞の内助の妻であるアンナや、彼の幼い時から彼を育てた下婢のバーベリーや、彼の忠實な母親などの女性の一群は、エリザベートと共に皆このゲルトルードの性格や行爲の中に溶け込んでゐるものと思うのである。

ゲルトルードは夫を信じ、夫を敬い、夫を愛して居り、また其の七人の子供達を立派にそだてたい

ので、なんとかして、夫が居酒屋に出入するのを止めさせたいと思うが、氣の弱い夫は、悪人フンメルの脅迫と誘惑から逃れることが出来ない。ゲルトルードは決心した。勇氣を出して正しい道へと突進することを決心した。ボンナル村の城主アルネルにこの事情を訴えることを決心し、乳呑兒を抱いてアルネルに面會を申込んだ。

其の前夜は終夜一睡もせず神様に祈つたのである。

彼女は城主に逢つてなんと云つたか。私の夫は税吏で居酒屋をしているフンメルに酒代三十グルデンの借錢があります。フンメルは悪い男で、色々の手段を以て夫を誘惑して酒を飲ませます。そのために、私達家族のパンを買う金がなくなつてしまいます。七人の子供は、このまゝでは乞食になるより他はありません。私は今こゝに子供の爲に苦心して貯えたお金をもつて参りました。これを御城主様に御預け致したのであります。借錢の返済が出来るまで、税吏のフンメルが夫を嚇かし夫を誘惑しないように御骨折をしていただきますのであります。

彼女は七つの綺麗な金包みを城主に示した。其の各の金包には七人の子供の名が記されている。彼

女はパンを買うために、己むを得ずして、此の包の中からいくらかを取り出だした場合には、それは借金として記録して置き、夜晝一生懸命に働いて出来るだけ早く元の通りの額として貯えることに力めたのである。

慈愛の深い城主アルネルは、ゲルトルードに御茶を、其の乳呑兒にミルクなどを與えて勞り慰め、子供達のための貯金の包は、それぞれ若干の金を入れ、三十グルデンの借金は自分が返済してやる、明日はフンメルに逢つて御前の希望通り問題を解決するから安心せよと言いきかした。

それから、城主はリーンハルトには村の教會を建築する仕事を與え、他方には惡稅吏フンメルを處罰し、村の生活をだんだんに明朗にし幸福にした。ゲルトルードの家庭も御蔭で生活が樂になり、子供達も素直に育つて行き、貧しい隣人などもゲルトルトの援助を受けて仕合になる。

ゲルト・ルードは殊に其の子供達の教育について非常に評判が高いので、城主アルネルは其の執事グリユールフイ及び村の牧師と共に、ゲルトルードの家を訪ねて家庭教育の實況を見ることになる。

三人は早朝突然彼女の家庭を訪れた。朝の食事がすんだばかりで、まだ片附けられていなかった。

家族は突然の珍客に驚いたが、子供達は皆皿を洗うのを手傳つた。それが終ると子供達は朝の讚美歌を歌つた。そして糸引車の座について仕事をはじめた。ゲルトルードは聲高に聖書の一節を讀んだ。子供達は糸を引きながら母の口について繰り返えした。教訓的の章句は暗誦するまで復唱した。長女はその間に隣りの部屋で子供の寢床を作りながら、他の子供が暗誦している章句を小聲で繰り返えしている。それがすむと長女は畑に行つて晝食の用意に野菜を取つて来て、他の子供達と一緒に聖書の詩句を復唱しながら野菜を洗つた。

子供達は三人の珍客に心をひかれ、糸を引きながら、時々頭を上げて客の方を見る。母はお前達は糸を見るよりも御客を見る方が多いではないかと注意する。子供達は私達は一生懸命やつています。いつもよりも立派な糸を御目にかけますと答える。

母は車や綿に間違が出来れば、それを直してやつた。糸引が出来ない幼い子供は綿などを描えてこれを梳く用意をする。

母は子供の手先を早くから器用にするように力めたが、讀み書きなどを教えることは急がなかつ

た。併し話し方については早くから立派に正しく話が出来るように躡けた。彼女は読み書きが出来ても、話すことが出来なければ、それは何の役にも立たない。読むことも書くことも一種の技術的な談話であると信じていた。しかし彼女の教育法に於ては生活其のものについても眞實に理解せしむることが大切であつて、話し方の音節の練習は從屬的のものであつた。従つて彼女は普通に學校の先生が言葉を教えるような教え方を採用しなかつた。即ち「子供達よ、これはあなたの頭です。これは鼻です。これは手です。これは指です。あなたの目や耳はどこにありますか」などは教えない。彼女は出来るだけ生活に即して、言葉を生かして教えたのである。即ちこつちへいらつしやい。あなたの可愛い手を洗いなさい。洗つてあげましょう。あなたの髪を梳いてあげましょう。爪を切りなさい。切つてあげましょう。と教えたので、子供達は生活に即して、言葉をハッキリと、身につけて、覺えたのである。そしてこれ等は子供の年齢や發達の程度に應じてなされたのである。

算術の基礎教育もまた生活に即して與えられた。部屋の一方の端から他の端までの歩數を數えさせた。一つの窓に五枚の板ガラスが二行あつたが、これは十進法を説くことに利用された。また糸を引

く時には、其の糸を數えさせ、糸をかせに巻く時には、其の紡車の回轉數を數えさせた。斯様に、子供達の生活のすべての機會に於て、日常の事物や、自然の力を聰明確實に觀察するように指導した。そして子供達は、自分の覺えたことを、覺えた仕事を、年下の弟妹に教えることが出来る位に、十分に習熟していた。

石工の茅屋に於ける一女性の家庭教育は三人の珍客を驚かした。稱讚の言葉以上であつた。而も彼等が實際に目撃しない場面に於ても深い温かな教育が行われていた。

悪税吏フンメルは處罰の最後の宣告を受ける前に、罪をかくすために、色々ともがいているが、ゲルトロードは城主アルネルの措置に信頼し感謝して氣持よく生活している。土曜の夕方には子供達を呼び集め、其の週間に於てなしたことについて反省せしめる。殊にアルネルに逢つた後の土曜は一層印象深い子供の集りであつた。子供達の可愛い手が皆合掌された時に、ゲルトロードは靜かに言つてきかせた。「大層嬉しい話を聞かれます。お父さんは結構な仕事を貰つた。最早パンを買うための心配もなくなるであらう。みんなは神様に感謝せねばならない。併し一口ごとにパンを數えねばならな

かつた悲しい日を忘れてはいけない。又パンがなくて困っている人達のことを思つてやるようにしたい。そしてお前達がどんなつまらぬものでも必要以上に持つていたら、困っている人達に分けてあげなさい。」

これは唯だ聞かせたり、聞いたりすることに終らなかつた。實行に移されたのである。子供達は其の遊び友達の不幸なものや、隣りの困つてゐる子供達に彼等のパンを與えたり、一層仲良く遊んでやつた。ゲルトロルドは殊に隣りの母を失つた不幸な家の子供達に糸引を教えたり、其の躰け方について何くれとなく世話をすることを楽しんでゐた。

ゲルトロルドの家庭教育の一日を見學したアルネルの執事グリユールフイは、感動感激に満ち、ゲルトロルドの家庭教育を學校に移さねばならないと思つた。そして自分自らこれを實行しようと決心した。彼は遂にボンナル村の小學校の校長となつて、教育によりて村治の革新發展、村民の福祉を増進することに力めた。そして同じような學校教育が、アルネルの仕えてゐる侯爵領の全體に影響を及ぼし、孤兒の教育は勿論、囚人の感化教育にも成功を見るようになった。

ベスタロッチーは祖國の革新發展、窮民の救済には教育が根本であるという確信をもつていたが、この教育力の本源を敬虔心の厚い信仰の堅い母性愛に見出だした。相互の敬愛信の精神によりて夫婦が一體となることは家庭生活の柱である。夫婦の間に子供が生れる。親と子とは自然に一體である。此の一體から敬愛、信の精神が湧き出でる。家庭生活の連続は人類の生命の生成發展を意味する。自分の子供を立派に育てることは、人類の福祉を永續させることになる。ゲルトロルドは酒飲の夫を誘惑から解放しなければ、七人の子供は乞食の群に入ることとを恐れた。このようなドン底生活に陥ることとは、子供の不幸であり、一家の不幸であり、社會の不幸である。彼女は強烈な母性愛の力によりて單身城主のアルネルに面會を求めると至つたのである。

神意に奉仕する母性愛は一家を再興し、一村を正しく明朗になして村民の幸福を増進し、引いては領内全部の革新となつた。而も神に對する信仰と感謝は眞理や正義の本源であり、一切の良知、一切の文化、人類平和の母體である。ベスタロッチーの社會革新の理想、教育革新の理想はゲルトロルド

の母性の中に、其の母性の中に具現されたのである。

ペスタロッチー以前に於ては、女性の力は低級に評價され、女性は多くは社會の下積となつて居る観がある。今三四の名高い人々の女性觀について一瞥を與えよう。

プラトニー。男と女とは格別異なる機能をもたない。男の仕事はまた女の仕事である。併し同一の仕事に於て、男よりも弱い。

アリストテレス。男と女とは根本的に異なる。女は男のような高等な教育を受ける力がない。女は思慮する能力をもつけれども、決定力に乏しい。支配者ではなく、被支配者に適する。

中世紀に於ては、女も男と同じく神の子である。教育は女子にも開放され、尼僧院等に於ては相當の教育を施し、女子に對する考え方は一般に進んで來た。

文藝復興時代に於ける學者の多くは女子の教養を力説し、家事の教育のほかに人文的な教養をも授けよと説いて居る。

併しなお一般に、女性の力に對する認識が淺かつた。ルソーの如きもエミールの配偶者としてのソフィーについては、主として男のために奉仕するものとして取り扱い、女性は男子よりも實際的で理解力も弱いといつて、女性の力を高く評價しなかつた。

カント。男は深い悟性と理性をもつて居り、女は優美の感情に富んで居る。美という點から見ると男は壯美的である。夏の夕暮に月が出て、星が輝きはじめる。靜かな深い光景に打たれ、感動的で永遠の感に高まることが出来る。女は眞晝の光のようで、心せわしく、感覺的刺戟的である。道德的方面から見れば、女の道德は美的道德であつて、惡を憎むことはそれは不正であるからではなく、それは醜いからである。善といふことは、道德上斯くあるべしという判断によるのではなく、それは美しいからである。男の道德は氣高い道德であつて、理性的に正と不正とを判断することが出来る。

メリー・ウォルストンクラフト。この婦人は英國の女性擁護者として名高いのである。ペスタロッチーのリーンハルドとゲルトルードの第一巻から出版された十一年後即ち千七百九十二年に、「婦人の權利の擁護」といふ本を著している。これは主として女性の教養の必要を論じたもので、婦人の覺

醒、婦人の教養の向上に役立つものである。

斯様な譯で、宗教や宗教美術に於て聖母マリヤを禮讃せることは別として、ペスタロッチー以前に於ては、ペスタロッチー程に女性の力を高く評價したものは殆どないのである。

殊に彼の描ける女性ゲルトルードは、カントが一般の女性の道徳的判斷は美醜を標準とし、理性的に正不正を判斷する能力に乏しいと言つたのに反して、表には温かな柔かさを現しながら、内面にはしつかりした理性の力をもち、立派に正不正を判斷したのみでなく、勇氣を振起して、これを實行に移したのである。日本に於ても、人の妻として、人の母として立派な行を残して居る女性は少くはない。又女流作家としての天才的の女性もある。併し一般には各方面に於て、女性の自身は天才と言われる人は男子よりも其の數に於て少ないかも知れないが、人に感動を與え、人を天才的に育成する力に於ては、男子以上の力をもつてゐるものは少くないと思う。詩人ゲーテの如きも其の一例である。此の意味に於て、女性は實に教育的能力に於て勝れていると言つてよい。勝れていなければならぬ天賦の素質を恵まれて居るのである。

さて、このリーンハルドとゲルトルードの第一巻は、讀書界に非常な歡迎を受け、凡ての雑誌は讚辭を掲げ、カレンダーは田舎の小舎にも、この書を傳えた。ベルンの農會は感謝狀と五十デユカーテンの記念金と「最良の市民に」という銘を入れた大きな金牌を彼に贈呈した。ペスタロッチーの自ら記す所によると(白鳥の歌)流石に彼もこれを喜んだ。そして此金牌を出来ることならば永く記念として保有して置きたかつたのであるが、生活困窮のために、數週の後これを金の値段で賣却しなければならなかつたのである。また或る富豪は制服着用の下男付きの馬車で彼を迎えにやり、食事を饗應した。彼はこの書物によりて、地位の高い人や博愛の人と親交を結ぶ機會を得た。伊太利のフロレンツのホーヘンワルト伯や、彼を通して後のローマ皇帝レオポールド太公にも知られるようになった。奥國の大藏大臣も自國にペスタロッチーを招聘しようと思つた。殊に又プロイセンの皇后ルイビは、ペスタロッチーの此の書物について、著者は實に非常な熱心と親切とを以て人類の幸福のために盡して呉れた。若し自由の身であるならば、スミスへ行つて此の人に感謝をしたいもので

あると、其の日記の中に感激の禮讃を洩らした。獨逸皇帝が獨逸復興のために私財を投じて、ベスタロッチーの學校へ留學生を派遣せるに至つたことは、皇后のこの感激によることが少くはないと思うのである。

其の後ベスタロッチーは此の書物の第二卷(千七百八十三年)第三卷(千七百八十五年)第四卷(千七百八十七年)を次ぎ／＼に出版した。これ等の書物の内容は、法律、經濟、宗教、教育などに關する著者の意見が露骨に現れ、文學的興味が減退し、讀者の範圍も狭くなつたのである。第一卷の出版の翌年には「クリストフとエルゼ」を書いた。これは第一卷の眞意を十分に傳えたい、という考からである。クリストフとエルゼ夫妻が、毎晩一章ずつこの第一卷を読み、其の子供と召使とが、これを聴き、みんなこれを吟味するという對話の形式で書かれたものであるが、一般大衆には歡迎されなかつたのである。

九、沈黙十年フイヒテとの會見等

其の後、ベスタロッチーは約十年の間、沈黙を守つた。スキスの政治は著しく腐敗して居り、彼の革新的な意見は動もすれば、不穩なるものゝように誤解されたことも、沈黙を守るに至れる一つの理由であらうが、此の間彼はペンの代りに鋏をとりて農耕に勵み、生活上の支えをなしたことは、彼の健康の上にも、靜かに思索をなす上にも有益であつたと思う。殊に千七百九十二年、獨逸のライプチヒの商人に縁すいた妹のバルバラを訪ね、其の途次、獨逸の文豪ゲーテや、ウイランドや、ヘルデル其の他の二三の知名の文士に面會した。ゲーテとは面會しないという説もある。彼は永い間ゲーテについて思慕する所があつたが、ゲーテ自身は、彼を未だ能く知つていないので、特に歡迎的態度をとらなかつたという説もある。ゲーテのキルヘルムマイスターの遍歴の卷に於ける教育郷の一節は、ベスタロッチーの新學校をモデルにしたとの説もあるが、それはむしろフェレンベルグの新學校を参考にしたという方が、確からしい。フェレンベルグは一時ベスタロッチーと協力したこともあつたが、ベスタロッチーの精神的なものと異り、實利的傾向が強く、ベスタロッチーの民主的な態度と違い、階級的なものであり、ベスタロッチーとは根本の精神が異なるので、遂に兩人は一時喧嘩分れに

なるのであるが、フェレンベルグの學校は經濟的には成功したのである。

ゲーテが案外冷淡であつたのに引きかえ、ヘルデルは相當歓迎したものと見え、ベスタロッチーも非常に喜んだようである。ヘルデルはゲーテからワイマールに招かれ、ゲーテやシラー、ウイーランドなど、親交を厚くし、ワイマールの君主にも重用され、彼の中心思想としての三つの、即ちレーベン。リヒト。リーベ。生命と光と愛という三字が、ワイマールの宮殿の裏板に書かれて居り、彼の人文的な、人間的な思想を記念して居る。これ等の詩人と君主とが度々會合して清談せる露臺も今なお残つて居る。

ベスタロッチーは其の沈黙期間の終り頃に、千七百九十三年の冬から數ヶ月の間、チューリヒ附近のリヒテルスヴィールの叔父ホッツの宅に留守番として滞在していた頃に、彼は獨逸の哲學者ファイヒテの訪問を受けたのである。それは千七百九十三年十二月のことである。ベスタロッチーは四十八歳ファイヒテは三十歳である。ファイヒテの息子の著わしたファイヒテの傳記の中に、父ファイヒテがベスタロッチーを訪問せる際、同行せるフェルノウという人の書面が掲げてある。大要は次の通りである。

千七百九十三年十二月六日、吾々一行はチューリヒに於て出逢つた。土曜日は休息して日曜日にベスタロッチーを訪問した。同行の人にはファイヒテが居る。此の頃天啓の批判を書いた人である。出版當時は世間ではカントの著書だと思つたのであつた。其の他色々の研究を發表せる此の有名な批判哲學者のファイヒテ、實にこの人である。この人と一緒に行くのである。バゲッセン(デンマルクの詩人)は已に彼を知つて居るが、余は今初めて彼を知つたのである。吾々はうるわしいチューリヒと湖の左岸を下り、チューリヒ市より約二時間許りでリヒテルスヴィールという村に着き、此處でベスタロッチーに逢うのである。彼は此の頃「リンハルトとゲルトルード」を著わして名高くなつた人である。年頃は四十歳より五十歳の間位で、其の相貌は實に醜いものである。天然痘の痕さえ見えるようである。恰かも農夫のような人である。衣服の如きも實に質素なものである。しかし、まことに情のこもつた立派な人物であつて、此の點について他に類のない人である。これ等の人々と共に色々の話をしたが、全く時の移るを知らず、數時間も僅かに數秒間のように感じた。……

斯くしてフェルノウとバゲッセンは、其の日に此處を去り、ファイヒテのみ、數日滞在してベスタロッチーと思想の交換をなしたのである。ファイヒテが、其の名高い「獨逸國民に告ぐ」の獅子吼的な十回回の講壇に於て、ベスタロッチーの教育思想の一端を論述せることも此の數日の會見に於て、感動する所のものが少くはなかつたからであろう。

彼の沈黙時代に、西歐に一大革命が起つた。即ち千七百八十九年に、佛蘭西革命が勃發したのである。翌年に佛國の新憲法が制定され、次いで立法議會の開設、共和國の創建となり、千七百九十三年にはルイ十六世は斷頭臺上の露と化するに至つた。ベスタロッチーはこの革命は已むを得ざるものと思つたが、革命の手段については悉くこれを肯定するという立場をとらなかつた。しかし、千七百九十二年に、佛國の議會は、ワシントンや、詩人シラーや、哲學者のベンザムなどと共に、ベスタロッチーを人類教化上に於ける功勞者として、フランス市民の稱號を與えることを議決した。そしてベスタロッチーを巴里に来るよう招待したのであるが、ベスタロッチーは祖國の政治不安のためにこれを辭退した。

十、再度の著述生活

彼は約十年の沈黙を破つて千七百九十七年に、「人類の發達に於ける自然の過程についての探究」という書物を公にした。これは實に苦心したもので、彼自ら「私の自然感情を市民權及び道德に關する私の諸觀念と調和させようという意圖を根本的として、三年の間、信じがたい勞力をつくして筆を執つていた……」と述べている程苦心したものである。畢竟彼の著書は論理や觀念の遊戯ではなく、常に實踐性を中心とする眞實や正義への熱情的愛であるからである。而も彼は此の書物を書き上げた結果を見て「……此の著作も、また自ら自身に對する私の内心の無力の證明——一面的で、自分自身に對する均衡の力なく、目的に達するには極めて必要な實踐力への十分な努力から切りはなされた私の探究力の單なる遊戯に過ぎないものである。私の力と私の洞察力との不均衡は却つて増してゆく許りで、心中の間隙が擴大するのみである。目的を達するには其の間隙を埋めねばならないのに、私は却つて埋めがなくなつて行きつゝあるのである」と、自己の精神内面と實踐力に關する反省的述懐

を述べているのである。

彼は此の書物に於て、人類の發達の三階段を認めている。最初のもものは原始的な自然人である。これは動物的な状態で自己の欲望を遂げんとする自我愛が強いのであるけれども、決してそのみではない。骨肉や近親に對して親切心を持つて居る。それが純眞になれば、其の本質として現われる。自我愛から他我愛にまで擴大し得るのである。次ぎは社會人であるが、此の時代には、自分の欲望を遂ぐる爲には、自分の恣意に基ずかないで、社會の習慣契約などを守ることになるのである。第三の最高階段は道徳人であつて、これは自己の欲望生活感性的生活を超越する純粹なる道徳人である。眞實なる愛の社會はこれによつて作られるのである。これは理想郷であつて、人間の現實相は此の三階段の混合である。こゝに人間としての教養教育教化の必要が起るのである。ベスタロッチーが生涯努力した事業も、其の著述も、人間を出来るだけ道徳人まで高め、眞實なる愛の社會を造ろうとするのであつた。

また、同年に、「寓話」が出版された。二百有餘の寓話である。彼の多年の體驗や思想上の原理を

比喩を以て説明したものと見ることが出来る。其の中の一二を記して見よう。

山と平原

山が平原に向つていつた。「私は汝よりも高いよ。」平原はこれに答えて「それはそうかもしれない。併し私は一切なのだ。汝は唯だ私の特別な場合に過ぎないではないか」といつた。

太陽と月

月の光は借りものである。それは永遠に冷めたく、いつも同じ形ではない。それが照つて居る時は必ず夜である。

太陽は自分の中に自分の光をもつている。それは永遠にあたゝかく、永遠に變らない。それが輝く時は必ず晝である。

平等の尺度

小さな一寸法師が巨人にいつた。「僕も君と同等の權利をもつている」と。巨人はこれに答えた。「その通りだ。しかし君は僕の靴をはいては歩けないだろう。」

レアンダアは三人の息子の父親である。彼等に各、同じ廣さの荒れた屋敷を遺産として分與し、臨終の際に、彼等に對しよく屋敷に手を入れよ、そうすれば、汝等は自分よりもモット幸福になるであろうといつた。

父のこの遺言について、長男は心の中で思つた。この荒れはてた屋敷はどうにもならない。雑草の生えるまゝに放任して置いて、自分の子供等が大きくなるまで待つていよう。其の時にはこの屋敷を整頓して呉れるであろう。然るに彼の子供等は大きくなると、父親は如何にも父親らしくなく、子供達のために親切に考へなかつたことに氣づき、大に立腹した。長男は父親に向つて、老ぼれ乞食と罵り、あなたは、我々子供も屋敷も同じように荒らして放任して置いて怪しからぬと食つてかゝつた。

次男は懸命に骨折つて、荒れた屋敷跡に立派に僅かの田地を招き、子供達に對していつた。「御前達もみんなで精を出して、この屋敷全體をこのように立派な田地にしたら、非常に仕合になることであらう……」子供達も喜んで、父から残りの地面を貰つて立派に耕やそうと申出でた。併し、氣の小

さい神経質の父親は、子供達の希望通り、残りの地面を與えると、子供達は自分の生きている中に自分を凌ぐようになるかも知れないと思つて、地面を與へなかつた。子供達は父親の親心のない、型のような生活と利己的な考を侮るようになった。そして、父はすべて何んでも、獨りでやりたい、獨りで出来るのであるからといつて、父の困窮や難儀をも救うとはしなかつた。父は一生不幸な生活をなさねばならなかつた。

三男は、其の子供達を早くから教育して、子供達と一緒に、出来るだけ早く荒れ屋敷を整頓するようにと注意を向けた。彼は子供達の中に發展しつゝある心身のあらゆる力を見て大に喜んでいた。子供達は、いつかは父よりも多くの知識や理解力をもち、父よりも多くの財産を作るであらうことを此上もない誇りとして居つた。子供達が、此の方向に少しでも進んで行けば、それだけ多く彼等を信頼した。父が子供達を信頼すればする程、父は子供達にとりてはなくてはならぬ人となつて仕合な幸福な生活を送ることが出来た。屋敷からも相當な収益があがるようになった。畢竟子供達が父親と一緒に、自發的に父親は協力して働いたからである。

第五章 シュタンプに於けるベスタロッチー

—人類教化史上の最高峯—

一、其の事業

千七百九十八年二月ナポレオンの勢力の下にローマ共和國が設立され、此の年の四月にスキスもまた戦勝國たる佛蘭西の威勢によりてヘルヴェチア共和國となつた。從來の十三の獨立縣、十八共同領九聯合地並に三保護民地から成る瑞西聯邦は崩壊して、中央權力をもつ所の統一的なヘルヴェチア共和國となつたのである。瑞西の全體が政治的に平等になり、國民の自由平等が保證され、國家は公共の福祉の基礎として國民の啓蒙と道德的教化に力むることになつた。ベスタロッチーは新政府の施政方針に共鳴し、國民の内面的自覺を促すために、數冊の小冊子を出した。新政府の主腦者殊に文部大臣シュタッパはベスタロッチーを信用し、政府の機關新聞週刊「スキス國民新聞」の主筆となし

た。ベスタロッチーは祖國の新建設は教育を基礎となすべきであるという主張を從來よりも一層熱情と明朗さを以て高唱し、當局にも建言する所があつた。政府は村落學校にも優良の教師を送るために師範學校の設立を計畫したが、ベスタロッチーは兒童學校其もの、而かも貧しい憐れな子供達の教育を實際に革新し其のために、新しい兒童學校を設置する必要を説き、政府もこれに同意して一年三千フランを支出し校舎等の設備をも完成することを約束し、其の設置の場所などについて調査することになつていたのである。然るに、ウンテルヴァルデン地方は元來舊教徒が多く、從來の政治下で幸福に生活し來たれるを以て、新政府の施政方針によりて政治形式を改むる必要はないと反對の氣勢をあげたので、政府は佛軍の助を得てこれを彈壓し、遂に此の地方に砲彈の雨をふらしたのである。千七百九十八年九月に佛軍は此の地方の首都シュタンプを攻撃し、悲惨なる戦災を現出するに至つた。政府派遣員たるトルットマン及マイヤーの調査に基きレンガー内務大臣は次のような報告を公にした。

判明している死者は男二百五十九人、女百二人、兒童二十五人、合計三百八十六人。

焼失した住宅の数は三百四十、穀倉の數二百二十八、その他附屬家屋の數百四十四、此の焼失の損害額の合計が八十八萬五千フラン餘、焼失並に掠奪によつて失われた動産の損害額が合計百一十一萬二千フラン餘であり、財産の全損害は百九十九萬八千フラン餘である。

三百四五十人の家を焼失したもののうち、自力で住家を再建し得るものは僅かに五十七人であり、九十六人は相當の補助を要し、二百餘人は再建への方法手段が立たない。

これ等救助を要する人々の數は、家屋の損害は受けずとも家財を全部掠奪され、貧窮に陥つてゐるために相當増加している。又これ等の中百一十一人は老人で廢人となり、百六十九人の孤兒、二百三十七人の貧困の兩親をもつあわれな兒童が居る。ほかに他の縣で已に個人の厚意によりて養われている孤兒が七十七人ある。

政府はこれ等のあわれな子供達を救済するために、シュタツツに孤兒院を設置することに決定し、其の場所は尼僧院の一部を改造することにし、院長の人選をなす段取りとなつた。文部大臣シュタツパーの意見ではこれこそベストロッチーが最も適任であつて、他に適當な人がないといふので、ベス

タロッチーに交渉することになつた。ベストロッチーは會つてシュタツパーや一二の有力な人から新政府の相當の地位の役人にならぬかと勧められた際に、これを斷り、自分は學校の教師になりたいと答へたことがあつたが、今やそれが實現することになつた。而かも常に貧しいあわれな子供達を教育することを念願としていたのであるが、今や圖らずも、其の機會が到來したので、欣然としてシュタツツの學園を世話することを快諾した。心中には非常な覺悟と決心とを秘めて置いたのである。アンナ夫人を初め、彼の子供や、忠實なエリザベート、親しい友達などは、五十三歳のベストロッチーには、年に似合わぬ重荷を引き受けたものと心配したのも無理ではなかつた。しかしベストロッチーには魚が水を得たような氣持であつたろう。彼はアンナ夫人に對し、「世間では私を侮つて居るが、私がこの侮りに値するものなら、我々の救われる道はない。しかし世間の批評が不當であつて、私自身が信ずるものに私が値しているならば、あなたは間もなく、私から救いと助言とを期待することが出来ます。我々は結婚後もう三十年になります。三十年の間あなたは待つて來ました。モー三ヶ月待つてぬといふことはありますまい。此處には校舎の修繕のために澤山の職人が居り、政府はこの計畫に賢明

な支持を與えて居る」と、シュタンツより夫人に宛て、手紙を送つて居る。彼は實に、千七百九十八年の十二月七日にシュタンツへ赴任し、校舎修繕の仕事を監督しつゝあるのである。そして翌年の千七百九十九年一月十四日に初めて五十人の子供達を受け入れ、唯一人の女性の手助があるのみで、全部をベスタロッチー自身が處理せねばならなかつた。

殊にシュタンツの人々はベスタロッチーについて、餘り能く知る人もなく、町の多くの人は舊教信者であるのに彼は新教の信者でもあり、又自分達が反對した新政府から派遣された者であるというので、誰れ一人として彼に同情するものはなく、むしろ彼を疎んじたのである。又政府派遣員のトルツトマンはベスタロッチーを相當に理解し、開校の翌日即二十一日には、ベスタロッチーは晝夜の別なく、一生懸命に働き、子供達の進歩も著しいものがあると非常な喜びを以て、内務大臣に報告しているが、其の翌月の三月には、ベスタロッチーは剛毅でもあり、寛容でもあるが、不幸にして能くそれを間違つたところに使つて居る。他の貧民學校などを見學して参考にせよと勸めて見たが、彼は凡べてを自分獨りでか、若くは子供達の力を借りるかして、何等の計畫もなく實行しようという風に凝り

固まつて居ると報告し、政府の注意を促がしている。

子供達の多い時には五歳から十五歳までのものが八十名も居つたが、それが縮少されてベスタロッチーが此處を去る二週間前の頃には約七十人であつた。兒童の多くは、孤兒、貧兒で病身、心身薄弱無知、怠惰、冷酷、亂暴、猜疑人というような譯で、これが人間の子であろうかと思われる程の子供達であつた。しかし人間愛、兒童愛の權化としてのベスタロッチーは、一人の家事を見る婦人の外は何人の助けをも受けず、自ら子供達の父となり、母となり、友達となり、あらゆる仕事を自分一人でやり遂げた。彼は彼の理想を自らの力で實現し、事實的に人間教化の必要と可能とを體驗し、證明しようとしたのである。従つて他人の協力を求むることもせず、また協力し得る人もなかつたのである。學識あり教養ある人ほど、彼を理解しなかつたと彼自ら言つて居る。彼は實にこの孤兒貧兒のために心身の全精力をつくしたのである。彼等のために全我を捧げたのである。世間からの色々の批評にも拘らず、政府當局は幸に、彼の仕事の成功を認めた。千七百九十九年五月二十四日にベスタロッチーは、子供達全部と共にルーツェルンへ遠足した。政府當局は大藏大臣を通して、遠足に來た七十

人の子供達に各若干の新貨幣を贈り、ベスタロッチーの勞に對する尊敬と孤兒貧兒に對する同情を表わした。ベスタロッチーや子供達もさぞ喜んだことであろう。而かもベスタロッチーの最も大きな喜びは、六ヶ月間のシュタンツ教育において、彼の教育精神並に教育方法の正しいことを自ら體驗したことである。これが聽がては、ブルグドルフ、ミュンヒェンブーフゼー、イヴェルドンにおける彼の新學校の教育とまで發展したのである。シュタンツの學園は佛軍の野戰病院設置のために、ベスタロッチーが子供達と一緒に住んでいた尼僧院の附屬物を引き渡さねばならぬことになり、この世界的に記念すべき孤兒院は縮少され、六月八日にベスタロッチーは涙を以て子供達と別れねばならなくなつた。六十名の子供は各自の家庭や、特志者に引き取られ、院内に残つて居る二十二名は市當局の一員で鍛冶屋を業とする實直なマツトという人の世話になることになつた。

僅か六ヶ月の事業であつたが、晝夜の勞苦に、流石のベスタロッチーも痛く健康を害し、暫らくグルニーゲルの温泉で靜養することになつた。

モルフのベスタロッチー傳の中に、シュタンツに於てベスタロッチーが取り扱つた孤兒貧兒に關す

る個人調査表が掲載されてある。男兒二十九人、女兒十六人のものである。年齢は五歳から十五歳までである。

先ず男兒について見るのに、十二人のは其の母のみが生存、七人のは父のみが生存、十人が両親共生存。

健康状態は、二十四人が健康體であるが、腫物や疥癬に悩まされて居るものもあれば、多くは毒虫の巢になつてゐる襤褸を着て居る。榮養不良で、骨と皮ばかりの者が少くはない。其の他病身者が一人、虚弱者が二人、猫背で病身が一人となつて居る。

素質については、僅かに五六人の子供が行儀などがよく、性質も善良であるが、多くの子供は、殆ど躰けというものがなく、粗暴で、厚顔で、愚鈍で、怠惰で、臆病で、中には乞食の癖をもつものもある。教育程度については、多くはいろはも知らず、糸を紡ぐことを知つて居るものも極めて少数である。境遇は、大體赤貧者が多數で、乞食しながら彷徨してゐた者も數名居るといふ状態である。

女兒の方は、素質や教育などに於ては、男兒よりも少しくよいのであるが、大體に於ては男兒と大

した相違はない。境遇は何れも皆赤貧者である。父を失つたものが八人、母をもたざる者が二人、両親をもつ者が六人である。

以上は男女の児童四十五人に關する個人調査であるが、七十名、八十名と児童數が増加せる場合も大體皆これに類するものであつたろうと思われる。

二、犠牲的愛の教育便り

これ等のあわれな子供達を、ベスタロッチーは、如何にして養つたか、如何にして教育したか、其の實狀は彼がグルニーゲルから其の友人の書物屋であるゲスナーに宛てたる書簡の中に描かれて居る。實に涙なしには讀まれない手紙である。而かもわれわれは、此の中に教育精神の最高峰を仰ぐことが出来るのである。次に、其の大意を記して見よう。

一生の夢の實現。私はかねて考えていた貧民の教育を、チューリヒ近くか、又は適當の縣内に場所を求めて實行して見たかつた。工業や農業を其の他の教授の諸手段と結合し、經濟的にも困らない

で教育の目的を達しようと思つていた。然るにシュタッツの事變のために、政府は、成功するために必要なことが殆ど缺けて居る此のシュタッツで、孤兒や貧兒の教育をなして呉れということになり、私は喜んで、そこへ行つた。一生の夢を實現しようとする熱心で、火も水もないアルプスの山上で働くことになつた。

開院の準備。場所として政府はシュタッツの尼僧院の新築の方を私に與えたが、私が到着した時には、それはまだ出來上つて居らない。多數の子供達を受け入れる譯に行かないので、政府は非常な熱心を以て仕事を急がせ、自分も金に困るような苦しい思をしなかつた。しかし準備は案外日時を要し、戰のために家を失つた子供等を、一日も早く受け入れる必要に迫られ、設備の出來上るのを待つことが出來なかつた。子供達を初めて受け入れた時は、自分は現金の外何も持つていながかつた。臺所も、部屋も、寢臺も不十分で仲々混雜した。自分は非常に狭い室に居り、天氣は悪しく、家の工事や修繕などで、非常な埃で、廊下も屑物で塞がり、空氣も極めて不潔であつた。

子供達の實狀。初めはベットがないので、子供達の若干を夜には家へ歸らせた。彼等は翌朝には

害虫をばい持ち込んでくる。子供達の大部分は實に人間の墮落の標本である。多くは慢性の皮膚病にかゝつて歩くことも出来ないものが居つた。或るものは手の凍痛が甚しく、または害虫のたかつている襦袢を着ている。營養が不十分で骨と皮ばかりのものや、疲れきつて陰惨なしわくちやの顔つきのもものや、乞食生活に慣れて厚顔無恥狡猾なものも居れば、不幸のために打ちのめされて執念深く、猜疑心が多く、臆病で、全く愛情のないものも居る。また中には安樂な生活をなし甘やかされたので性格が腐敗し、ただ快樂を求め體裁をつくろう者もある。この種の子供達は、乞食をしていた子供達を嘲つたり、これ等と一緒に平等に取り扱われることを嫌い、また院内の生活が自分達の家の生活の習慣とは違ふので、院内の空氣に順應しようとはしない。そしてこれ等凡べての子供達に共通なことは、身體的技能及び精神的活動の缺乏に基づく頑固な怠惰である。いろはを知っているものは十人中一人もなく、其の他の知識は無論皆無と言つてよい。

神から恵まれた自然の力。私は子供達の無知なことについては左程困らなかつた。なぜかという、私は神がモット貧しい、モット疎略にされ顧みられない子供達にも恵み與え給う自然の力を信じ

たからである。私は從來長い間、世の子供達の荒々しさや、低脳に見える裏にも、麗わしい能力、尊い力が隠れていることを見て居る。そして今、私はシユタンツで私の周圍に居る子供達の間にも、近しい中に其の自然の美しい諸能力が現れてくるきざしを認めた。私は、生活其のものゝ必要な欲求というものが、事物の最も本質的な關係を人間に明瞭ならしめ、健全な精神と一般人の天賦の智力とを發達せしむるに役立つのみではなく、一見荒々しい性質の下に塵芥と共に埋れ、それから自由にされ、淨化されるれば大に活動し、明るく輝きはじむる諸能力を喚び起こすことが出来る、と確認していた。そして私はこれ等の諸能力を覺醒し、それを純な單純な家庭生活に關係させようと思つた。これが出れば、この諸力は、より高い感性と、より高い活動力として働き出し、常に精神を満足せしめ心情も遺憾なく豊かになるであらうと信じた。

春の太陽のような愛情。私は自分の愛情の力で、子供達の性質を變えることが出来るものと確信した。丁度春の温かな穩かな太陽の光が冬に凍結硬直した地面を變えるように、そして私の考は間違つてはいなかつた。周圍の山々の雪がまだ春の太陽によつて溶かされないうちに、自分の子供達は以

前のものではなく、段々立派になりつつあつたのである。

斯くてベスタロッチーは、仕事は躁急に進むべきではない。また、自分獨りで何事も體驗し、他の人の手を借らずに、自分が自分を助けることが、貴い體験的な事實であり、これが自分の全我的な生きた直觀であると信じ、凡べてを獨りで實行したのである。また何人もベスタロッチーを助け得るだけの理解と力をもつていなかつたのである。彼に多少の手助けとなつたものは、家事を見る唯だ一人の婦人のみであつた。そして彼は一般の公共教育は家庭教育の長所を取り入れねばならないと説いて居る。

家庭教育は公共教育の模範である。私は元來、自分の實行實驗によりて、家庭教育は公共の學校教育の模範であり、公共の學校教育は家庭教育に見習うことによつて初めて價值あるものとなるということを説明しようと思つた。家庭生活の諸事情や人間教育に必要なあらゆるものを考慮に置かない場合には、人間を人工的に萎縮させるのみである。

立派な教育に於ては、家庭の母親は毎日毎時常に子供の心身の狀態の變化を、子供の眼や、唇や、

額の中に讀むことが出来るものである。善き人間教育に於ては、教師の力は、純粹なそして家庭生活の全範圍に躍動している父親の力でなければならぬ。

私はこのような基礎の上に立つていた。私は子供達と一體であり、私と彼等は愛情によりて結ばれているということ、子供達の幸福は私の幸福であり、子供達の喜びは私の喜びであること、これ等のことを子供達をして二六時中、朝早くから夜遅くまで、あらゆる瞬間に、私の額の上に見、私の唇のほとりに感じさせようとしたのである。

私は近著「民主教育の本質」の中に詳論して居るように、人間の本性は眞實性であると確く信じて居る。人は他人を欺くことが出来ても、自分自身を欺くことは出来ない。眞實性は人間の心の奥深い處に潜んで居り、それが、敬愛や信義として現れてくる所に立派な社會生活も可能となり、輝く文化の創造ともなるのである。ベスタロッチーは、この眞實性を信じ、人間は喜んで正善を欲する本性をもつと言つて居る。

人間は正善を欲する。人は非常に喜んで正善を欲するものである。子供も喜んで正善に耳を傾け

る。しかしそれは子供を教える教師のためではない。眞實的な神性に恵まれてゐる子供自身が、其の眞實性を生かすためである。故に教師は自分の氣まぐれや激情の思い付きで子供を導いてはならない。事物の性質によつて本來正善であり、子供に正善として明かに認められるものでなくてはならぬ。

子供から信じられよ、愛されよ。子供は自分の愛するものを喜ぶ。自分の名譽となるものを喜ぶ。なにか大きな期待が自分を鼓舞するものを喜ぶ。そして彼は彼に於て力を生ずるもの、即ち「自分は出来る」ということを非常に喜ぶ。こゝに子供の意志の働が見られる。

しかし、此の意志は單なる言葉によつて生ずるものではない。それは感情や力によつて産み出される。言葉は事實其のものを與えない。事實の理解を表すのみである。

斯くして、私が第一に先ず最も力を入れたことは、子供達の信賴と愛着とを得ることであつた。これを成就すれば、すべての他のものは自然に期待されるのである。

ベスタロッチーの教育的精神はこの通り眞實なものであつた。しかしこれを實現することは決して

容易ではなかつた。シュタントツの住民の大部分は新政府に反對して居る。舊習を墨守して新しいものを取り入れる態度がない。ベスタロッチーは彼等の反對してゐる新政府の一道具に過ぎないと思われた。それは彼等は多くは舊教信者で、新教信者であるベスタロッチーを氣嫌したのである。しかし、この孤立無援の窮地に追い込まれたことは、ベスタロッチーの目的を達する上に却つて都合がよかつたのである。これが却つてベスタロッチーと子供達とを一體に結びつけたのである。彼は次のように述べてゐる。

子供と一體の生活。助力のないことは極めて苦しいものであつたが、私の事業はこのために却つて仕合であつた。それは私を子供達にとつて常になくはならぬものにした。私は朝から晩まで、夜遅くまで彼等の中にいた。私はすべて私自ら、彼等の心身に善きものを與えた。彼等に必要な手助け、慰安、教訓を私自ら與えたのである。私の手は彼等の中にあり、彼等の手は私のうちに握られ、私の眼は彼等の眼の中に注がれ、彼等の眼は私の眼の中に入つて來た。

私は彼等と共に泣き、彼等と共に笑つた。子供達は世界を忘れ、シュタントツを忘れ、彼等はたゞ私

と共に居り、私はたゞ彼等と共に居るといふ有様だ。私は子供達と喰べ物や飲み物を分け合つた。私は家族もなく友もなく、たゞ子供達だけをもつていた。もつというよりは、われわれは全く一體であつた。彼等が達者な時は私は彼等の中に寝ね、彼等が病氣の時は其の傍に寝た。私は彼等の眞中に眠り、夜は一番あとで床に就き、朝は一番早く起きた。私は床の中で彼等の眠るまで彼等と共に祈り、彼等の請に従つて教えた。あらゆる瞬間に病氣傳染の危険にさらされつゝ、彼等の着物や身體を清潔にするように面倒を見てやつた。

ベスタロッチーはこのように、實に人力を超越した全我的愛、沒我的愛を以て子供達の天賦の眞實性の覺醒と諸能力の伸長とに力め、多くの子供は次第々々にこれを理解し、其の中にはベスタロッチーが世間から誤解され輕視されるのを残念に思い、二重に彼に愛着するものもあつたが、全體から見て、彼は決して樂觀はしなかつた。子供の中にはなお懶惰放縱なものもあり、勞作を嫌うものもあり殊に天候悪しきため、尼僧院の廊下が濕氣があつて寒かつたことや、生活様式の變化や、食物の事情などで色々の病氣に罹るものもあり、子供の母親には子供を連れ出して再び乞食生活をなさしむるも

のもあつた。しかし子供達の多くはベスタロッチーのまごころに感化薰染され、中には自分達の親が孤兒院に出入の際にベスタロッチーに挨拶もしないというので泣いているものもあつた。學科の方面の教養にも非常に興味を起し、寝につく時間が來てもモット勉強したいという聲も聞かれた。だが流石のベスタロッチーも子供達の個人々々の粗野と全體の生活を秩序あるようにするには非常な骨折であつた。これを威壓的命令に強制せず、孤兒院の高き精神と子供達の調和的の注意と活動から自發的になるように導いたのである。内的なもの、正しい道德的な情調を彼等の中に覺醒し、心の内面的秩序から自然に外面の秩序ある生活が形成されるように苦心した。殊に子供達の共同生活を通して互の同胞愛を養い、院全體を一つの家庭の生活となし、これより正義の道德的感情を躍動させようとした。七十人の放縱な乞食同様の子供達が、一つの小さな家庭の兄弟間にも見られないような平和と愛と親切と誠實とを以て善い生活をなして居る場面を見ては彼も心中満足したであらう。彼は斯くして次のような教育原理の必要なことを體驗したのである。

子供を先づ寛大ならしめよ。同情のあるものに育てよ。彼等の日々の正しい要求を正しく満足さ

せることに於て、愛と慈悲とをもたらし、これ等の心情が彼等の中に植えつけられ生産するようにせねばならない。然る後この美德を仲間の中に確實に廣く實行し得るような判断と技能とを與えることが必要である。善惡正邪に關することも單なる言葉や概念ではなく、日々の家庭生活の具體的な事實と關聯して正しい見解を養うべきである。そして彼自らこのような原理の實行に力めたのである。例へば、彼は子供達に對して宗教や道德上の説教めいたことはやらなかつた。子供達の各自の呼吸が聞ける程彼等が靜肅であつた。時に、彼は子供達に問いかけたり、御前達は騒いでいる時よりも、このように靜かにして落ちついてゐる方が、より賢くより男らしくなれると思わないか、又子供達が彼の頸に寄り縋がり彼をお父さんと呼んだ時に、彼は子供に注意した。「御前達のお父さんをだましてもよいか、私に接吻しながら、蔭で私を困らせるようなことをしたいと思ふか」。話が其の地方の悲惨な生活に及ぶときには、そして彼等は自分達の仕合せであることを喜んで居る時に、「人間に慈悲深い心を與えてくださった神様は何んというよい方ではないか」と言つて聞かせた。彼はまた時々子供達に尋ねた。「貧困な人々を其の生涯を通じて自ら救助し得るように世話をする政府と、貧しい人々を

怠惰と惡徳にまかせ、彼等をして乞食生活を送らしむるか、養育院で扶養するような政府と、何れがよいのか。」

希望のない人間は生き甲斐のない人である。明日の仕事を期待出来ない人は不幸な人である。ベスタロッチーは子供達に未來の希望の光明を與えた。何時までも貧困にとゞまらず、將來教養ある學識と堪能とを以つて同胞の間に役立つことが出來、人々より尊敬を受けるといふ希望を彼等に與えた。彼等は彼等の將來の生活とベスタロッチーの指導との内的な關係を認識して、幸福な未來を想像することが出來た。この希望は子供達をなによりも感動させ激勵した。子供が現在やつてゐる教養が其の希望や期待と一致することが大切であつて、これから色々の美しい徳も發芽して來るのである。これは丁度若き植物が土地と最もか弱き彼等の苗の性質と要求との一致から發芽するようなものである。斯くして子供達の内なる力が子供のうちに生長し、それは彼等の全體に行きわたり、ベスタロッチー自身も驚くほどであつた。

アルトドルフという村が、千七百九十九年四月五日に殆ど全焼した。シュタッツ孤兒院開設後、約四ヶ月の後である。此の時ベスタロッチーは子供達を集めて彼等に言つた。「アルトドルフは、殆ど全焼の不幸に出逢つた。百人もの子供が家や食物や着物がなくなつたであらう。御前達は政府へ此の子供のせめて二十人位をわれわれの家庭に受け入れることを御願ひしないか」と。子供達は是非そふしたいと異口同音に答えた。ベスターロッチーは更に、「併し子供達よ能く考へて御覽、われわれの家には、金も澤山なく、此の不幸の子供達のためこれ以上御金を得られるかが問題である。故に御前達は此の子供等のために、今までよりもモット働き、食べ物もモット減らし、着物も彼等に分けてやらねばならぬ。それでもほんとうに喜んで彼等を迎へることが出来るか」と念を入れて強く言つた。子供達はこれ聞いて、私達はどんなに働いても、食物や着物が減つても是非とも彼等を迎へたいと明かに確かに子供ながらのまごころをこめて答えたのであつた。四ヶ月前に孤兒院に收容された時は、人の物をも奪ひ取つて喰べよう、自分さへ少しよい着物を貰えば他人は何んでもよいといふような貪欲な同情心のなかつた子供達が、四ヶ月間の教育によつて、こゝまで人間らしく生長したのである。

る。ベスタロッチーの兩方の頬に涙の滴りが流れたのも無理がない。

斯くしてベスタロッチーは子供達の宗教心や道義心を覺醒し伸長するために、秩序ある組織的教授を試みることにし、全く日々の生活の實際に結びつけて直觀的經驗的に行つたのである。従つて理論的説明よりも子供の感情に訴へ、又自主的に克己節制するように訓練し、更らに自分達の位置と環境とに即して自ら反省し、考察して正義や義務の正しい意味を體驗するように導いた。子供が騒々しくがや／＼して居る時は、こんな状態で勉強が出来るかと靜かに一ト言注意しても、其處に高い道義に達し得る基礎が築かれて行くのである。自由や平等ということについても、彼は言葉を以て其の概念を説明する代りに、自由や平等の生活を體驗せしめたのである。親が凡べての子供を平等に愛するやうに、ベスタロッチーは凡べての子供達を平等に愛し、公平に取り扱つた。又子供の個性がすらすらと伸びるやうに、出来るだけ自由の空氣をすわせ、子供達を快活にするやうに力めた。子供達の天使のような眼を、曇らせないように力めた。彼自身も出来るだけ陰氣な顔つきをせず、幸に微笑をたたえるやうに注意し（著者及長田博士の苦心の結果入手せるグローブのシュタンツに於けるベスタロ

ツチの繪は彼の顔つきを頗るよく描き出して居る。子供達も顔に皺をよせることを憚り互に微笑み合うようになって呉れた。これから子供達の自發的な活動も氣持よく起つて來るのである。

無情なもの、粗野亂暴なものに對しては、時には體罰を加えた。師弟の間が親子のような愛情で結ばれて居れば普通の學校とは異なる。シュタンプ孤兒院のような場所では體罰も已むを得ないという見解である。彼は體罰を加えた子供には、次の瞬間に親切に、接吻したり、握手したりする。打たれたものも喜んで居ると言つて居る。併し私は此の體罰についてはベスタロッチの意見に同意することは出來ない。彼は一面には非常に氣分が變化し喜んだり、怒つたりするのであるが、他面には非常に根氣が強く辛抱する力をもつていた。此の根氣と辛抱強さを以て、體罰を加えることなく、躁急に結果を急ぐことなく、常に寛大に子供を取り扱つたならば、更に一層よりよき成績を擧げ得たものと思われる。家庭の親子の間に於ても體罰は慎むべきである。愛の鞭も溢りに使うべきではない。親が長男を打てば、長男は其の弟を打つようになる。打たれた者はまた人を打つようになる。寛大寛厚に育まれたものは人に對しても同様の態度をとることが多い。

孤兒院では、朝六時から八時までは授業を行い、それから午後四時までは色々の仕事をやらせ、其の後再び八時まで授業というのが、ベスタロッチが開設後四ヶ月目に政府へ報告した所である。

綴り方、読み方、書き方、などを教えたが、これは主として、これ等の方面の完成を期するというよりは、これによりて、子供達の心の諸能力を發達させようとしたのである。地理や博物なども教えた。博物では子供達の動植物の觀客と結びつけて教えた。數え方や簡単な歌をも教えた。これ等の學科は、皆子供の色々の諸能力を發達させることが目的であり、殊に注意力や、熟慮及確實なる記憶力の練習に重きが置かれた。彼はこれ等は判斷や推理に缺くことの出來ない基礎的な能力であると信じていた。

彼は殊に、學習を勞作勤務に結びつけ、學校を作業場に結合せねばならぬということを長い間考えていたのである。これは利得を得るといふよりは、心身の練習のためであつた。諸能力の發達のためであつた。然るにシュタンプに於ては、これに要する道具や資材なども缺乏して居り、彼の考を十分に實行出來ず、彼がシュタンプを去る少し前に、多少の糸紡ぎの道具を入手し、僅か數名の子供達に

糸紡ぎの勞作をさせたに過ぎなかつた。

彼はすべての教授に於て、どんなつまらないことでも完全に覺えるようにした。一旦ふみしめた足場は決して失わぬように、決して退歩しないように力めしめた。一度覺えた言葉は一語でも忘れしめない。一度立派に書けた字は再び拙く書くことを許さない。どんなに遅くともこれには辛抱したが、前に上手にしながら、後により悪しくなした時には厳しかつたのである。これは後章に於て述べる積りであるが、ベスタロッチーは人間の本性は神性であり、神の信仰は凡べての能力の發展の土臺であるという堅い信念をもつて居つたので、事物の完全、完成といふことを非常に重要視したのである。なぜならば、神は絶對完全であるから、神性に恵まれている人間は、どんな微細なことでも、これを完全に行うといふことは、其の神性に忠實であり、神への信仰を堅固にする基礎の力であるからである。

ベスタロッチー傳の著者として名高いモルフはシュタンツに於けるベスタロッチーの教育方法について七項の要約を述べているが、其の主なるものを三四紹介し置く。

- 一、人間の知識は、直觀の上に建てられねばならない。この基礎のないものは空虚な冗語で、人間の使命や人間の幸福に對して、無知であるより一層危険である。
- 二、あらゆる教授は子供の幼稚な力が達し得るような單純な初歩から出發せねばならない。教授に於ては、自己發展する子供の進歩と常に正確に歩調を合わせて間隙のない進歩をさせねばならないがそれには、此の初歩のものにたゞ僅かの附加物を加えて漸進的に子供自ら一步一步と進展するようにせねばならない。
- 三、教授法と教授材料とは出来るだけ單純化され、どんなに教養の低い教師や母親でも、これを實行し得るものでなければならぬ。斯くすればこそ國民一般に精神陶冶が普及することが出来るのである。
- 四、各方面の初歩的のものが十分に練習されて、完全に子供のものとなり子供は自由にこれを處理することが出来るようにならねばならない。既に體得されたものに新しい要素が附加される次ぎの階段に於てもまた同様であらねばならない。然らざれば教授によりて何等の精神陶冶も出來ず、た

だ混乱と無益な知識が生ずるのみである。

モルフの要約は狭義の教授法に關するものであるが、これまで、隨所に述べて來たように、ベスタロッチーは知識上の教材を教授する場合でも、其の目的は常に子供の天與の諸能力を圓滿に調和的に發展せしむることにあるのである。而も教育の全體は愛の泉から湧き出たものであらねばならない。ベスタロッチー自らも、愛から自然に湧き出たもの以外に、何等の順序も方法も技術ももつて居らず、又他のものを求めようとしなかつたと述べている。彼は子供達の中で優れた者をして他の子供に教えしめて居り、彼等は自分の立派な助手であると讃えて居るが、かような子供達相互の學習は、彼等相互を信頼せしめ、敬愛し、愛敬せしめ、ベスタロッチーの愛の教育の助成と擴大に役立つて居る。シュタンツ教育は、實に愛の教育の最高峰であり、愛はそれが眞實であり、十字架を怖れない時に、神の力を發揮するといふベスタロッチー精神の生きた發現である。

グロープの描いたシュタンツ教育の繪畫をはじめ、ベスタロッチーの生涯を藝術化しようとする企ては、多くこのシュタンツに於ける實況を繪畫に表わしているのも自然にうなずかれるのである。

第六章 ブルグドルフに於けるベスタロッチー

一、靴屋を校長とする學校に就職

シュタンツに於ける超人間的な熱情的教育愛の發揮によりて痛く健康を害したベスタロッチーは、グルニーゲルの丘上で暫らく休養することを餘儀なくされた。併し、彼の熱烈な人間愛は永く此處に留まることを許さなかつた。

私は脚下に美しい谿谷を見る。未だ嘗つてこのような廣々とした自然を見たことがない。併し民衆のことが氣に懸つて、いつまでもこの美しい自然を楽しむことが出来ない。所詮私は仕事なしには生きることが出来ないのだ。

祖國の民衆の無教育と墮落とはグルニーゲルの丘上から彼を引きおろした。動物的な利己心に支配されている祖國の粗野な民衆、畢竟彼等は教養を缺乏しているのである。其の結果は不器用であり、

不器用な困窮を、困窮は貧窮を、貧窮は犯罪を生む。貧しいものは施され、救助されねばならない。併し貧窮の原因は無教育無教養である。この原因を取り去らねば、永久に救われない。貧窮は無産者を作り、道德破壊者を生む。彼等に新しい教育、新しい教養を與えて、根本的にこれを救済せねばならない。神が人間性のうちに恵み給える宗教的、道德的、精神諸力、肉體的の色々な力が調和的に發展せるような新教育をとりて人間の土臺を作り直さねばならない。この烈しい感動感激の力はベスタロッチーをして僅か數週間の靜養の後グルニーゲルの自然美をふりすてて、ブルグドルフの靴屋の學校へ走らせたのである。

彼はベルン市に近い人口八千許りの小都市であるブルグドルフの當局に、子供の學校への就職希望を申出た。無報酬でもいいから、自分の新教育を試みることを許して貰いたいと頼み込んだ。幸に當局の理解を得て、千七百九十九年の七月に下層階級の子供の居る學校に就職することが出来た。彼の五十四歳の時である。校長といふのはディースリーという人で、内職として靴を製造して居つた。事實教師が本業か、製靴が本業か分らない位のものである。學校には七十三人の子供が學んで居り、ベス

タロッチーは其の半數の子供を引き受けた。

彼の教育法は、校長のやり方とは異り、教科書を用いず、習字帳なども殆ど用いず、宗教問答や讚美歌及詩篇などについても顧みる所がなかつた。彼は自ら話して見せ、子供はそれを真似して繰り返えし、石盤へは自分達の好きなものを描いて居り、殆ど無計畫的の教授のようである。校長は厄介者が自分の所有の學校に入つて來た。彼に學校を横取りされては困ると思つて、子供の父兄と一緒になつてベスタロッチーを追出そうと運動した。併し、當局者はベスタロッチーの教育精神を理解し、これに同情をもつて居つたので、中流階級の子供の居る綴字讀方學校に彼を轉せしめ、其處で新教育を繼續することを許した。

二、中流市民學校の教師

この學校の校長は婦人であつて、五歳から八歳までの男女の兒童が二十五人許り居つた。ベスタロッチーは朝の八時から午後七時頃まで子供を教えたり、學校の色々な用事を處理した。新教育の方法

としてはシュタンツ以来の考を繼續し實行したのである。凡べてを出来るだけ直観に訴え、子供に最も近い周囲にあるものを利用した。教室の破れた壁紙の如きも立派な直観の材料となつた。子供達は其の上に描かれてある圖や、紙の裂け目や穴などについて、其の色、其の數、其の形や位置などに關して明確な言葉で言うように練習させられた。彼は形や數や言語は直観に缺くことの出来ないものと信じていた。綴り方でも、計算でも、凡べての教材は出来るだけ單純化し、而かも徐々と一步一步完全に覚え、間隙や不完全がないように練習することを力めた。すべて教授を單純化するという事は彼は彼の方法を家庭の親や、女中でも容易にこれを利用して子供を教えることが出来るように教育を普及したいという念願からであつた。家事に忙殺される母親にとりては、子供を教えることは重い仕事であるという反對もあるが、ベスタロッチーの方法を利用すれば、それは仕事や勞働ではなく、むしろ遊戯である。母親は楽しみながら子供を教えるのである。

千八百年の三月に、學校委員會の人々の巡視があつたが、彼等はベスタロッチーの功績を認め、彼は幸にも表彰された。僅々八ヶ月の間に於て、驚くべき成績を擧げている。よい子供は書き方や圖畫

や、算術などに於て好成绩を現はし、又一般に歴史、博物、幾何學などについての趣味を養われてゐる。彼の方法によれば、母親又は女中ですら家事の忙わしい間にも子供を教えることが出来ること稱讃された。そして彼は五月には第二級の學校長に昇任したのである。

彼は相變らずの貧窮者である。食事を缺いたことも度々である。教育愛人間愛以外には何にもものなかつたが、心身の過勞には困つて居つた。この時に彼は幸にも一人の援助者を得た。それはクリュージーという青年教師である。ナポレオン戦争の戦禍はスキサの東部地方にも影響し、住民は困窮し子供達の生活や教育も脅かされた。フィツシャーという學者で教育に熱心な人が居り、これ等の地方の子供達を引き取つて教育することになり、クリュージーは二三十名の貧しい子供達を引きつれてブルグドルフにやつて來た。フィツシャーはクリュージーをベスタロッチーに紹介し、二人は協同的に仕事をする事になつた。クリュージーは永い間、ベスタロッチーの學校で働き非常な助力をなし晩年は師範學校長となつた人である。彼はガイスという寒村に生れて前にも述べたように著者私は四十年前歐米留學の際スキサの此の寒村を視察し、教師ピオンの創設せる夏期植民などを見學したこ

とがある。クリュージューは村の學校以外には格別の教育もなく、父の仕事を手傳い、商貨の買入れや機織、日傭仕事などをして居つたのであるが、或る時町からの歸途、山上で腰をおろして一ト息ついて居ると偶ま村の牧師が其處を通りかかり、村の學校の教師になる試験を受けて見てはと勧誘された。其の時受験せる者は彼の外に四五十歳の男が一人居つて、十七八歳の青年クリュージューは到底合格の見込みがないと覺悟していたが、クリュージューの家が少し廣く、村の子供を收容するに十分であるといふので、幸に彼一人及第となり、爾來六ヶ年許り子供相手に、牧師などの援助の下に辛うじて教師の職をつとめていたものである。

クリュージューもベスタロッチーも圖書や唱歌が下手であつた。クリュージューの友達のとーブラーの紹介で、ブッスという人を音楽と圖書の教師に迎えた。そしてとーブラー自身もまた迎えられて、新教職の仲間に入つて助力することになつた。

さて、ベスタロッチーの學校も、其の職員に於て愈々陣容が整い、彼は兼ねて考えていたように、自ら獨立して新學校を創設するという實際上の運動を起こした。スキスの政府の内閣の人々は、此時

には皆退いて居り、ベスタロッチーを大に援助して居つた文部大臣のシュタツバーも、野に下つて居つたが、ベスタロッチーのために何にかと便宜を圖り、心からこれを助けて居り、ブルグドルフの市民や當局も、ベスタロッチーを理解していたので、新學校の創設に同情し、ブルグドルフの古城を彼に提供することになり、千八百年の十月に愈獨立の新學校が創設された。彼の五十四歳の時である。

三、新學園の創設と其の實況

新學校には新にネーフという立派な熱心な教師が就職した。彼は佛蘭西入でナポレオンの下に軍人として働いたのであるが、戦争で負傷し、何時までも軍人として働くことが出来ず、ベスタロッチーを慕つて教育界に身を投ずることになつた。彼は數年後、佛國に歸り孤兒院を經營していたが、ベスタロッチーの推薦で米國へ渡り、米國にベスタロッチーの教育精神を傳え、米國で亡くなつたのである。この事は後に詳細記述する積りである。彼は體操を受持つたが、子供の先頭に立つて、スキスの歌を歌いながら行進し、常に子供の仲間となつて、子供から非常にすかれた人氣者であつた。

ベスタロッチーの教育が、漸く識者の認むる所となり、新教育に熱心な人々、教育革新に熱心な人は、彼の新學校を視察し、夫れから夫れへと、其の立派な成績が伝えられて行つた。殊に千八百〇一年に、彼の名著「ゲルトロールドは如何に眞の子を教うるか」が出版され、彼の名聲と、新學校とが益々廣く斯界の話題となり、視察者は益々其の數を増し、遠くはデンマークあたりからの熱心な視察者もあつた。ベスタロッチーも心中大に喜び、視察者に對しては、食事を共にしたり、町はずれまで見送つたりして慇懃にそれを待遇し、書面による質問に對しては、非常に懇切に解明の答を送つた。當時の學校の事情については、彼自身も前記の新版の書の中にも述べているが、彼以外人の目に如何に映じて居るかは、評價の資料として興味あることである。

彼の愛する教え子の中に、ラームザウエルという人が居る。

ラームザウエルは、千八百三十八年、彼の四十八歳の時に「私の教育生活の略叙」という、ベスタロッチー研究に非常に貴重な資料を提供して居る興味ある書物を公にした。色々の書物にあるベスタロッチーの數々の天才的な逸話などは多く、此の書物から引用されたものである。此の秘書が私の手

に入つたのは昭和五年の一月十五日で、偶然私の誕生日であつた。私は書物の表紙の裏に感激措く能わずと記して秘藏して居る。

ラームザウエルは千七百九十年に、アッペンツェル縣のヘリザウに生れた。父は小さな工場をもち糸紡ぎや織り物などに要する器具類を販賣して居つたが、彼の四歳の時に亡くなつた。母は七人の遺兒を抱えて、父の業を繼續して居り、相當の生活をなしていたのである。

千七百九十六年、千七百九十九年の佛國革命の影響で、此の地方は商業が不振となり、食糧難が迫まつて來た。三千五百人の男女の七歳から十四歳迄の子供達は、他の地方へ移されねばならなくなつた。この時十歳のラームザウエルは近所の子供達が他の地方へ送られるのを見て、自分も一緒に行きたくなつた。度々懇請したので、母もこれを許した。彼は十歳から十四歳の子供達と共に母の膝下を去つた。ブルグドルフの南方約一時間のオーベルグで、子供達が列を作り、高貴な篤志者は其の中の容貌の美しいのを選び、富める農家の人は、頑丈そうな子供を選んで引き取つた。ラームザウエルはブルドルフの西方約一時間のシユロエメンという村の親切な婦人に引き取られ、ブルグドルフで

經營を初めたばかりのクリュージの學校に入學させられ、間もなく、ベスタロッチーの居つた市民學校へ移り、其の後ベスタロッチーから其の自營の新學校の子供として收容されたのである。彼は知能に於ても優れて居り、十二歳の時に三十人の子供に読み方、書き方、圖畫、計算などを教え、ベスタロッチーの手助けをしたが、後年は立派な教師として、イヴェルドンの新學校のために力を盡くし二十六歳の時にオルデンブルグの王子及王女の教師となつた。併し彼もまたベスタロッチーの精神に感化されて居るので、四十六歳の時より、貧兒の職業學校のために骨を折ることになつた。次ぎにラームザウエルの思ひ出を少し紹介して見よう。

ベスタロッチーの生徒のうちで、この學校に第一に入り、ベスタロッチーと共に城内に住むことが出来たのは私である。彼は自分のことよりもいつも他人のことを考えていた。彼は父親のように愛に充ちて眞實であつた。私は生徒として教育されたが、この家の子供として彼のために給仕役をつとめた。仕事として樂でないのは、城の中の水汲みであつた。直徑二十四尺もある水汲車輪の上に上つて、深さ三百八十尺もある岩の空洞の中から清水を汲み上げることであ

つた。殊に冬期には烈しい風が吹きまくるので一層つらかつた。併しこれ等の家事上の色々の用事を手傳つていたために、下女下男の群に入つて駄辯の仲間入をすることがなかつたのは、神に感謝すべきことである。常に六人から八人位の給仕がいたが、皆少くとも半日は仕事をなし、其の残りの時間を勉強のために使うことが出来た。時によると給仕としての雑用に忙しく引きつゞき一週間も學習することが出来ないこともあつたが、ベスタロッチーは私を非常な愛と注意とを以て取り扱つて呉れた。

授業は朝の八時には始まり、十一時迄つゞけられた。十時頃にはベスタロッチーは其の熱心さの餘り疲れるように見えた。十一時頃には他の學校の子供が往來で騒ぎ立て、居るので、それを合圖にわれわれも挨拶もせず教室を出て行つた。

彼の教え方は常に、數、形、言語ということに注意されていた。出来るだけ直接の直観に訴えたのである。例えば教室の古びたポロ／＼にさけている壁紙の前に子供達は交る／＼、時によると二三時も立たせられて、其の形や、數や位置、色などについて觀察し、ベスタロッチーは

男の子供にのみ向つて問答する。子供達は壁に一つの穴がある。壁に一つの裂け目があると答えると彼は

私は壁紙の中に一つの空を見る。

私は壁紙の中に一つの長い穴を見る。

私は穴の後に壁を見る。

私は長い細い穴の後に壁を見る。

と自分の通りに繰り返し返せと言つて練習させた。

博物などについてもこのような風に教えられたが、實は彼は言葉について説明もしなかつたので、われわれは一語も理解することが出来なかつた。

彼は徐々に教え、一つの事が完成するまでは、次のものをはじめないという主義であつたが、ライムザウエルの此の思ひ出によると何時もこれが成功したとは言われないように思われる。併し教育協會の委員の報告では、子供達は綴ること、讀むこと、書くこと、計算することを非常に早く、其よく

覚えるのに驚き普通の村の教師が三年かゝつて達し得ない程度のもものを、彼は六ヶ月で成功すると述べている所を見ると、一般には彼の教授法は非常に効果があつたのは疑もない事實であつたらう。

ライムザウエルはなお次のように述べている。

唱歌は何によりも愉快なものであつた。戸外でも、旅行や散歩の時でも、又毎日の夕方は城中の庭の中でも到る處で歌つた。この合唱によりて子供達の互の友情が段々厚くなつて來た。

そしてネーフは私達の最も好きな先生であつた。彼は常に子供と一緒に遊んで呉れた。一緒に練習し、一緒に散歩し、水泳し、木にのぼり、石投げまでも一緒にしてくれた。彼は全く子供と共に生活したのである。従つて子供に對して無限の權威をもつてゐた。彼は世の所謂教育家ではない。教育者としての眞の心情をもつていたのである。(ネーフは千八百六年に米國へ渡りベスタロッチーは他の先生達には子供を打つことを嚴禁したが、自分は時に子供を打つた。子供達は仲々亂暴で騒々しかつたので、私はベスタロッチーを氣の毒に思い、靜かにすることに力めた。私は其のためか、度々十一時頃から彼の散歩に伴われ、天氣のよい日にはエンメ河の

ひとりへ連れて行かれた。彼はこゝで何時も小石を採集する。私も澤山の小石の中から、よい加減に無茶苦茶に小石を拾い集めた。彼は小石のことについては何にも知らないようであるがいつもポケットとハンケチに一杯小石を集めた。彼のこの楽しみは一生つゞいたようだ。そのためにブルグドルフの學校には一枚として穴のない、裂け目のない完全なハンケチが見出されなかつた程である。

天才ベスタロッチーの無邪氣さや、兒童愛の面影がこれ等の思ひ出の記事によりてうなづかれるようである。

唱歌や小石拾いで思ひ出だされることは、ベスタロッチーの自然觀である。自然という言葉は、彼にとりては或る時は神と殆ど同じ意味に、宗教的自然の意味に、又子供の自然の發達という心理的自然という意味に、更に客觀的の自然其のものに使われて居る。

世の母親は子供が一歳になる頃には其の子守歌を止めて了う。これは子供の自然の發達に添わないものである。子供はなお子守歌を要求するが、母親は家事に忙しく、子供の要求を満たしてやらな

う。卑しい心を高め搖籃の歌から壯嚴な神の讚歌に達するような數々の歌が必要であると彼は述べて居るので、其の新學校に於て唱歌を奨励した所以も分るのである。

又小石拾は恰かも無意味のものゝように思われるが、客觀的自然美について、彼は其の當時の教育界では、これを粗略に取り扱い、子供の美の感情を養うことに注意しないのは一大缺陷である。太陽は徒らに上り、また徒らに沈む、森も、牧場も、山々も、谿谷も、其の限りなき美しさを子供に印象づけられずに空しく展開すると慨嘆して居る。彼は實に自ら自然の美しさに感動し、子供達にもこれに觸れしめようと力めて居る。人が脚下に踏みにつつて顧みない小石の姿にも、彼には無限の美しさが感じられたであらう。小石のある野原や川原は、また彼に言うべからざる美感を起したのである。彼は子供達に言葉で自然美を説明することを止めて、先づ直接に其の美しさを味わしめようとしたのである。

この小石採集について次のような逸話がある。前にも一寸名前が出て居り、その後にも尙記述することになつて居るが、ベスタロッチーと懇意の間柄であるフェレンベルグという人がブルグドルフ附

近のホーフファイルに農學校を經營して居つた。或る時此の學校の仕事をして居る連中が、フェレンベルグの許へ、飢と疲れとで野原に半死の状態で倒れていたというみすぼらしい老人をかつぎ込んで来た。これは實にベスタロッチーであつた。彼は小石の採集に夢中になつて思はず遠方まで、深入りして道に迷い、溝の側に半死半生のありさまで倒れていたのである。又此の頃、ハンカチに一ぱい小石を包み、夕方町の門の附近を歩いて居ると巡査に怪しい乞食と思われ、捕えられて、裁判官の前に引き出された。役人は外出していたので、ベスタロッチーは長い間護衛附で控所に待つていねばならなかつた。役人が歸つて見ると、ベスタロッチーと分つて驚いて挨拶をなし、後晚餐に招待した。

又彼は直觀の事物については、先ず以て其の最も手近かにあるものに注意させる。ラームザウエルの思い出になる教室の壁紙の如きも其の一例である。彼は近より遠に及ぶということは人間の心理上の自然と考えていた。自分の家の前に生えている木を探し求めて、幾里もの遠方にまで出掛けるような子供は遂に木を知ることが出来ない。自分の家の中で價值のあるものを見出だすことの出来ないものは全世界に於てこれを見出だすことが出来ない。母の眼に愛情を感じない子供は世界の涯まで漂浪

しても人の涙によつて親切に動かされることはないであろう。自分の手近の周圍の境遇によりて徳と智慧とに目ざめるものは立派な善良なる人になるが、手近のものを顧みないで、遠方にこれを求むる人は立派なよい人になることが出来ない。これは實にベスタロッチーの信條であつて、ブルグドルフの學校の實際に於ても非常に人の注意を惹き起したものである。殊に彼の兒童愛は學校を家庭的にした。參觀せる者も學校ではない。家庭であると話した位である。凡べての教育は家庭より、家庭の母より出發すべしという彼の確信はシュタンツに於ても、ブルグドルフに於ても實際に實現されたのである。

千八百二年八月にベルリンのソヨーという人が、ブルグドルフの新學校を訪れ、其の視察記を小冊子として公にした。次ぎに其の中の主なることについて紹介して見よう。

ベスタロッチーを空想家だとか、功名心の盛んなものだとか言つて罵るのは、苛酷な非難である。彼はわれわれの多くの人々よりも深く感じ、大膽に思惟し、勇敢に意志したから、人々は彼を空想家とするであらう。彼には古い學校改革は畸形に見えた。そして彼は氣高い憤怒の感

情を以て青少年のために、彼等の精神が歡喜と自由とを以て活動することの出来る練習場を戦い取るうとして慣習の限界を破つて進むのである。……

彼は自分の外よりも内に生き、現實界よりも理念界に生きる。不安の精神乃至内的衝動は彼を驅つて、一つの部屋から他の部屋へ、或る家人の許から他の家人の許へ行かせた日が多かつた。斯くして恰かも彼は逃走する思想を追い、紛糾した疑問を無理にも明瞭にしようと欲するようである。無数の訪問者はまた屢々この不安に彼を導くのである。或る時は彼は幾日でも部屋のうちに辛抱し、自分自身のこと、自分の用事のこととも全く忘れて思索したり、執筆したりする。彼と談話を始めることは容易である。併しそれを持続して満足の結果に導き行くことに來訪者が成功することは稀である。また、く間に瞑想の糸を断ち切つて親切な言葉を語るかと思ふと、また自分自身に還つて行く。併し吾々が彼の注意を根本的の異論や疑問に導くことが出來れば、彼は活氣附き腹藏なく語る。彼は性急に、斷乎として、明敏に、語勢能く、確信を以て語る。反對しても感情を損ねることはないが、併し確かにそれは彼を一層しつかり彼の説に

基礎附けるより外の効果は殆ど有つていない。

愛と友情とが彼の全精神を満たしている。彼は思想と言葉とで友人や生徒に語るよりも、寧ろ感情で語るように見える。情をこめて相手をボンと叩くこと、力強い握手、親切な眼光、同情と感謝との心を以て手を執ること。これが口數多い感想談や一時的の思い付きよりも、彼には一層自然なのである。彼は家人に對すると同様に他人に對するようである。……

彼の精神の確乎たる獨立的の性格は外部の風貌にも現れている。彼は、自分に紳士の教養があるなどと、自負する資格は殆どない。彼が思惟し信賴すること、彼が感じ希望すること、これ等は彼から純粹に獨自な仕方で見れる。歐羅巴の風習や、禮儀などの形式は知らないで、彼は何事も彼の精神と心情との衝動に任かして置く。彼は寡言で、眞實で、眞面目で、多感で全く謙虚で、感覺的のものに心をまぎらすことのない潑刺さがあり、同情からの親切さがあり狡猾でなく、言葉や行爲に變なうぬほれというものが無い。彼は世間的人間的の教養を受けていないから、何んといつても直接に人間に影響することは心得ていない。彼には落つきある思

慮や人生の瑣事に對する強い同情や行爲の確實な正しさや、子供の世界に慣れた教師の有つてゐる社會的の熟練などは缺けてゐる。彼は教育するより考える方が得意である。

ソヨ一の此の評論はペスタロッチーの性格を相當に言い表わしてゐるようである。ペスタロッチー自らも度々これに類する自己反省を洩らしてゐる。併し最後の一句、即ち教育するよりも考える方が得意であるというのは如何であらうか。形式ばつた行儀端正の教育家は案外子供に感化を興えることが出来ない。ペスタロッチーのように天真爛漫な、自分を隠くさずに、その有りの儘をさらけ出だす所の子供らしさが、却つて子供の仲間として子供のうちに取り入れられ、私等の父ペスタロッチーという愛敬と信頼とを以て結びつけられ、其處に自然に大きな感化が力強く起つてくるのである。彼は努めずして立派な教師である。自然に教師として立派な性格に恵まれた天賦の教育家であるのである。

ソヨ一は更につゞける。

朝六時に全學園は活動を始め、夜十時に少年は一室に集まる。ペスタロッチーは父らしい風紀

檢閲を行う。……

近いエンメ川はよい游泳場で、全學園は熱心に其處を訪れる。夜の放課時には喜びに充ちた子供達は庭に集まる。教師はスキスに關する簡単な歌を歌うと、子供達は一人残らずキッチンとした列を作り、拍子を合はせて彼方此處に行進する。

子供は完全な健康を楽しんでゐる。彼等はすべて清い山の空氣を呼吸し、そして美しい自然を楽しんでゐる。何ものも彼等の口を刺戟せず、彼等の身體を柔弱にせず、彼等の感覺を酔わさず、彼等の心を狹隘にせず、また彼等の風習を損じない。日々の務めは彼等の精神を力強く捕え、彼等は描くことと教わること以外は何ものも考えないほどである。その上日曜日には彼等は思い／＼に教室に集まり、一人一人で、若くは大勢一緒に計算の練習をする。直觀表を獨りで熱心に暗誦していた子供の聲を如何に屢々私は盗み聴きしたことがか。

教育に於ては、子供に出来るだけ自由を許し、たゞ自由を濫用することだけは防ぐという原理が支配してゐる。何かを強制したり、活動を制限したりする規則の力を吾々は何處にも認める

ことは出来ない。教師も生徒も山地の住民のように素朴で、自然である。教え込まれた禮儀や美しい動作や、調子のいゝ言葉や、因襲的の風習など全く見當らない。子供達はたゞ彼等の純な自然の感情に従う。彼等は自分が何をなすのか、それさえ知らない。飽くまで自由を樂んでいるが、法の一定の範囲内に彼等は身を保っている。利己心や、悪るい愚弄や、喧嘩好きなどは滅多に起さない。學園の創立以來まだ處罰の必要はなかつた。……道德陶冶に關するベスタロッチーの原理は次のように優れている。

道德を説くことによりては善の萌芽は成長しない。だから子供の前でまた子供に對して、子供の心に生じて欲しいと君が思うその心に從つて實行して見せるがよい。また子供が君を愛し君を全く信頼するような關係に君を置け。

全體の同居者は百二人に達する。其のうち七十二人が生徒で、五歳から十三歳までのものは七歳と九歳の間のものである。大部分はスキス生れのものである。教師は約十人であり、方法を研究するために二三の外國人が滞在していた。一定の學級區分はまだ考えることは出来

ない。大體五六人の子供の集りで、それは各時間後に解かれて他の集りを作る。

教科書は綴りを習うものだけにエイビシー讀本が渡される。最も小さな子供は小石や木の葉などで數え方を習つたり、また石盤の上で線を引くことを習つたりする。……また一人一人順に、教師になつて他の者を教える。數えることは一定の必要な規則に従つて發達するのであるから、教師は飛躍したり混亂が生じたりしないように注意して居り、算術の成績も仲々よい。他の時間には直觀のエイビシーが行われる。二三の子供は線を描き、他の子供は正方形を描き、また他の子供は再びこれを新しい形に分けて、最も熟練したる子供は紙の上に手と眼と頭とで描く。エイビシーの方法は次のようなものである。教師の言葉、例えば「私は左から右へ水平線を引く」を生徒は實行しながら口眞似する。教師は次のようにつゞける。私はこの水平線を一點において二等分する。斯くして目指した形が完成するまでつゞける。次ぎに教師はコンパスで一々の圖を測る。その最も正しい圖が作者の勝利を決定する。二三の者は非常に熟練に達した。彼等は正方形を恰かもコンパスを用いたように最も正確の關係に描く。一人は器

具なしで、地圖を縮少した尺度で模寫したが、非常に正確で、恰かも彼が器具を以つて輪郭を描いたようであつた。彼等は如何なる試験にも堪えるような圖を描くことが出来る。(長田博士譯モルフ著ベスタロッチー傳第一卷より)

ソヨーは世界的に知名な人でもないが、獨逸人にて、ブルグドルクを視察した人々のうちには世界的に相當知名な人が居る。

哲學者として、大哲カントの講座の後繼者として名譽の地位を得たヘルベルトの如きも其の一人である。彼は教育學をはじめて科學的に組織し、其の思想が日本にも傳わり、往年谷本博士などの力によつて、全國的に日本の教育界に影響を與えたことは人の知る所であり、其の目的論の内容や、全人的興味語の如きは今日なおわれわれの討究に價するものである。此のヘルベルトは大學卒業後、家庭教師としてスミスに滞在中千七百九十九年にブルグドルフでベスタロッチーが市民學校に在職中彼の授業を參觀し、千八百二年に『ベスタロッチーの新著「ゲルトロッドは如何に其の子を教うるか」』

つて』と云う書物や、千八百六年には『ベスタロッチーの直觀のエイビシーの理念』と云う書物を著してゐる。

牧師ともなり、貴族の子弟をも教育し、教師養成所や、兒童教育の色々の事業に骨を折つたエワルトという人は、孤兒院で教育され當時尙學業に従つていたブレンターマンと云う青年を、ブルグドルフに送つて新教育法を見學せしめ、其の報告に基ずいて、數回の講演をなし大にベスタロッチー主義の美點を紹介した。

獨逸の教育界に於ける一つの記念塔ともいふべきプラーマン學校の創設者、プラーマンはハルレ大學で神學を研究し、家庭教師となつて健康を害し其の回復のためにスミスに靜養に出かけた。千八百三年の五月ブルグドルフへ行つて、數ヶ月の間熱心に見學した。ベルリンに歸つて千八百五年にプラーマン學校を創設し、ベスタロッチー主義を實行に移した。此の學校には後年獨逸の教育界で有名になつたハルニツシヤ、ヤーンヤ、體操の父と呼ばれる幼稚園の創設者フレイベルなどが教鞭を執り、ピスマルクは幼年時代の教育を此の學校で受けたのである。

視察者の中の名高い人には、更にグルーナーが居る。彼はゲッティンゲン大學で神學哲學教育學などを研究し、其の後家庭教師となり、健康上の療養かたがたスキスへ行き、ブルグドルフを視察した。はじめはベスタロッチーの方法を反駁する積りで敵意を以つて臨んだが、數日の見學の後、其の強力な味方となり、遂に三ヶ月以上も滞在したのである。ベスタロッチー主義のために有益な著書をも公にして居る。彼は千八百五年にフランクフルトの模範小學校の校長となり、大にベスタロッチー主義を實行したが、晩年は師範學校長として盡力した。幼稚園の創設者となつたフレイベルにベスタロッチーの教育について推奨し、彼にスキスに行くことを勧めた。千八百七年に青年フレイベルはベスタロッチーのイヴェルドンの學校を見學し、其の後再び、自分に委託された二人の少年を連れてイヴェルドンへ行き、二ヶ年間も滞在した。彼の幼稚園教育の根本精神としての兒童の神性開發や、母親學校の考は實にベスタロッチー精神の延長發展である。

さてグルーナーは三ヶ月以上もブルグドルフに滞在し、教師や生徒と寢食を共にし、晝間は生徒の群に入つて熱心に見學したのである。次の記述は新學校の一端、ベスタロッチーの教育の實際をよく

傳えて居る。

毎朝（冬は六時直後）數人の當番の子供が他の子供よりも早く廣間に集まる。……ベスタロッチーは燈火を持つて入つて来る。喜意と情愛とが、父らしい朝の挨拶に現れる。後は銘々に握手を求める。子供達のそれぞれの氣質を考えて言葉を交わす。時々全體の生徒に話しかける。親しく同情しながら、一人一人の生徒にそれぞれ關係のあることを尋ねる。若し餘り健康でない時は其の容態を、又練習がむずかしい時には其の進歩についてか、それとも其の親達が恐らく其の子供に望みそうな熟練の進歩について尋ねる。彼は子供に親達を思い出させ、親達を喜ばせるようにせよと言う。彼は個々の生徒に言うことを、如何に特殊なことでも道徳的、宗教的感情に結びつけて、わざとらしい所がないようにすべての生徒に適用する。といふのは、この道徳的宗教的感情こそ自然がすべての人の心に秘めたもので、人が特殊のものゝの直観によつてそれに働きかければ、屢々最も力強く活動させることが出来るからである。彼は時々此處で、或る生徒を其の善良な行狀の故に、善良な心情と美しい感情の發露の故に褒

めることがある。また或る他の者を激勵して熱心に努力させ、そして彼も亦善事を行う力を有しているのだから、其の力を使用するのは彼の義務であるということを出させる。第三の者には彼は神様が學ぶために立派な頭腦を彼に與えたことを感謝させ、そして善事乃至重要な事を爲すために與えられている天賦を決して忘れるなと言ふ。第四の者に於ては、若し彼に對する苦情を何度も耳にするか、それとも子供の心を見抜く神通力をもつて居る彼は子供のうちに氣遣わしい萌芽でも見出すものなら、父のように叱る。時にはまた、父らしい諧謔も出て來る。併し多種多様な個々の生徒に對するかうした多様の言葉も、一つの根本形式乃至一つの調子、別言すれば、父らしい、そして心からの温かさを以つて居る。この温か味があればこそ凡べてのことは全體の者に對しても一人一人に對しても有效となるのである。

又全體の子供が集まると、彼等の境遇や經驗に結びつけ、或る日には少年時代に知識と熟練とを身につけ、大きくなつてから特に國民の中の貧しい人々のために貢献することが如何に美しいことであるかということ説いたり、他の日には神に對する信仰と、敬愛から善を行ひ、そ

してまた一般に神を思うように激勵する。又他の場合には、イエスの偉大さについて、人類の福祉に對する其の功績について語り、そして人類の此の恩人に對する思慕は吾々を常に鼓舞する。そして吾々は同胞の福祉のために骨を折らねばならぬことを説いてきかせる。

(長田博士譯モルフ著ベスタロッチー傳第二卷より)

ブルグドルフの新教育は視察者見學者を迎える毎に、彼等の理解ある、同情ある報告や、談話によつて益々視察者見學者は増加し、スキスへ遊覽的に旅行せる人々までも一種の好奇心で參觀に來たり感動の胸を躍らして立ち去るといふ盛況であつた。

國家として最初に公費を以て見學者を派遣したのは母國スキスである。スキス政府はベスタロッチーの學校のために、若干の補助を與え又五ヶ月間位の講習を受けさせるために、十二名ずつの教師に公費を以て彼の下に於て再教育を受けさせたのである。これが公布されたのは千八百二年十二月である。

外國から公費を以て派遣せるものは、デンマークが最初である。それは千八百三年の二月である。

それに次いで獨逸のプロイセンからは千八百三年八月に一人の教育家が送られた。デンマークからは二人の教育者が派遣されたが、其の中の一人トルリッツの感激的な報告は興味があり、有益なものである。断片的であるが少しこれを紹介して見よう。

ベスタロッチーの顔は鋭いすがたをしていて、深い皺が一ぱいある。それは思索力の絶え間のない緊張と青年時代からの心痛とを最も確かに證明するものである。大きなこわい眉毛の下に眼が輝いている。この眼は彼が自分の意志力を確信し、若し山が彼の意圖の邪魔でもする場合には、山をも抜くことを恐れない人であることを示して居る。彼は心にあることを何んでも腹藏なく語るから、人々は彼に就て眞實に語ることが出来ると思ふ。一度以上彼と語る必要はない位である。彼は誰れに對しても信頼と謙遜とを以て、好意と愛情とを以て應對する勇氣があり火を發するような熱情のあることは青年の如く、愛情に富み、戯れることは子供の如くである。私は彼に實は陰氣な内氣な人であると想像していたと言つたら、彼は「自分は他の何人が其の生涯に於て笑うことが出来たより以上に笑つた」と笑つて答えた。

教師は色々の地方の出身で、教育や才能や趣味を異にしてに拘らず、一つの精神によつて生命を賦與され、熱心に共同の目的のために努力しているのは實に珍らしい現象である。彼等は子供の絶えざる監督者であり、食事の友達であり、一緒に寝ね一緒に遊び、彼等と子供達は互に尊敬し合い、互に愛し合い教師の側からは何等の強制も見ず、子供達の側から何等の反抗もなかつた。この全集團を取り巻いている美しい帯は衷心からの信頼と好意とそして最も情愛深い同情とによつて編まれていた。

清潔と秩序とが学校の何處にも十分に行き届いているのを見て満足した。城の多くの室、子供の衣類と寢臺、臺所と廊下、机と卓布類すべてが清潔で整頓して居る。……ベスタロッチーの夫人は立派な老婦人である。彼女は学校の會計を司り、夫の手紙の一部を代書したりして、全くベスタロッチーのために創造された人のようである。其の獨特の柔和によつて夫人は夫の激情を和らげることを心得て居る。そして世間の妻なる人の及びもつかぬ寛容な心で、夫人は夫の色々の特質と社會の福祉に對する夫の献身とを援助して居る。

朝六時頃に學校の全員は起床する。新教の生徒と舊教の生徒、更に其のうちの獨逸語を母語とする生徒と佛蘭西語を母語とする生徒とそれぞれ分れて、彼等の教師と共に、それぞれの室に朝の御祈りに行く。食事と遊戯との時間を除いて、朝の七時から夜の八時まで授業がある。夕食後は朝と同様に御祈りがある。それが終つてから子供達は寢床に入る。子供は日曜には午前

に教會へ行き、午後には教師と一緒に二三時間の散歩をする。本來の基礎教授の外に、算術、圖畫、佛語、獨語、博物、地理が教えられた。また正科としての體操や音楽がなかつたが、時々行進や教練が行われ、其の後にはスキスの自然を讚美する歌や、祖先の回想、牧者生活の單純を、スキス人の性格等に關する歌謡を二つ三つ歌うので、これを聞くわれわれの心は慈悲深い且つ最も嚴肅な感情に満たされた。學校日誌、成績證明書、賞品、懲罰、器具試験などはない。またそれを必要としない。子供達は遊ぶ時も仕事の時も、夜も、晝も、教師から見守られて居り、どんな過ちでも見附けられ、其の都度愛情深い熱心さで注意される。

ベスタロッチーは一大家庭の魂である。其のすべての教師を彼は恰かも自分の息子達のように愛した。みんなが彼を父と呼んで居る。あらゆる家庭の美點は、此の家のように地に着いている。調和した社會が地上のどんな場所にも見つからない。

彼は一緒に住んでいる人々の幸福な生活のために何時も自分を犠牲に供した。素性と才能とは彼に當然高い地位につく資格を與へはしたもの、富と名譽とは決して彼の志さす目標ではない。彼は飽くまでも最も賤しい者の間を生活して居る。彼は跛者の足であり、盲目な者の眼であり、壓服された者の辯護者であり、見捨てられた子供達の父である。

教授のすべての部分は秩序と關聯とによつて統一されて分離出來ない一全體になつて居る。彼は決して飛躍しない。容易なものから困難なものへ間隙なく進んで行く。それ故に次に續くものは何時も先行するものから發展し、また先行するものは何時も全く次に續くものに對する準備と見られる。何物も未完成のままに棄て置くようなことはない。教えられ、そして爲さるべきすべてのものは出來るだけ完成させるといふことが彼の例外的ない規範である。この目的を

達するには同一練習を何遍でも繰り返すことが必要である。これは彼の方法が機械的であると批難される譯であると思うが、併し事實に於ては決してそうではない。子供達は全く遊戯でもするように熱心に學んでいる。又教師達も快活に根氣よく働き、子供達は休み時間にも活潑に駆け廻るといふ活氣ある躍動的な光景である。優秀な子供でも、愚鈍な子供でも、彼の方法によつて各自其の性能と力量に應じて個性的に伸びくるとそだつて行く。彼等子供達は自信を以て創始工夫をなし、勇氣と決斷によつてそれを持續し完成しようという根氣強さである。彼等相互は仲よく親しみ、先生達を信頼し、邪氣のない氣質に對して同情し、眞理と正氣のあらゆる現れに對して留意する。これ等は他の學校では到底見出すことが出来ない特色である。

此の報告は斯様にベスタロッチーの性行や、風貌をまた教育の方法などを實によく描いて居り、ブルグドルフの盛時を讚美する聖歌のような氣持を與える。殊に教師相互の協同、親和、親睦ということが學園の成功史の最高峰を築き上げたものである。

ブルグドルフの新學校は世界的に名高くなつたが、ベスタロッチーの本願はもともと貧民の教育で

ある。新學校は他人に譲つてやつて貰うだけの基礎も出來たし、政府當局の理解もあるので、再びノイホーフに歸つて貧兒教育のために力を盡そうという考を起したが、國內の政治上の状態の變化などのために、其の實現が不可能になつた。

四、巴里行き——ナポレオンとの交渉

此の頃のスキスの政情は自國內の指導者達の紛争や、佛、奥などの勢力の影響で、色々の變革を見た。千七百九十八年には佛國の勢力の下に、ヘルヴェチア共和國という統一國家が成立し、文部大臣はじめ、内閣員はベスタロッチーを大に理解し、彼にシエタンツの孤兒教育を依頼した。また國民啓蒙のために「ヘルヴェチア國民新聞」を發行し、ベスタロッチーは一時其の編輯をも委託された。

國民はこの政情の變革に満足せず、佛奥戰の勃發と共に國內は統一派と聯邦派の二つに分れた。統一派はヘルヴェチア共和國を支持して佛國に味方し、聯邦派は以前の聯邦の復活を望んで佛國の敵である奥國に味方した。聯邦派は奥太利の援助の下に千八百一十年十月に憲法の改正を行つたが、千八百

二年四月には聯邦派は失脚した。即ちこの四月に自選による名士達はベルンに會合して新憲法を作り全國の選舉人に其の可否を問うた。大多數の承認を得て、七月に新政府が成立した。これは統一派の勝利である。これは佛國の意表に従う政府であるから、これ迄駐屯していた佛軍は、其の必要はなくなつて撤退した。すると、國內はまた動搖して新政府に反對し獨立を宣言するものが出て來た。そこでナポレオンはすべての事態を一度先ず以前の狀態に復せしめ、新憲法を作らせるために、各縣からの代表を巴里に召集した。ベスタロッチーはベルン縣のキルヒベルク並にチューリヒ縣の代表の一人として巴里に行つたのである。千八百三年二月にナポレオンの勢力の下に「調停文書」が完成し、スイスは十九の縣の國家聯合を結ぶことになつたのである。

ベスタロッチーは巴里に行く前に色々と改革意見を公にして居るが、根本は教育革新である。巴里滞在中ナポレオンに一度逢つて直接に意見を吐露しようと希望したが、ナポレオンは自ら彼の眞面目な教育意見を聴くには餘りに空虚な英雄であつた。

ナポレオンは畫法幾何の發明者である元老院議員のモンジュをしてベスタロッチーの意見を聴取せ

しめた。モンジュは色々質問を發し熱心に聴き入つていたが、其の結果は「吾々には過ぎたことである」という冷淡な答であつた。ベスタロッチーはブルグドルフへ歸つた時に教師の一人から、「ナポレオンはあなたに面會したか」と問われた。彼は笑つて「イヤ私がボナバルトに逢わなかつたんだ」と答えた。彼は實にナポレオンを呑んで居つたのである。ナポレオンに擊破された獨逸は、ベスタロッチーの教育精神を採用して復興事業の基礎である教育の中心精神となし、米國の諸地方では獨立戰爭の後、ベスタロッチー精神を初等教育の基礎となしたのであるが、人間を權力によりて支配しようとするナポレオンが、人間を教育によつて自由にしようとするベスタロッチーの教育精神に耳を假さなかつたことは、實にワートルローに於ける敗戦以上の大きな失態である。

ブルグドルフに於ける新教育には、國內や國外に於ても批難者があつたのであるが、彼の人間愛に基づく所の教育教化に關する眞理は公平な識者によりて認められ、彼の生命を無限ならしめた。これは實に彼の精神は神意に合致する精神であつたからである。

政上の長官が置かれることになり、ベルン縣の長官の舍宅をブルグドルフ城内に置くことになり、彼は退去を命ぜられたのである。其の上に従來中央政府から受けて居つた補助金も見込がなくなつた。ベスタロッチーはこれに對して當局に悲壯なる請願書を提出し、又ブルグドルフの市參事會からも、次のようなベスタロッチーに有利な請願書を提出した。

ベスタロッチーの學校はブルグドルフに色々の利益を與えている。市民は此の學校の退去を悲嘆しつゝある。此の學校のために、此の町に來往した外國人は、己に百三十人に達し、尙益々多くなる見込である。町の職人、商人、旅館、國産品の販賣に従事している者はこの爲に大きな利益を得て居るのである。加うるに學校は容易に理解される教授法と生徒の敏速な進歩という點でも、更には經營者のベスタロッチーの請求する賄料に無理のないという點でも極めて著しい長所を示している。教師の交友や、教師の音楽其の他の美術に對する趣味から生ずる利益樂しげな自由を以て規律と秩序とに慣れている男兒の模範、乃至はこの重要な學校のこれに似

た他の美點は看過することは出来ない。……この寛大な經營者に、この教授及教育事業にあれば功績のある老人に、吾々の間に彼の滞在を一生保證してやるために、相當の犠牲を献げることが吾々には困難でないということを確言する。

當局者は遂にこれ等の請願に耳を假さなかつた。千八百四年の二月にベルン政府はベスタロッチーに對して其の年の七月一日までにブルグドルフ城を明け渡せと命じ、其の代りベルン市から三哩のミューンヒエンブーフゼー城を無償で貸與する。其の期限は一ヶ年であるが、若し繼續を希望するならばこの期間の終了以前に再び其のことを申し出でよといふ指令であつた。これに對しベスタロッチーは一ヶ年の期限では困るから數年の間引きつゞき保證して貰いたいと請願し、市内の有志五十人の集團がまた彼のために政府に再考を促したが何れも效力はなかつた。千八百四年の六月ベスタロッチーはミューンヒエンブーフゼーに移つた。

政府からの補助金もなくなり、學校の收入だけでは到底經營は困難である。教師達は此の窮狀を見兼ねて、フェレンベルグの學校と合同するよう盡力した。彼の農學校は直ぐ近くのホーフワイルにあ

るので、便利でもあつた。つまりベスタロッチーの學校の經營方面をフェレンベルグの中に委託し、ベスタロッチーは教育擔當者として若干の手當を支給されるという立場になるのである。フェレンベルグはベスタロッチーとは二十年間の親交もあり、此の合同がよい結果に終らばベスタロッチーの晩年はまた何等か別な方向に轉回したかも知れないが、これは遂に破綻に終つたのである。フェレンベルグは貴族的な家庭に育ち、其の考へ方は階級的貴族的で、而も實利的である。ベスタロッチーは平民的で理想的であるから、到底一緒に協力することは不可能である。フェレンベルグの經濟上の微細な計算や、其の欲張りがベスタロッチーを怒らせたこともあり、兩者の共同は不可能となつた。この間に、ベスタロッチーの教育を理解し、ブルグドルフから追放された事情に同情を寄せ、彼を心から招き呼ぼうとして、ベスタロッチーに申出でた場所が數ヶ所あつた。其中イヴェルドン市からの申込は實に懇切を極め、場所も非常によかつたので、彼はこゝに移轉することに決心した。千八百四年八月末に愈々この市の古城の内に新學校を開設したのである。

第七章 イヴェルドンに於けるベスタロッチーと其の晩年

一、學園の發足と其の盛時

ワート縣のイヴェルドンでは、ベスタロッチーに古城を無償で、一生の間貸與することになり、當局者は感動と喜びとを以つて彼を歓迎した。ベスタロッチーも今度こそは安心して其の抱負を實現し得べき境遇に置かれたのである。

偉人は神の試練を甘受してこれを感謝する。イヴェルドンの學校を開いた翌月即ち千八百四年の十一月初旬に、彼は生命にも關する程の奇禍に遭つたが、幸に奇蹟的に助かつたのである。同行の教師クリュージはこの奇禍について次のように述べている。

千八百四年の十一月の或る暗い夜に、吾々はヨソナイ（ベスタロッチーはこゝに暫く滞在して著述の執筆中であつた）附近の或る山腹で、空馬車と共に山を降つて來る多くの葡萄酒の馬車

に遭つた。吾々は反對に吾々の馬車の傍らを歩きながら、靜かに山を登つていた。ベスタロッチーは私より二三歩遅れていて、吾々自身の馬車の音が、彼には聞えていたのであるが、その時突然彼は自分の前に數匹の馬がいるのに氣が附いた。吾々はこれ等の馬は今牧場から逃れて來たものであらうと考へながら、其の間を通り抜けようとした。其の時車の轆が突然ベスタロッチーを大地に突き倒した。眞暗闇で肉眼では何にも見えなかつたが、併し車輪が來るといふことを電光的に感じたので、迅速に大膽に跳びのいて車輪の下敷になることを免れたが、彼は道の側の堀の中に倒れた。彼の衣服がさけて肉體が露われて居るのに驚いた。彼は「馬の足に踏まれた」と落ちついて言つた。幸いに出血もなく、直ぐ歩くことが出來た。彼はこの時に「ア、自分は神に救れた。私のうちには緊張の力が全く破壊され、且つ消滅して居ると思つてゐたのに、その緊張によつて神は私を救ひ給うた」という感じに打たれたのである。彼は實に神の救を感謝し、神のうちにそして神のために生き、自分の仕事によつて眞理の王國を振興させるために神の恵を熱禱したようだが、私も今までにない非常な感激を以つてこれを聞いた。

彼は「われは死を去ることとゞ一步のみ」というラタセラの言葉は眞實であると語つた。

ベスタロッチー自身も其の妻アンナ及知人の夫人に宛てた手紙の中にも當時の狀況について書いて居る。

今四つ這いになつて同じ速力で跳びのかうと一生懸命になつても到底出來ないことである。それは全く神の力によるものであつた。自分はこの頃神經衰弱的に弱つていたが、この出來事によつて新に青年らしい若々しい強い力が意識されて來た。神の御救によつて自分自身への信頼心が高まつた。

奇蹟的に何等の怪我もなく、助かつたので、彼は神の力に感謝し自己の力に信頼し新なる勇氣と元氣とを以てイヴェルドン新教育の發足をなすに至つたのである。

學校開設後約一ヶ年即千八百四十四年十一月にベスタロッチーはワート縣の當局者に對し、學校の事情を専門家に視察せしめられたいと申出て、當局者は翌年の新年直後に委員を學校に派遣し五日間の間視察を遂げしめた。其の報告を見ると先づ其の校舍などから説き起して次のように報告されている。

最も都合よく分布された広い居間、清潔に保たれて風通しがよく、教師並に生徒がそれぞれ寝臺をもち、そして衣服用の戸棚が十分に備えてある非常に広い寢室、悪い天気の際は體操を行うのに都合のよいそしてそこに大部分の教室への出口がある閉ぢられた廊下、広い建物の種々な區劃に圍まれた広い庭、市を四方から圍んでいる城門の前の美しい大きな散歩道、これ等すべてが相倚つて全體を形造している。それは一言で言えば外部と同様内部も特に極めて多人數の學校が要求する正しい指導と秩序とを可能ならしめ、且つ容易ならしめるために作られているように見える。

こゝに年齢七歳から十二歳までの七十人の子供が收容されている。彼等の外に學園には、教育方法を研究する目的の下に、スピス國內の七つの縣及北獨逸出身の多數の青年教師が住んでいる。イヅエルドン町の子供が約二十名通學している。教師は八人居るが、其の過半數はベスタロッチーの生徒であつたものである。彼等は皆ベスタロッチーの精神によつて滲透され、子供の指導のためには一瞬と雖も眼を放たず、授業の外に生徒の遊戯にも加わり、散歩にも一緒に

行く。彼等は子供達と同じ寢臺に眠り、同じ食卓に就き、程よく衛生的で、豊富に調理された食事を共にし、此の大きな家政の内部は婦人の召使（前出エリゲベート）が整頓と清潔の心と共に熱心と聰明とを以て世話している。

彼等は皆同一の精神によつて鼓舞されている一大家族のようである。教授時間にも訓戒や叱責の時にも、自由な交りの中にも常に溫和と非常な親切さが支配して居り、生徒や教師の顔には満足と幸福との表情が現れ、彼等は遊戯から勉強に勉強から遊戯に、移る。而も師弟の間には自ら秩序が保たれて居る。毎日三人づゝの教師が交代に紀律と秩序と清潔との點について生徒を監督する。又各教師は一定數の生徒を自分の直接の監督の下に世話し、入學から卒業まで責任をもつようになつている。

ベスタロッチーと教師達は夜子供が休んでから、一緒に集まつて、生徒の勤勉、進歩、行狀の觀察や教授法を完全にするための手段等について彼等の試み努力經驗などを語り會う。土曜日には教師らの共同の討議ですべての報告と觀察とは再び協議され、そして必要な事柄が帳簿に

記される。生徒が軌道を逸する行をなした時には一度乃至二度個人的に親切に注意されるのであるが、それでも直らない時は、生徒全體の前で訓戒する。日曜の禮拜が済んだ後で、校長は一週間の回顧をして、稱讃や訓戒又は叱責を與える。

教授の方法は子供の自然の發達に即應して一步一步と徐々に進み、前者が次ぎのものに役立つように漸進的に前に進むので、子供は無駄な努力をせず、偏りもせず横道に外れることもなく最も單純な概念から最も抽象的な眞理の完全な知識に到達することが出来る。而もすべては直観にはじまり、事物の状態と數と形と廣がりとその種々なる關係とを探し出し、且つ言葉でこれを表現せしむる。この教授は實に驚嘆すべき結果を生むのである。有爲の青年教師を此の學校に委託して教育精神を體得せしめ、廣く國民教育の改革を實行したいものである。……

イヴェルドンの新學校開設後約四年目即千八百七七年に、學校自身から子供達の兩親や公衆に對して報告書を發表して居る。この時は兒童數は開設當時の倍ともなり百五十人許りになつて居る。教授の方法、方法の精神に基づいて組織された教授部門、子供達の世話、人類の更新と學問藝術の合理的な

建設などに關して述べられている。これ等のうちの一端を少し紹介する。

子供達の凡べての學習は自發的活動であり、自分自身からの自由な生産であり、生き生きとした創造であらねばならぬ。此の點に於て學校は稀れに見るよい状態になる。仕事は強制的でなく子供は常に自發的で感激の状態にあるために、彼等はいくら努力しても疲勞することを覺えない。彼等は喜びと熱心と、楽しみを以つて勉強する。それは學習が單に遊戯として行われるために生徒の努力を要求しないからではない。子供達が學ばねばならない凡べてのことが、彼等の諸力に適當し、彼等自身の注意力、判斷力、反省力へ生長し發達する程度に應じて、次第に複雑になり困難になるので、全く自然の發展に即應するからである。それは又教えられる凡べてのことが子供の本性、發展から生じ、そして以前のもとの常に關係を保たせるからである。それはまた子供達が學習する凡べてのものうちに自分が生活をして居るからである。教授は斯様にして活氣づき、子供達も活潑に喜んで學習して居る。それは氣晴らしをするのではなく、むしろ精神が統一しつゝあるのである。子供は單に樂むというよりも感動して居る。

壓倒されずに鼓舞されて居る。斯くして子供のあらゆる素質を開展させることが學校の第一義とする爲である。

教授する知識の各部門は知識を擴張する手段としてよりも精神陶冶の手段となつて居るのである。勿論子供の素質と精神陶冶との發展が教授の基礎ではあるが、學問其のものゝ發達にも注意して居る。

人間は自然が徐々と教育する唯一の被造物であるので、學校では決して効果を急いではおらず凡べて自然の順序と秩序に即して徐々と進めて行く。此の間にも子供の個性的な特異性が表われるから出来るだけこれに注意し、其の愛好し伸長する知識方面には十分これを満足せしめ、他の方面の知識に對する愛好心が起るのを待つて漸次諸能力を發達させることに注意する。

子供の世話や、其の他のことについては、イヴェルドンの視察委員の報告にも見えて居るから、こゝに繰り返すことを見合せる。

つぎに此の學校で教育を受けたものゝ感想について一二紹介して見よう。

ヴェイマンという人は千八百五年八歳で入學し、二ヶ年の間教育を受け「彼れの幼兒達に語り聽かせた追憶談」といふ論文の小冊子に次のように書かれて居る。

御前達よ、逆立つている髪の毛、あばた面、手入をしないこはい頬ひげをもち、ネクタイがなぐ、靴下は靴の上に垂れさがり、靴下の上にさがつているボタンのはずれたズボン、よろよろする歩きぶり、忽ち火のような眼光の輝きを見せるかと思うと、忽ち内省に沈みて半ば閉ぢる眼、深い悲しみを現わすかと思うと忽ち柔和な喜びを現わす容貌、或は遅く或は速く、又は軟らかく美しく調子で話すかと思うと、急に雷のような聲を出だすアノ醜い人を想像して見よ。

御前達には必ず私達が父ベスタロッチーと慕つた人の姿が浮ぶであらう。彼は生徒を一人残らず愛してくれた。私達もみんな彼を愛した。暫らく彼を見ない時には非常に悲しかつた。

百五十人から二百人のあらゆる國の若い人達が古城の學校に集まつていた。私達は御互に教えたり、教えられたり、楽しく遊んだりした。冬の雪合戦も面白かつた。生徒は朝早く順々に冷

水を浴びる。生徒は皆無帽である。嘗つて氷のような風の冬の日、父親は私に帽子をかぶせてくれた。するとそれは生徒仲間のおもちやとなつた。彼等は帽子だ、帽子だと叫びながら、私の頭の帽子はそれからそれへと生徒仲間の手に移り遂には川に落ちて流れてしまつたことがある。

言葉は事物の直観によつて教えられた。又地理の最初の基礎を學ぶためには、戸外に連れだされ川の流れを沿うて町をはなれた谷間へ行つた。此の谷を部分的にまた全體的に觀察させられて正しい直観をもつように導かれた。そして各自少しづつ粘土を持ち歸り、それを以て谷間の光景を模造した。次の日はまた更に遠方へ行き新たな研究によつて知能を廣め且つ確實にした。次ぎにヅ・ガンの感想を紹介しよう。

ヅ・ガンという人は千八百七十四年にベスタロッチー傳を公にしたが、非常に興味深くよく出来てゐるので、各國の人に讀まれ、日本語にも譯されている。彼は千八百八年から十七年まで、六歳から十五歳まで、此の學校で教育を受けた。町に住んでゐる兩親の家に起臥して寄宿舎には入らなかつた。

が、先生と同様に教授に遊戲に、娛樂に、式に或は夕食にも加わり、時には寄宿舎に泊ることもあつた。彼の感想録を少しく引用して見よう。

自分が教室へ入つた時の第一印象は餘り氣持のよいものではなかつた。部屋は清潔ではなかつた。家具などは原始的なものであつた。例へば脂ロソクの明りがあつたが、燭臺の用意がなかつた。ロソクは下端を木片に固定した針金の螺旋に突き刺されてあつた。獨逸語を話す(ヅガンは佛語が母語)生徒の言葉と騒ぎとは快くなかつた。彼等の禮儀作法は奇妙に思われた。粗野な下層社會の雰圍氣に居るように感じた。併し間もなくベスタロッチーの優しい親切に、其の溫和な生き生きした眼に、全學園を支配する彼の眞心に引きつけられた。又間もなく、友達の間で笑談や、勉強への動的な熱心とに魅力を感じるようになった。私は滿七歳にもならないのに、冬がくると、早曉六時に始まる最初の時間に、非常に早く起きて、暗闇の町を歩かなければならなかつたが、自分は學校が面白いので一度も不平を言つたことがなかつた。ベスタロッチーが通路で年少の生徒の一人に會うと、手を生徒の髪の毛の中に入れて、「御前

は伶俐になり、そしてよくなるうとは思わなにかね」と言つて彼を撫でる。次いで、其の子の親友と愛する神について語り、最後に屢々自然の美しさについて話す。自然というものは眞の創造者の神様のように完全で且つ美しく、そしてそれと人間とは調和しなければならぬと言つた。

ユラという所へ遠足した時の印象は六十年以上もたつ今日でも、なお生き生きとして居る。先生達は母親のように生徒を世話した。途中で時々田舎の荷馬車を備つてくれた。其の上で唱歌を歌い歡聲をあげながら村々を通つて行つた。百姓のおかみさんから時々果物を貰つた。モミの木蔭で蔽われている高地の牧場についた時には實にうれしかつた。植物や礦物を採集したり素朴な自由なアルプスの歌を歌つたりした、當時のことは今もなお忘れることが出来ない。學校に歸ると年齢に應じて、文章か口頭で遠足について述べるので、遠足は博物や地理の教授時間でもあつた。

社會的に地位の高い外國人が、參觀にくると、誰かに注意されたものと見えて、ベストロッヂ

は平常のみすばらしい服装ではなく、黒いフロックと白いネクタイで教室に入つて来る。私達は驚き且つ可笑しさを禁じ得なかつた。

イヴェルドンの學校は毎日多數の人の參觀があり、觀光的の旅行者も押しかけて來るといふ賑やかさである。併し眞面目な學生や、長期滞在の視察者や、短期であつても熱心な見學者が母國及外國から多數入り込んで來て、全く國際的研究場となつた。次ぎに外國から來た人で熱心な且つ名高い人の感想記を少し紹介しよう。

地理を組織的な科學にまで發展させた名高い地理學者のカール、リッターはベストロッヂを二度訪問して親しく學校を見學した。

彼はフランクフルトの大銀行家の家庭教師をして居る頃、其の二十八歳の時に、此の銀行家の母親と子供三人と共に、スイスへ旅行し、イヴェルドンの學校を約一週間の間熱心に見學した。彼はベストロッヂに對する書面の中に次のように述べている。

眞理と愛のための忍耐者であり闘争者であるあなたに會い、あの生き生きした源泉で私の元

氣が養われたことを感謝する。あなたの愛に感謝する。私もあなたの愛に没り、この愛のうちに眞の基督の愛を體得し、又精神世界——この世界は理念によつて照らされ、愛によつて温かにされるものであるという領域に於ける愛の力をも體驗した。

彼は非常な感激を以てベスタロッチーの愛の心情を讀んで居る。彼はまた小論文のうちにもベスタロッチーの考を次ぎのように盛つて居る。

人間の凡べての發達と陶冶とは人間自身から出發すべきであり、彼自らの自己活動によつて生産されるものである。ベスタロッチーの言うように魂は自ら歩む事であり、教育と陶冶との術は其の事に積み込むための知慧である。この發展は必然的にそして永遠の法則に従つて行われる。古い教育は外界のあらゆる事物と自然と學問と内的人間の知識とを人間に結合し、この世の人間をたゞ組織しようとしているが、ベスタロッチーの新教育は人間を眞の人間其のものに還元し、自己の力によりて自己を發展させ、人類の新鮮な一員として世の中に出で、其の知識も、學問や意識に、技術や職業に、あらゆる生活に生き生きと有効に活用されるのである。とベスタロッチーの教育法を激賞している。そ

してベスタロッチー並に教師達は自分達を全く理念のために犠牲にし、安泰や快樂や、利得や、所有や、生の享樂というような凡べてのものを棄て、自分達を其の理念に献げている。彼等は斯くすることによつて何物も失わず却つて凡べてを得て居ると讚嘆している。

リッターは、二年後、再びイヴェルトンを訪れた。丁度折がよく、ベスタロッチー夫妻の結婚四十一年の記念會にも出席した。ベスタロッチーは相變らず心情も精神も若々しく熱意と配慮とに充ち、夫人アンナは女性としての貞淑、謙遜、親切の模範であり、其の全人格が優雅な豊かな教養をもち柔和であつた。生徒は百四十人以上になり、研究のために來て居る内外の教育者は約四十人も居ると述べている。リッターは實にベスタロッチーの考え方を其の地理學の研究にも導入し、又其の當時の獨逸の新教育者ゲルツマンや、體操専門のグーツモーツや、ハルレのフランケの學校の哲學者教育學者ニマイアーや有名な學者アレキサンダー・フンボルトなどにもベスタロッチーの思想や教育法を傳えて居る。

外國からの視察者で、名高い人のうちにまた獨逸の名高い教育史家ラウマーが居る。彼は獨逸の大

學を卒業して巴里へ行き、博物館で自然科学を研究していたが、ベスタロッチーの著書や、フィヒテの「獨逸國民に告ぐ」の獅子吼に感動して、イヴェルドンのベスタロッチーに會つて見たいといふ熱い希望を起した。彼は千八百〇九年彼の二十六歳の時にイヴェルドンに行つてあこがれのベスタロッチーに面會した。其の時彼は其の許婚者の八歳の弟フリッツ・ライヒアルトをベスタロッチーの學校に連れて行つて教育を委託した。然るに此の子供は常に母の養護と奉仕との裡に甘やかされて育つたので、新學校の子供達の群に入つて甚だ不満を感じた。ラウマーも其のために不機嫌となり、翌年の十月には此の子供を連れて獨逸へ歸つてしまつた。彼は場合によつては、ベスタロッチーの許で生涯教師として留まつてもよいという決心であつたが、僅か九ヶ月で此處を去つたのである。一般的には、學校に對する彼の印象は冷やかなもので、殊に體操の關節練習について批難して居るのである。氣儘なフリッツは遂に學園を去り、ラウマーも其のために學園には餘りよい感じをもたなかつたが、併し當時の學園については、子供達は殆ど例外なく、喜んで生活して居つたもので、シャヴァンヌの著「ベスタロッチーの生涯」のうちには、一生徒の感想を次のように記して居る。

私は千八百〇八年に七歳六ヶ月で入學し、もう九ヶ月許りになつた。生徒は百三十七人で、スキス人、ドイツ人、フランス人、イタリー人、スペイン人、ロシア人、アメリカからのものも居つた。

両親からはなれて初めは困つたが、だんだん慣れて來た。先生達は吾々の遊びに仲間入りして親しくなつた。私は殊にベスタロッチーが好きであつた。

自分の幼稚な心から、彼によりて未だ信仰心が確實に養われなかつたが、少くとも、仕事をする時には、賞讃や報酬などのためでなく、義務の觀念から行ふべしといふことが能く分つた。或る冬の日の金曜に彼は即席に講話をしたことが、頗る印象深いものであつた。彼は言つた、一週間のうちで、クリストが苦しみ、そして死んだ此の日ほど大切な日はない。大地をよく準備しなければ種子は芽を出さない。それと同じく、人の生涯の種子が立派な收穫を結果せねば平和な死や、幸福な犠牲は望まれない。人間は一日の仕事が終らない中は、横になつて眠ることとは出来ない。

キリストの犠牲と死とは彼の地上に於ける仕事の完成である。彼の最後の言葉は「今は終つた」ということである。彼は其の仕事が完全に終つたので平和に死んだ。

彼は其の天に在します父と人類のために生きることによつて、彼の休息を勝ち得たのである。自分の義務を了しようとしなない人、完成へ志ざすことのない人は決して休息を得ることは出来ない。生徒等は極めて自由を楽しむことが出来た。城の扉の二ヶ所は終日開いたまゝになつて番人もなく、何時でも出入が出来た。併し彼等は其の自由を濫用しなかつた。授業は一般に一日十時間ほどであつた。第一時限が朝の六時に始まり、最後が夜の八時に終る。此の授業の中には体操や、ボール紙の手工や園藝なども交つていた。最後の時間は自由時間である。自分の好きなことを勉強するとか、家に手紙を書くとか、思い思いのことをする。

ノイホーフの窮迫時代にベスタロッチを助けに來たエリザベートは學園の家政を世話した。彼の女の料理法は獨逸系の瑞西の田舎の料理法で原始的であつたが、豊富で滋味に富み皿數も多かつた。十時には一寸休みがあつて、腹のすいたものは彼女から乾果とパンとを貰うことが

出来る。正午には一時間休みがあつて、湯水の後の芝生の上で遊んだり、水を浴びたりする。

一時にはスープ、肉、野菜の晝食、一時半から四時まで授業、それから中食があつて、チーズ果物又はバター附のパンを與えられる。六時までの休みの時間中これを何處で喰べてもよい。六時から八時まで又學課、其の後晝食と同じ位の晩食がある。

手工はベスタロッチが苦心した程に餘り効果的ではなかつたらしいが、園藝は相當に成功した様子である。學園には印刷所も設けられ、著書の出版もなしたのである。

教師には特別に彼等自身の室はなく、大抵子供と寢食を共にし、研究や勉強の時は何處か城内隅の明き室を利用したということである。ベスタロッチ夫妻の居間も大した廣いものではなく、此處に彼は時々子供達と會食し、訪問者を接待したりする。アンナ夫人はやさしく、麗はしく、新しい想像力と詩的な情操をもち、會話談笑の間の中心となつて夫を助けて居つたのである。

イヴェルドン學園の初期は大體以上各方面から述べたような實情で、學園の名聲は歐州全土に擴がり、獨逸復興の力となり、遠く米國に於ける初等教育の基礎的工事を成し遂げたのである。これ等は

後章に於て論述することにする。

一五八

二、棺箱を前にしての講話

千八百七年頃はイヴェルドンの極盛期と言つてよい。内部の不和も未だ表面に現れず、内外の視察者、見学者が殺到したのである。併し凡べてを心の眼を以つて透徹的に見渡しているベスタロッチーにとりては、だんだん淋しさが感じられて来た。彼は教師の間の不和、少くとも陰惨な空氣が教師の間にたゞよつて居ることに氣が附いたのである。千八百〇八年の新年講演は實に悲壯を極めたものである。この時、彼は棺箱を前に置いて奇矯な態度で講話した。彼にとりてイヴェルドン學園の興廢存立に關する一大警告講演で全く眞剣そのものであつた。

去年は幸福な年ではなかつた。私のしつかり歩かうとした氷が割れてしまつた。私の生涯の仕事は豫期せざる缺點を暴露し、われわれを結びつける鎖は、自分が強いと思つている所が却つて弱いということを見出した。私が救を求めた所には墮落があり、平和を求めた所には憤怒が

あり、愛を求めた所には冷淡さに出逢つた。私が信頼なくしては生きることが出来ない様な時にそれが逃げて行つた。……

ここに私の棺がある。墓場の望みより外に何にも残つていない。私の心は寸斷され、今日の私は昨日の私ではない。愛、信頼、希望が私を見棄ててしまつた。……

私は過ちばかりをおかし、自分を欺いて居つた。今年の初めに當つて、少くともすべての眞理をはつきりと認識せねばならない。……

私は貧しく弱く、卑しく、無能無智であつたが、私は仕事を始めた。世間では氣狂と叫んだが神の御手は私共にあつたので、事業は幸に榮えた。私は世界の初めのように無から出發した。それは全く神の仕事である。われわれはこの神の仕事であるということを能く知つて、新に結合したいと思ふ。悪魔の結合ではなく、天使と天使との結合のように。……

私は自分の幸福に價しない。モー終りに近づいて来た。しかし私の仕事は存続すると思ふ。黄金は火の中でも燃え盡きることはなく、純化されるのみであるから、併しそれは私を通じて存

一五九

續するのではない。私にはそんな価値はない。私は眞理と愛とに於て弱すぎた。

元來私の仕事は愛によつて築かれねばならぬが、今はわれわれの仲間から愛は消え去つた。……われわれの間には誤解があり、私が永くしつかりと結びついていると思つた鎖は破られ、一つに溶けあつて居ると思つた人々の心は情なくもこんがらかつてしまつた。

諸君は、偉大な犠牲に召集されたのである。この犠牲なくしては私の仕事を完成することは出来ない。

モーニ度私の此の棺を見給え。多分今年中に私の骨や私のために一生を犠牲にした私の妻の骨は此の棺箱の中に納められるであらう。……われわれをして平和に眠らしめ給え。諸君が愛と寛恕の涙を私達の上にそそぎ、神の祝福が私達と共にあらんことを祈る。

彼はこの講演に於て、自分の性格の缺陷や、努力の足らざりし事を反省し、それは全く死に價するものであると覺悟し、同時にブルグドルス時代に於けるような教師仲間の一致協力が見られない。教師の間には愛の結合が出来なくなつて居るということを残念に思つて、彼等の反省を促がしたのである。

る。

教師仲間の中に一致が缺けて居るといふのは主として、其の教師ニーデラーとシュミットとの關係を指して居るのである。

ニーデラーは宗教の先生である。ペスタロッチーの思想を哲學的になし、整頓するように手助けをした。ペスタロッチーはこれを十分満足に思わなかつたが、併しニーデラーは學校の經營管理などの實際問題については無能であつた。

シュミットは、數學の教授に於ては非常な研究家で、參觀者の多くはこれを賞讃し、學校の名誉でもあつた。彼は仲々腕の人であり、學校の經營上の方面に於て大にペスタロッチーを助けたのである。

此の二人の性格は全く違つて居り、學園に對しては二人共それぞれの貢獻をなして居るのである。ペスタロッチーは此兩人を包容していたことはよかつたが、水と油のような兩人の關係を圓滿に結合する力を缺いていたのは残念なことである。ペスタロッチーはニーデラーなどに對し、シュミットを

手本として秩序よく、規則正しく、根氣強く學校のために力を盡して貰いたいなどと言つたことは、ニーデラーなどの機嫌を損じ、ニーデラーは他の教師をも勧誘して學園を去ろうとしたこともある。偶まスキスの新聞が、學園に對して悪聲を放つたので、ベスタロッチーは世の誤解を正さんために千八百九年六月にスキスのフライブルグの長官に對し、委員を派遣して學園を調査して貰いたいとの希望を申出でた。三人の委員は同年十一月に學園を調査した。結果は餘り有利ではなかつた。一般の公立學校の教育法と調和してないので、一般の學校に應用することが出来ないなど、という批難も記されてある。シュミットは學校經營という立場から、一般の公立學校とも調和の出来るようにとの考であつたが、ニーデラーなどは、それよりも學園二十年の主張を通すようにとの考であり、この事についても兩人の意見が異り、又私事としては、ニーデラーとシュミットの間には戀愛問題などが起り、反目が愈甚しくなり千八百十年にシュミットは自分に味方をする教師達と共に學園を去つてしまつた。

今はニーデラーは一身にベスタロッチーの信用を得て、學園のために大に力を振つたが、仲々容易

ではなかつた。ベスタロッチーの故郷のチューリヒの牧師會員ブレーミーは千八百十一年九月末から十月初めにかけて、チューリヒ金曜新聞紙上に、三十六項に亘る質問の形式で、學園に關する批難の論文を掲載した。それはニーデラーの行動に關することが主なるものである。ニーデラーはこれに對し辯駁書を草して居る。又ニーデラーは元來が學者風の人で、經營の才能に乏しかつた。學園の經濟方面は此の頃非常に窮迫し、生徒の親である佛蘭西のジュリアンはニーデラーや、ベスタロッチーの同意の下に、イヴェルドンの紳士による經濟委員會を作り、學園の收入と支出とを世話して貰い、ベスタロッチーは、其の全力を教育や著述の上に注ぐことが出来るようにしたのである。ニーデラーは、學校經營の實力は到底シュミットに及ばないので、再びシュミットを學園に復歸させることに盡力し千八百十五年にシュミットは再び學園に戻つて來たのである。然るに實行的才幹に優れたシュミットは、其の手腕を振り過ぎて横暴的となり、獨逸から來て居つた十數名の留學生から排斥されたのであるが、ベスタロッチーは如何ともすることが出来ず、ニーデラーも今度こそ愈シュミットのやり方に辛抱が出来なくなつて、濃厚中立のクリュージと共に千八百十七年に學園を去り、まもなく數名の

教師も辭職するに至つたのである。

ベスタロッチーがフライブルグの長官に、學園の調査を請願した頃、即ち千八百九年の末頃には、學園の生徒数は百六十五名で、其中寄宿生が百三十七名、其の中の八十七名は外國から遙々と來て居るものである。又教師としての留學生が三十二名も居り、其中二十七名は外國人であつた。斯様に外觀は仲々盛なものであつたが、前に記したように、ニーデラーとシュミットとの不和がだんだんと度を進め、遂に教師の組織が崩壊し、又他方には學園に對する味方もあるが、痛烈な批難の聲も起るといふ状態であつた。これ等の渦巻の中に於て、ベスタロッチーの教育に對する信念は微動だもせず自己の信ずる新教育を一般の人類の教育にまで浸透させようとの努力には驚嘆に價するものがある。

三、皇帝や王侯との會見

千八百十二年ナポレオンはロシアより退却、翌十三年にはライプチヒに於て大敗を蒙り、十四年三月には聯合軍はパリを陥れ、ナポレオンはエルバ島に流された。奧太利軍はスィスを通過して、佛蘭

西に侵入した。其の時即ち千八百十四年一月に奧太利はイヴェルドン市に對して軍用病院を準備するよう命令した。そして四個の建物をこれに指定した。ベスタロッチーの學園も其の中の一つに數えられた。奧太利軍には負傷兵の外に、多數のチブス患者もあるので、イヴェルドンの市民は、成るべく此の指定から免れようと思ひ、二人の委員を聯合軍軍司令部に派遣して陳情せしめた。ベスタロッチーは此の委員の一人として行つたのである。市民は彼に餘り期待をかけていなかったが、事實はイヴェルドン市を救つたのは全くベスタロッチーの力であつた。彼はバーゼルの聯合軍司令部に到着するや、聯合軍諸君主やその首脳部は非常に彼を歓迎し、彼の希望通りイヴェルドンに軍用病舎を設けたいことにしたのである。

このバーゼルの司令部に於て、ベスタロッチーは、ロシアの皇帝アレキサンダーに面會した。彼は教育の改革と農奴の解放を説くのに絶好の機會であると思ひ、熱心に説き立て、皇帝にだんだん接近した。皇帝は後に退く、壁の所まで退いた。ベスタロッチーは思はず皇帝の胸ボタンに觸れようとしたり、其の無遠慮に氣ずいたが、彼は氣轉をきかして皇帝の手にキッスを求めると、皇帝は親しく彼を

抱擁したのであつた。そして皇帝は彼に勳章とウラルから出た鑽石の蒐集を贈つた。奥太利の君主も彼に一箱の珍酒を贈つた。

又同年に獨逸のプロイセンの王は其の回復したノイシャテルの舊領を見舞つた。この時ベスタロッチーは病気で弱つて居つたが、彼の學園に多數の見學者や留學生を送つた厚意に對して感謝せねばならぬといふので、病を冒して王を訪問した。其の時彼に隨行したラームザウエルは次のように記して居る。

病中のベスタロッチーは途中度々ケイレンを起して氣絶した。私は彼を車からおろして附近の民家に運んで手當をした。訪問を見合して家に歸るよう勧めたが、彼はどうしても聽き入れない。死んでも王様に逢わねばならない。若し自分が王に面會したために、たゞ一人のプロイセンの子供でも、今迄よりもよい教育を受けることが出来るならば、自分はそれで満足だと言つて、遂にノイシャテルに到着して王に面會したのである。

ラームザウエルは尙ベスタロッチーの奇行的熱心について其の逸話を記して居る。

同年即ち千八百十四年にエースターハーツイ老公がイヴエルドンに來た。それを知つたベスタロッチーは學園内を駆け廻つてラームザウエル、ラームザウエル、何處に居るのか。エースターハーツイ公が來て紅館に泊つて居るそうだ。非常に重要な人物で大變な金持だ。ハンガリーと奥太利に何千という農奴をもつて居る。此の人がわれわれの考を理解すれば、學校も建てるし、農奴の解放をもやるだろう。御前の生徒の優秀なもの（體操、圖畫、數學などの）を連れて、私と一緒にホテルへ行くんだ。とよびかけた。

そこでラームザウエルは十五人の生徒を連れて、ベスタロッチーと一緒にホテルへ駆けつけて老公に逢つた。ベスタロッチーはラームザウエルを老公に紹介しながら言つた。これはこの生徒達の教師です。廿五歳頃にアツペンツェル縣から、他の貧兒等と一緒に私の處にやつて來たもので、私は束縛なく自由に自分の力を發達するように育んだので、今では立派な教師になつて居ります。貧乏人も金持と同じように或はそれよりも優つた諸能力をもつて居るといふ何によりの證據です。併し、世間では多く貧乏人の能力をよい方法に従つて發達させて居らない。小學教育の革新が何によっても大切です。

私よりか彼の方が何にもかもよく説明致します。こう言つてベスタロッチーは一時其の席を去つた。ラームザウエルは十五人の生徒を相手に色々やつて見せた。一時間許りたつたらベスタロッチーは再び席に現われ、公は満足の意を表した。

ベスタロッチーは公を辭し階段を下りながら、ラームザウエルに、公は能く判つて呉れた。たしかに判つてくれた。ハンガリーに學校を建てるに違いないと言つて喜んだが、彼は急に突然叫んだ。此の腕がどうしたんだらう。この通りはれ上つた。硬くて曲がらない。驚いてよく見ると、ホテルの入口の大きな鍵が腕に食いついているのである。一時間前に此のホテルに入る時に、餘りに急いだのと喜んだのとで肘を鍵に打ちつけ、それが、着物の下に食いついているのに気がつかなかつたのである。彼は實に六十八歳の老齡であるが、自分の仕事に對する熱狂振りは實にこの通りのものであつた。

ラームザウエルは教師の仕事の外に、ベスタロッチーの秘書役をも勤めていたが、ベスタロッチーの六十二歳から六十九歳の間に於て、ラームザウエルは夜中の二時から朝の六時まで、ベスタロッチーの語る所を書き取らねばならぬことが度々であつた。ラームザウエルは夜十一時又は十二時に寢に

つき、夜中の二時にベスタロッチーの寢臺の側へ行かねばならなかつた。若し二時より數分でも後れるとベスタロッチーは機嫌が悪く、ラームザウエルを連れて、生徒の廣い寢室を駆け廻るか、又は夏でも冬でも、庭を飛び廻る。若し正二時に正確に彼の前に行くと、非常に喜んで、褒めて呉れ、キッスをする。そして彼は寢臺の上で敷布を口にくわえながら、甚だ不明瞭な言葉で其の思想を語り、ラームザウエルは朝の六時までそれを書き取らねばならなかつた。

二十二三歳の青年教師ラームザウエルにも青年の意氣が燃えて居つたが、この夜中の仕事には相當惱まされたようである。ベスタロッチーも此の時は二時間位の睡眠であつたらうと思ふ。

ついでにラームザウエルの回想録の中から其の當時の學園の状況の一端を紹介して見よう。ベスタロッチーは教師には喫煙を禁じ、料理店や酒場への出入を差し止め、生徒を連れずに一人で散歩することも許さない。又書物や新聞なども讀ませなかつた。教師のための室がなく常に生徒と一緒に居るのである。教師に對する要求は随分嚴格であつた。併し教師にはこれを文字通り嚴守することは困難であつた。職員會議の後などに於て、夜の一時か二時頃に、教師達は數人一緒に學園を抜

け出て、三時間も歩いて田舎の酒場へ趣き、葡萄酒を二三本空にしたが、氣焰を上げることも度
 度あつた。又冬期には夜の十二時から二時の間に、五六人の教師は橋に乗つて朝の六時頃まで遊んで
 來ることもあつた。斯様な脱線がベスタロッチーの耳に入ると、彼はそれに關係ある教師に直接注意
 することをせず、一般の教師を集めて注意するのであつた。

彼が教師に對して随分無理であると思はれるほどの要求をなしたのは、畢竟は凡べてを子供達、生
 徒達のためという教育愛からである。彼自身は全く生れつき子供を愛して居るので、この精神を教
 師にも求めたのであろう。或る時教師の會議があつたが、議事の狀況がベスタロッチーの考通りに行
 かなかつたので、彼は立腹して急に席を去つて、室の出口の戸が少しゆがむ位これを思い切つて投げ
 つけるように締め、廊下に出ると偶ま一人の學園の子供に出逢つた。彼は突然子供の額にキッスした
 それで機嫌を取り直して再び會議室に入つて、微笑しながら會議を續けたことがある。斯様な彼の兒
 童愛を一般の教師に要求することは無理であらう。愛は元來要求されるものではない、自發的なもの
 である。ベスタロッチーが自分の兒童愛から湧き出する教育法を一般の教師にも要求した其の無理が

若干の教師をして學園を去らしめた一つの原因と見ることも出来る。

四、アンナ夫人の死

千八百十五年四月にはシュミットも再び學園に戻り、ベスタロッチーも非常に喜んだが、同年十二
 月にアンナ夫人は重病に罹かつた。數年來アンナの健康は勝れなかつたが、十二月七日の晩から八日
 にかけて強い胸痛に襲われた。熱を伴つて正午まで痛が續いた。痛の去つた後は嗜眠状態に陥り、十
 二日の夕方安らかに靜かに天國に招かれた。七十七歳である。葬儀は十六日に營まれた。其の朝に棺
 が禮拜堂に運ばれ、學園のものは皆こゝに集つて讚歌を唱つている時に、ベスタロッチーが入つて來
 た。歌が終ると彼は棺の前へ行き、さながら生ける人に物言うように話しかけた。四十六年の間の苦
 しい不幸な時代を共にし、自分の誤ちと無力のために夫人が受けた苦惱と犠牲とに對して、謝罪と感
 謝の意を述べ、世間から棄てられ、嘲けられ、悲惨と病苦との永い生活を回想し、乾パンと水とのみ
 を涙と共に口にせることなどを語り、このような惱みの時にあつてわれわれに、苦しみに耐え、希望

を起させる力を與えたものは何んであつたかと言つて、聖書を夫人の胸にあて、これこそわれわれ二人の勇氣と力と平和との泉であると叫んで黙禱を捧げた。

棺は閉ぢられ、學園の庭の二本の胡桃の間に運ばれた。學園の少年少女達は哀歌を歌いつゝ棺の前に行き、棺の後にはベスタロッチーと孫のゴットリーブ、其の直ぐ後には市の當局の主なる人々と多數の市民が続いた。埋葬が終ると再び禮拜堂に歸り、そこでプロッホマン（獨逸人で牧師を父となし千八百〇九年より千八百十六年まで、即ち二十三歳から三十歳まで、イヴェルドンの教師であり、後、獨逸のドレスデンに自ら學校を開設し、ベスタロッチー精神の普及に力めた）の感激的な弔詩が發表され、ニーデラーの弔辭もあり、クロツプシュトックの美しい讚美歌を以つて式は閉ぢられた。

四十六年の間、彼の杖や柱ともなり、彼にとりては天使のような愛妻を失つたベスタロッチーは、其の後暫らくの間、夜中に人の靜まるのをまちて、胡桃の樹間に睡つてゐる亡き妻の名と、死去の日附を誌した大理石に向つて泣いて黙禱したのであつた。千八百六十六年の八月にイヴェルドンの當局は彼の女の遺骸を共同墓地に改葬し次のような銘を彫つた碑を建てた。

貧者の友、民衆の保護者、教育の改革者なるベスタロッチーの妻。

彼の献身的事業に於ける四十六年間の無二の協力者。

其の遺したる記念は永く祝福され尊敬される。

彼の女は内に屈せざる強い意志をもち、而も柔和にして親切、文藝の趣味も豊かであり、スキスの社會生活の革新、貧民の救済、新教育の樹立普及に關して、又其の家庭の妻及母としての立場に於てベスタロッチーの眞實なる協力者内助者であつた。教師間の不和の如きも、彼の女の力によりて暫らく外面に表われず、ニーデラーや、クリュージーも彼の女の在世中は學園を去るに忍びなかつたのである。われわれは實にベスタロッチーの缺點を補ひ、其の信念を貫徹させたアンナ夫人に對してはベスタロッチーに感謝すると同じ氣持で感謝せざるを得ないのである。

五、克蘭デイの貧兒學校

シユミットとニーデラーの争い、教師間の不和のため、學園の生徒の數も減じ、經濟的にだんだん

苦しくなり、借金も増して来た。再びフェレンベルクの學校と合併の相談も持ち上がったが、それも中止となつた。千八百十七年にベスタロッターの全集出版が計畫された。其の豫約勸誘文は著しくベスタロッターの品位を損つたといふのでニーデラーや、クリュージーなどがそれはシュミットの仕業だと考え、兩者間の不和の新しい原因ともなり、これを機會にニーデラーとクリュージーは遂に學園を去つてしまつた。

シュミットは此の出版の利益を以て學園經營に充當する考であつたが、ベスタロッターは其の永い間の熱望である貧民學校を創設するために費やしたいという希望であつた。彼は人間救済殊に貧兒の教育について一日も忘れることが出来なかつたので、千八百十八年九月十三日に、イヴェルドンから十分間の距離にあるクランデイに貧兒學校を開設するに至つた。全集出版については、其の豫約に於て、ロシアの皇帝、プロイセンの王、和蘭の王室、其他各方面より非常な援助と同情を得、全集の第一卷の冒頭にこれ等豫約者の姓名が掲載されてあるが、凡べての豫約者が其の署名を現金と引き換えた譯ではなく、ベスタロッターの手に入つた現金は僅かに約三千五百フランに過ぎなかつた。然るに

クランデイの貧兒學校の開設に際しては約一萬フランの支出をなし、それが三年後に漸く整理されるという状態であつた。

開設後數ヶ月で三十餘名に達した貧兒學校の生徒達の時間は、學科の教授と園藝と休養とに分られていた。環境も美しく明朗な氣持のよい生活であつた。教師の多くはイヴェルドン學園から通勤するので多少不便も感じられ、また經濟上の問題もあるので翌年の千八百十九年の七月に、イヴェルドン學園内に移され、生徒は其の知能に應じて、學園のそれぞれの學級に編入された。併し食事と寢室とは別であつた。ベスタロッターが貧兒學校をイヴェルドン學園内に移し、又其の後、市内からの貧兒をもこゝに受け入れたのである。彼は貧しい子供と富裕な子供とが一緒に仲よく、一つの大きな家庭的な學園内で育つことは、人間としての人類愛的な精神を養う上にも、將來社會人として働く場合にも互に敬愛協力して美しい生活を實現することが出来るという信念をもつて居つたのである。彼等の日々の生活は次のようなものである。

五時半に起床の鐘が鳴り、六時に最初の課業が始まる。七時には庭のポンプの側で洗濯、嚴冬でも

——次に朝食、八時から十二時まで課業、十二時晝食、二時まで休憩。二時から四時又は五時まで課業、五時から六時まで夕の禮拜及休息。六時—八時夕の課業。八時夕食。八時半、年少の生徒は就寝年長者は十時に就寝。

ホイシーという生徒は非常に優秀で後には學位をも得て教育界に働いたのであるが、彼は二年間ベスタロッチーと同じ室に寝て居り、曾つてのラームザウエルの場合の如くホイシーもまた夜中に起き上がつて、ベスタロッチーの語る所を筆話せねばならなかつた。彼の回想録の中には次ぎのように書かれてある。ベスタロッチーは著述をする場合は、何時も床の中でやる。彼は若し晝間起床してから仕事をしたいと思うと、また床についた。よく鼠色の外套を着て寝轉んで居るが、これは容易く起床が出来ようにするためであつた。彼の服には何時も寝床の羽が着いていた。大きな瘠せた體で、頭と頸とを少し前に曲げ、學園内の廊下を何にか考えながら歩き廻る。生徒に遭うと、これ呼び止め額に手をやり、髪の毛を撫でたりして一二の間を發する。よい答をすると彼は喜んで年少者にはキツスを與え、年長の生徒には頬を撫でてやる。下手な答をすると頬をビツシヤリ打つて馬鹿目と言ひ棄

て、立ち去ることも度々であつた。ベスタロッチーの孫のゴットリーブの指導でよく遠足した。夜の八時頃に集合してユラ山へ登り、其處で朝の日の出の光景を見るところのような遠足であつた。又山手の知名の人々を訪問し、朝食の後、二三時間も野原の天空の下に寝轉んで自由な浩然の氣を養うといふこともあつた。

貧兒學校がイヴェルドン學園に移されたこと、男女の共學とは、市の當局者もこれに反對し、學園の父兄に取つては不愉快であつた。退校する生徒も多くなつた。

イヴェルドンの學園に對しては獨逸や佛蘭西の人々の見學者が多かつたが、克蘭デイの貧兒學校は英國人の注意を喚起し、英國では此の教育を國內の教育にも取り入れようとする傾向を示した。其の仲介となつたものゝ中で、最も效勞あるものはグリーンヴスであつた。彼は英國での相當の商人であつたが、ナポレオン戦争の打撃を受けて其の富を失つた。彼は心機一轉精神界に立ち入り、ベスタロッチー精神を體得せるシングからベスタロッチーに關する話を聞き、大に共鳴する所があつた。シングは元來アイルランド人で千八百十四年頃にイヴェルドンに來つて、其の弟を學園に入學させ、自分

は教育の方法を研究し、ベスタロッチーからも非常に信用されていた。曾つてベスタロッチーの妻ア
ンナは病氣静養のために忠實な家政婦エリザベート共にノイホーフに歸つて居る時に、ベスタロッチ
ーは此二人宛の書面の中で、自分は今シングともう一人の人の御蔭で、啼き聲を聞くところな鳥でも
皆逃げ去る梟のような孤獨の生活から免れて居ると言つて居る。

グリーンヴスは千八百十七年にイヴェルドンに赴き、翌年創設された克蘭デイの貧民學校で無報酬
で英語を教え、千八百十九年貧兒學校と共にイヴェルドン學園に移り、英國からの見學者達を世話し
千八百二十二年に英國に歸り、今日の幼兒學校の基礎を作り、熱心にベスタロッチー主義の普及に力
めた。ベスタロッチーは三十四回の書簡の形式を以て、彼に幼兒教育の精神と方法を傳えたのであ
る。此の書簡は千八百二十七年にロンドンで出版され、千八百三十年には米國のボストンで、又千八
百九十八年にはニューヨークでも出版され、米國に於けるベスタロッチー運動に對して大きな力とな
り、克蘭デイの貧兒教育は圖らずも、ベスタロッチー主義を英米にまで普及することになつたので
ある。

六、學園の崩壊

さて、學園は其の後どうなつたかという、ベスタロッチーの異常な熱心と努力とに拘らず、遂に
崩壊の止むなきに至つたのである。經濟上に於ては益々窮迫し、シュミットの専横なやり方は學園の
内外からも嫌われ、殊に、彼は學園内で或る種の不道德な行爲を奨励したなど、という事が警察の耳に
入つたり、又シュミットはイヴェルドンでは外國人取扱になつて居るが、それに關する色々の手續を
怠つて居るといふような色々の事情によりて彼は當局者から、ワード縣内を退去するよう指令を受け
たのである。これに對して抗議がなされたけれども効果はなかつた。ベスタロッチーもシュミットの
居らない寂寥なる學園に獨りで居残ることも出来ず、千八百二十五年三月上旬にシュミットと四人の
生徒と共に故郷ノイホーフに居る孫のゴットリーブの許に歸つた。時に八十歳である。

二十年間のイヴェルドン學園の存在、克蘭デイの貧兒學校の意義、波瀾盛衰の烈しかつた二十年
味方もあり、敵もあり、眞に戦つたのである。人類救済のために戦つたのである。學園は閉鎖の運命

に遭つても、彼の精神は世界に擴がり、社會の凡べての層に影響を與えた。八十歳の老翁ベスタロッチーの胸中に果して如何なるものが往來しつゝあるか。

故山に隱退せる彼は八十年の生涯を回想して靜かに「白鳥の歌」や「生涯の運命」を書き、或る時はスキス協會の大會に出席して大に歡迎されて其の年の會長に推戴され、又或る時はブルックの文化協會に出席して教育上の論文を發表した。二十六年の夏にはシュミットと共に、ベスタロッチー方法を採用しているポイゲンの孤兒院を訪れた。院長はむしろ性惡論で、ベスタロッチーは性善という堅い信念をもつて居るにも拘らず、此の孤兒院で非常な歡迎を受けた。子供達は「リーンハルトとゲルツリート」の中に引用されたゲーテの詩を歌つた。又ベスタロッチーに解の王冠を捧げた。ベスタロッチーは涙をうかべて感激し「私は王冠をいたゞく資格はない、それは子供達のものです」といつて辭退した。

七、教 聖 の 最 後

千八百二十六年、彼の八十一歳の冬、近年にない烈しい寒さで、薪の價は暴騰し、貧しい村人は暖をとることも出来ずに凍えて居る。ベスタロッチーは黙視することが出来ない。一案を考え出した。土間に濕氣をとるために小石を積み重ね、其の上に、藁むしろのようなものを敷いたら少しは暖をとることが出来ようと思ひ、それには先ず自分で實驗した上で村人に勧めようと思ひ決した。彼は毎日野原に出て、寒さを冒して雪の中に小石を求めて拾ひ集め、自分の家の地下室へ投げ込んだ。孫のゴットリーブも後に手傳つた。八十一歳の老軀である。風を引いたものと思われ。遂に病臥の人となつた。後の人はこれを「聖なる小石の山」と言つて感激の涙をしぼつた。

此の病中にビーバーという男が、ベスタロッチーの人格、宗教、教育上の意見までも攻撃した小冊子を公にした。チューリヒの新聞の此の書物の廣告文の中に「ベスタロッチーはステッキを振り上げると逃げて隠れてしまふ或る種の動物のようなものらしい。でなければこの攻撃に對して何等かの答をする筈だ」と書いてある。八十年の間人道のために、人間救済のために文字通り心身を捧げて来たベスタロッチーに對して、實に無禮、侮辱も甚だしいものである。彼も病中で「もう我慢は出来な

い」と悲痛の叫び聲を放った。彼は醫者に、このためにもう六週間生き延びるように力添を頼んだ。病中筆を執つて反駁を試みようとした其の原稿の一部が彼の机上に残されてあつた。

私の苦んだのは自分のためではなく、私の理想のためであつた。其の結果がこのような運命である。……私の長い苦しい生涯を通して燃えつゞけて來た信念が嘲けられ踏みにじられた。私には死ぬることは何んでもない。疲れて休みたく思うので、むしろ死を歓迎する。併し犠牲の生涯を送つて失敗し、私の仕事が打ちくだかれて、其のまゝ死んで行くことは堪えられない。私は泣きたくとも涙が出ない。

このような悲痛な心情は益々病勢を重くするばかりであつた。醫者はブルックの自分の家の近くに置いて手當をしたいと希望したので、孫のゴットリーブは此の町に小さな家を借り、橋で老祖父を運んで行つた。それは千八百二十七年の二月十五日である。併しこの心盡しも水泡に歸し、刻々に臨終が迫つて來た。彼は家族を枕邊に集めて

子供等よ、汝等は私の仕事を實行することは出來ない。しかし近隣の人々に善をつくすことや

貧しい人に耕地を與えることは出來る。私は間もなく眞理の書物を読むであろう。私は敵を赦す。私が今永久の平和を見出そうとして居るように、彼等も平和を見出ださんことを。私は書き物を完成するためにモ一六週間生きたかつたのであるが、此の地上の生活から私を招き給うことを神に感謝する。子供等よ、靜かにノイホークに留まつて、汝等の家庭のうちに幸福を求めよ。

と遺言した。息を引きとる最後の瞬間に於ても、世の貧しい人々の救済に心を勞し、残れる家族をして自分の精神の幾分にも繼續して實行して呉れるように頼み込んだ。人類救済の初一念は實に彼の生涯を貫く聖なる魂であつた。

十七日の朝の六時に醫者が來た。熱もなく、苦しみなかつた。一時間許りたつてから、顔に微笑を浮べて、迎えに來た天使の翼に乗つて神の世界へ旅立つたのである。此の世にあること八十二年。病中は何時も考え深く、苦しみのひどい時もよく堪え忍び、苦しみが去ると快活で、愛情に充ち、少しの世話にも感謝し、死の瞬間に於ても幸福であつたとは家人の語る所である。偉人の最後の光景

は實に人間教化の貴い糧である。

柩は村の學校の先生達に擔がれて教會に入った。家族や、友人、村人、學校の子供達の會葬者で、質素な式であつた。

墓標は「粗末な自然石、恰度いつもの自分のような」彼は語つていた通りの粗末なものであつた。十四年の間バラが植えてあり、人間愛の美しい象徴を拜むことが出来た。アールガウ州はこの偉人の偉業に對して感謝するために、ペスタロッチーの誕生百年祭に、學校の建築の教會で新墓地を舊墓地の近くに選定して記念碑を建てた。千八百四十六年一月十二日のことである。次のような碑銘が刻まれてある。

ハインリヒ・ペスタロッチーここに眠る。一七四六年一月十二日チューリヒに生れ、一八二七年二月十七日ブルグに歿す。

ノイホーフに於ては貧民の救濟者。

シュタンツに於ては孤兒の父。

ブルグドルフ及びミュンヘンブーフゼーに於ては國民學校の創絶者。

イヴェルドンに於ては人類の教育者。

人間！ キリスト教徒！ 市民！

すべてを他のために。

毫も自らのためにせず。

彼の名に祝福あれ。

第八章 ベスタロッチーの人間観と其の教育思想

一、其の人間観

文化の創造に努力し、人間生活の向上に力を盡くすものは、人間の本質について明確に認識せねばならない。人間救済に生涯を献げたベスタロッチーは如何に人間を見て居るか、彼の人間観はどのようなものであるか。

彼は其の「隠者の夕暮」に於て、先ず人間の本質を知ることの必要から説を起して居る。王座の上にあつても、茅屋の蔭にあつても、其の本質に於て人間たることに變りがない人間よ、汝はそも何者であるか。賢人、哲人は其の人間性を明かにせねばならない。農夫は牡牛を使役しながら、其の性質を知らないのか。牧者は自分の羊の天性を究めないのか。民衆を指導し、これを護り、これを牧すると自ら稱する汝等爲政者は、民衆に對して、農夫が牡牛に對すると同じい勞苦をなしつゝあるか、牧

者が羊に對すると同じ心盡をなしつゝあるか、そもそも汝等の叡智は汝等の民衆についての知識であるか、又汝等の親切は、國民のための行きとゞいた聰明の牧者のそれのような親切であるか、能く反省して見なければならぬ。教育に當る人には、人間性の本質、兒童の發達の自然の法則を究めなくては教育は不可能である。彫刻する人は木や石の自然の姿や性質を知つてそれに即して刀を加える。農耕の人々は土の性質を吟味して栽培するではないか。

われわれは眞理を追求し、眞理を認識し、眞理を踏み行い、眞理へと向上せねばならない。眞理は我が救であり、我が本性の完成にまでわれを向上せしむる。われわれは、如何なる方法に於て此の眞理を見出だすことが出来るか。我が本性の奥深き所に、人間の本質のうちに、この眞理への開發の道があるのである。而もすべての人間は其の本質に於ては同じである。そして此を満足せしむるには唯一つの道があるのみである。純粹に、われわれの本質の最内部から吸われたる眞理は、人間に一般共通なる眞理となる。それは幾多の人々が眞理の形骸のために争つて居る所の鬭争を解決する統一的な眞理となるのである。この眞實の眞理から生ずる純粹なる淨福の力は、技巧や偶然の賜物ではない。

すべての人間のうちに其の本性の内部に存して居り、眞の完成は人間一般の要求する所である。

神に對する信仰こそはすべての人間の本性の生きた内容であり、これに基ずいて生み出だされる眞理こそは人間の眞實の叡知であらねばならない。人間の眞實の淨福の力であらねばならない。人間の本性は實に神に對する信仰其のものである。信仰はすべての眞理の母體であり、淨福の泉である。

神は遠方に居るのではない。われわれの本性のうちに呼吸して居るのである。神はわれわれの父であり、淨福の源泉であり、此の信仰に於て、われわれは如何なる暴力をもつても、如何なる墓場もわれわれの中に於て揺り動かすことの出来ない安心と力と叡智とを體得する。神に對する信仰は實に人間の本性の最高調の人間感情の情調である。これは實に神の親心を信賴する人間の子心である。ベスタロッチーはなおも言葉をつゞけて語る。

神に對する信仰は生命の安息の源泉である。生命の安息、生命の安らい、生命の落ちつきは人間の内的秩序の源泉である。信仰なくしては内部は混亂する。内的秩序があればこそ人間は混亂せず其の諸能力を働かすことが出来る。人間の諸能力を働かす場合の秩序はまた其の諸能力を叡智にまで發

展し陶冶する源泉となる。そして斯様な叡智こそは人間の淨福の源泉となることが出来る。故に神に對する信仰は、あらゆる叡智とあらゆる淨福との源泉であつて、人間を純粹に陶冶する自然の道である。信仰なくしては人間陶冶は不可能である。信仰がなければ、人間の本性は本性たる所以を失うことになる。最早人間ではないのであるから教育も陶冶も絶望とならざるを得ないのである。

更にわれわれをして、彼がスピキス週報に記して居る神に對する信仰の姿について味わわしめよ。彼神を信じ、神を畏敬し、神を愛するものには太陽は輝く。無数の星の燦たる天井が張つて居る。彼には曉の花が香つて居る。彼のものは天日の華やかさであり、夕暮の静かさであり、また神の賜物としての夜の休みである。信仰に生きる若い人の目は喜悅で微笑んで居り、壯年の人は額に朗らかな眞面目さを表わし、老人の柔和な敬虔な皺は彼の終りの日の安息を保證している。神を信する乙女は、それによりて護られ、その若き春の日を迷わずに送つて居る。美しいバラの花が其の固く護れる蕾の中から清らかに咲き出すように、乙女もまた日々の生活の中に清らかな純な姿をあらわして居る。つつましやかさと静けさとは神から悼まれたる女性の飾りである。家のために、夫のために、子のた

めに働くならば、家業は實に神を信する女性の手に於ける大きな歡喜である。

人上神への奉仕は汝自身の帽子であり、汝自身の危険に對する防禦の武器でもある。神への汝の奉仕に汝自身への奉仕である。乳呑兒が母の胸に於て、母に向つて信頼の笑をするように、地上のすべての人は全能の神に信仰を捧げることが自然である。……これは人の本性である。

智慧に於てたとえ低級であつても、オー人間よ、唯だ人間にのみ神に仕える子心としての愛がある。この愛から眞の信仰が流れ出する。信仰がなければ疲れと死と墮落とあるのみである。此の愛のない人、此の信仰のない人はまた望みもない。嫉妬や憎悪や、怒責の發揮となるのみである。神を忘れることは實に人間としての本性の軌道から離れることである。人は皆神の子であり、神性を賦與されて居る。此の故に互に相信し互に相敬愛し協力して社會生活を営むことが出来る。民主社會に於ける根本的な基本精神は實に此の信敬愛である。信には信念、信頼、信用など色々の姿があるが、要は根本は神に對する信仰である。それが纏がて人との交りに於て、物との接觸に於て文化の創造發展に於て、色々の姿を現わし來たるのである。人間の人格が平等であるというのは宗教的には人には皆神

性に恵まれて居ることを意味するのである。ペスタロッチーの根本思想は實に宗教的民主主義と言つてよいのである。

民主社會に於て正義が支配せねばならない。ペスタロッチーによれば、神に對する信仰は人類の純な親心即ち神の心を心とする親心及び同胞愛の源泉であるのみではなく、實にあらゆる正義の源泉である。而も此の正義は親心及び同胞愛としての友愛を含んで居らねばならない。さもなくば淨福の力なき光の薄い空理である。親心は常に無限の愛に充ち、すべての子供に平等に無限の愛を注ぐことが出来る。日月に私照がないように、太陽が萬物を照らすように神の心を心とする親心の愛は公平であり、正しきものである。親心の正しさは常に濫かい愛に包まれて居る。正義に基づいて叱責することは冷厳な憎悪からではない。愛の鞭である。愛あればこそ人は正しく曲らずに、素直に正しき道を求め、正しいことを實行する正義の人となることが出来る。このような親心的な家庭的正義は纏がて社會人としての生活に於ても濫かな社會的正義にまで發展することが出来るのである。

あらゆる正義が愛に基づくように、自由もまた愛に基づかねばならない。純なる子心は正義に基づ